

国立国語研究所学術情報リポジトリ

Contact dialectology and sociolinguistic typology :
Geographical distribution of the dialect in their
30s, 40s and 50s of Tohoku, Niigata and
Hokkaido

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-03-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002682

接触方言学による『言語変容類型論』の構築

—北海道と東北・新潟の30歳代から

50歳代における方言の地理的勢力分布—

見野久幸・朝日祥之(編)

2012年(平成24年)7月

接触方言学による『言語変容類型論』の構築

—北海道と東北・新潟の30歳代から
50歳代における方言の地理的勢力分布—

見野久幸・朝日祥之(編)

2012年(平成24年)7月

刊行のことば

日本国内外に移住によって形成されたコミュニティが存在している。そこには日本各地の出身者が持ち込んだ方言が接触している。その接触による言語変容が各地で生じた。その言語変容の在り方は、コミュニティの特性とどのようにかかわっているのか。このような接触方言学的関心から現在、人間文化研究機構国立国語研究所でのプロジェクト（独創・発展型）「接触方言学による『言語変容類型論』」（プロジェクトリーダー 朝日祥之）が進められている。

本報告書は、そのコミュニティを北海道に設定し、そこで生じてきた言語変容の在り方に迫るものである。北海道方言としての特徴を浮き彫りにするために、東北地方、北陸地方も調査対象地域として取り込み、同一調査票で調査データを収集している。調査も、北海道、東北、新潟にわたる101地点、総調査人数5,515人が対象となった。このような大規模調査から北海道方言の動態に迫っている。

本プロジェクトでは、こうした移民社会を対象にして実施された調査結果の報告を今度もプロジェクトの成果として刊行していく予定である。

2012年7月

人間文化研究機構 国立国語研究所 時空間変異研究系 准教授

朝日 祥之

目次

1, はじめに	7
2, 調査目的と考察の方法	7
3, 調査年と調査地ならびに調査人数	8
4, 調査地と全国方言区画地図	10
5, 東北地方(青森県・岩手県・秋田県・山形県)での旧藩領域図	11
6, 謝辞・調査協力者	12

○ 語彙編

01 「アズマシイ」①(気持ちよい)	17
02 「アズマシイ」②(満足のいく)	17
03 「アズマシイ」の①と②の使用状況	18
04 「アズマシクナイ」	18
05 「アズマシイ」と「アズマシクナイ」の使用状況	19
06 「アッペコッペ」	19
07 「イーフリコキ(イーフリコギ・イイフリコキ・イイフリコギ)」	20
08 「イッチョーマエ(イッチョマエ)」	20
09 「ウルカス(ウルガス)」	21
10 「カテル(カデル)」	21
11 「カタセル(カダセル)」	22
12 「マゼル(仲間に入れる)」	22
13 「カテル(カデル)」と「カタセル(カダセル)」と「マゼル」の使用状況	23
14 「カマス」	23
15 「カマカス(カマガス)」	24
16 「カチャマス(カッチャマス)」	24
17 「カマス」と「カマカス(カマガス)」と「カチャマス(カッチャマス)」の使用状況	25
18 「カラッポヤミ」	25
19 「ゲツパ」	26
20 「グレツパ」	26
21 「ゲツパ」と「グレツパ」の使用状況	27
22 「ゴショイモ」	27
23 「ゴッペカエス」	28
24 「コワイ」	28
25 「ゴンボホル」	29
26 「ササクレ(ササグレ)」	29
27 「サカムケ(サガムケ・サガムゲ)」	30
28 「ササクレ(ササグレ)」と「サカムケ(サガムケ・サガムゲ)」の使用状況	30

29 「ザンギ」	31
30 「シバレル」①(とても寒い)	31
31 「シバレル」②(凍る)	32
32 「シバレル」の①と②の使用状況	32
33 「シャッコイ」	33
34 「ショッパイカワ」	33
35 「ジョッピンカル」	34
36 「ジョンバ」	34
37 「カイスキ(カイシキ・ケスキ・ケシキ)」	35
38 「カイスキ(カイシキ・ケスキ・ケシキ)」と「ジョンバ」の使用状況	35
39 「ダハンコキ」	36
40 「タマゲル」	36
41 「チャランケツケル」	37
42 「チョベツト」	37
43 「テックリカエル」	38
44 「トーキビ」	38
45 「トーキミ」	39
46 「キビ」	39
47 「キミ」	40
48 「トーキビ」と「トーキミ」と「キビ」と「キミ」の使用状況	40
49 「ドサンコ」	41
50 「ドンパ」	41
51 「ナイチ」	42
52 「ナゲル」	42
53 「ナマラ」	43
54 「ナマラ」の性別での使用状況	43
55 「ウダデ(ウタテ・ウタデ)」	44
56 「ナマラ」と「ウダデ(ウタテ・ウタデ)」の使用状況	44
57 「ナンボ」	45
58 「ヌクイ」	45
59 「ハク」	46
60 「バクル」	46
61 「ハンカクサイ」	47
62 「ヘツチャラ」	47
63 「ミツタクナイ」	48
64 「ムツタリ」	48
65 「メツパ」	49
66 「メンコイ」	49
67 「モッコイ(モジョコイ)」	50
68 「コチョコバイ」	50
69 「コチョコバシイ」	51
70 「モッコイ(モジョコイ)」と「コチョコバイ」と「コチョコバシイ」の使用状況	51
71 「ルイベ」	52
72 「アオタン」	52
73 「オモシクナイ」	53

74 「ギル」	53
75 「～ケド」	54
76 「～ジャン」	54
77 「ビビル」の「怖じける」と「驚く」の使用状況	55
78 「ガメル」の「盗む」と「にらむ」の使用状況	55

○ 語法編

01 命令表現「見レ」	59
02 命令表現「起キレ」	59
03 命令表現「見レ」と「起キレ」の使用状況	60
04 自発表現「～サル」:「眠らサル」	60
05 自発表現「～サル」:「笑わサル」	61
06 状況可能表現「～サル」:「書かサル」	61
07 受身表現「～サル」:「抱かサル」	62
08 自発・可能・受身の「～サル」の使用状況	62
09 状況可能表現「～ニイイ」:「書くニイイ」	63
10 能力可能表現「～ニイイ」:「書くニイイ」	63
11 状況可能表現「～ニイイ」:「登るニイイ」	64
12 状況可能表現「～ニイイ」の使用状況	64
13 状況可能表現と能力可能表現の「～ニイイ」の使用状況	65
14 状況可能表現「～ニイイ」と「～サル」:「書くニイイ」と「書かサル」の使用状況	65
15 仮定表現: 断定の助動詞「ダラ」	66
16 仮定表現: 形容詞「一ダラ」	66
17 仮定表現: 断定の助動詞「ダラ」と形容詞「一ダラ」の使用状況	67
18 接続詞:「シタッケ」(文頭)	67
19 接続詞:「シタッケ」(文中)	68
20 接続詞:「シタッケ」の文頭と文中での使用状況	68
21 挨拶語:「シタッケ」(文頭)	69
22 挨拶語:「シタッケ」(文末)	69
23 挨拶語:「シタッケ」の文頭と文末での使用状況	70
24 無助詞表現: 格助詞「ガ」の省略	70
25 無助詞表現: 係助詞「ハ」の省略	71
26 無助詞表現: 格助詞「ヲ」の省略	71
27 無助詞表現: 格助詞「ガ」・係助詞「ハ」・格助詞「ヲ」省略の使用状況	72
28 方向の助詞:「学校 サ 行く」	72
29 方向の助詞:「山 サ 行く」	73
30 方向の助詞「～サ」の使用状況	73
31 目的の助詞:「外へ遊び サ 行く」	74
32 場所の助詞:「机の上 サ ある」	74
33 方向・目的・場所の助詞「～サ」の使用状況	75
34 推量表現「～ダベヨ」	75
35 確認表現「～ダベサ」	76

36 勧誘表現「～ベ」	76
37 勧誘表現「～ベサ」	77
38 当然表現「～ダベ」	77
39 推量・確認・勧誘表現の「～ベ」の使用状況	78
40 推量・確認・勧誘・当然表現の「～ベ」の使用状況	78
41 確認表現「～(ツ) ショ」:「傘持ってるショ」	79
42 確認表現「～(ツ) ショ」:「海に行くッショ」	79
43 確認表現「～(ツ) ショ」:「お菓子おいしいッショ」	80
44 確認表現「～(ツ) ショ」:「何とかなるッショ」	80
45 確認表現「～(ツ) ショ」:「妹、連れてって、いッショ」	81
46 確認表現「～(ツ) ショ」の使用状況	81
47 疑問の表現「～カイ」	82
48 驚き(確認の意を含む)の表現「～カイ」	82
49 勧誘の表現「～カイ」	83
50 疑問・驚き(確認の意を含む)・勧誘の表現「～カイ」の使用状況	83
51 詠嘆表現「～ダカラ」:「静かになったんだカラ。」	84
52 詠嘆表現「～ダカラ」:「怒ったんだカラ。」	84
53 詠嘆表現「～ダカラ」の使用状況	85
54 已然態・進行態の表現「～タッタ」:「居タッタ」	85
55 已然態・進行態の表現「～タッタ」:「寝タッタ」	86
56 已然態・進行態の表現「～タッタ」の使用状況	86
57 相手への配慮表現: 単独表現「ナンモ」	87
58 相手への配慮表現: 反復表現「ナンモナンモ」	87
59 相手への配慮表現: 単独表現「ナンモ」と反復表現「ナンモナンモ」の使用状況	88
60 ラ抜き表現:「来レル」	88
61 ラ抜き表現:「食べレル」	89
62 ラ抜き表現の使用状況	89
63 使役表現「～ラセル」:「食べラセル」	90
64 使役表現「～ラセル」:「来ラセル」	90
65 使役表現「～ラセル」の使用状況	91
66 仮定表現「形容詞イ+バ」:「高イバ」	91
67 仮定表現「形容詞イ+バ」:「遅イバ」	92
68 仮定表現「形容詞イ+バ」の使用状況	92
69 程度表現「タイシタ+形容詞」	93
70 程度表現「タイシタ+動詞」	93
71 程度表現「タイシタ」の使用状況	94
72 夕方の挨拶:「オバンデス」	94
73 夕方の挨拶:「オバンデシタ」	95
74 夕方の挨拶「オバンデス」と「オバンデシタ」の使用状況	95

1, はじめに

「北海道方言」とされることばの中には、北海道の風土で生まれ育ち、北海道全域に広がったことばもあるが、古く本州から津軽海峡を渡って海岸部の地域に伝播し、海岸地域の日常生活の中で使われていたことばからのものが多い。それらの多くは、東北方言圏と中部方言圏の北陸地方からのことばであり、中でも青森県、岩手県、秋田県、山形県からのものが圧倒的に多く、新潟県からのものも多い。

そのように、本州から北海道に持ち込まれ、日常生活のことばとして長い間使い続けられ、「北海道方言」といわれるようになってきていることばが、その出もとである東北地方や北陸地方でどのように使われているのか、その音韻的、意味的、勢力分布的な面からの把握が是非とも必要である。

「北海道方言」といわれていることばの東北地方や北陸地方における使用状況との比較・分析を通してはじめて、いわゆる「北海道方言」の北海道方言らしさ、北海道方言的特徴を明らかにすることができ、今まで見えていなかった「北海道方言」の実態を具体的に究明することができるからである。そのためには、北海道と東北地方、北陸地方を調査対象として、「北海道方言」といわれていることばの多地点・多人数調査をなし、それによって得られたデータに基づいて、いわゆる「北海道方言」を客観的に把握し、考察する必要がある。

近年、井上史雄氏とそのグループにより、東北と北海道でのことば(方言)の地理的・年齢的分布と動態、また、日本海側の富山県から青森県に至る日本海沿岸地域での地理的・年齢的分布と動態を明らかにする大規模な調査がおこなわれ、それぞれグロットグラム(年齢×地理図)によりその成果が公表されている(*注)。貴重な調査研究報告で、それによって、新方言のみならず、今まで把握できていなかった北海道と東北地方、北陸地方での方言の分布と動態を具体的に把握することが可能になった。しかしながらその調査は、いわゆる「北海道方言」を北海道と東北地方、北陸地方での多地点・多人数調査によってとらえ、東北地方や北陸地方と関連づけて明らかにすることを目的とする方法はとられていない。それ故、各ことばの勢力分布は残念ながらとらえることができない。

そこで、「北海道方言」の実態を明らかにすべく、先ず2007年に北海道調査を一応終え、2008年からは調査を東北地方と新潟県に延ばし、2010年までに東北地方の青森県、秋田県、山形県、岩手県の一部、そして新潟県での調査を終えた。北海道で残っていた道南方言圏の積丹半島地域の調査は2008年に、噴火湾・太平洋側地域の調査は2009年にそれぞれ終えた。岩手県の残る地点と宮城県、福島県の調査は2011年春におこなう予定であった。しかし、この度の未曾有の東日本大震災により中止せざるをえなかった。調査地101地点、調査人数5,515人の調査となった。

岩手県、宮城県、福島県での調査の継続は、少なくとも後数年はできないと思われる状況であるところから、不完全なかたちではあるが、ひとまず今までの調査によって「北海道方言」について考察することにする。

(*注) 井上史雄・鎌水兼貴・玉井高宏『東北・北海道方言の地理的・年齢的分布』(科研費研究成果報告書 2003)。井上史雄『日本海沿岸地域方言の地理的・年齢的分布』(科研費研究成果報告書 2008)。

2, 調査目的と考察の方法

本調査報告書をなすための調査では、「北海道方言」といわれている北海道で日常生活の中で使われている語(ことば)と語法(表現)を取り上げ、北海道と青森県、秋田県、山形県、岩手県の東北地方、そして新潟県を調査地域とし、調査対象者を30歳代から50歳代とした。

その目的は、「北海道方言」といわれている語や語法が、各地域の30歳代から50歳代においてどのような使用状況であるのか、また、地域間にはどのような差が認められるのかを把握し、それらのことばの地理的勢力分布、その動向と伝播の諸相を明らかにし、もって「北海道方言」といわれている語と語法の実態を具体的に究明しようとするところにある。

その目的を達成するため、各地で多地点・多人数調査の方法を探り、「北海道方言」といわれている語と語法を、青森県、秋田県、山形県、岩手県の東北地方、そして新潟県での使用状況と関連づけて考察する。

従来の「北海道方言」の考察は、東北方言や新潟方言の状況把握は切り離され、北海道内の調査データのみで言及されることが多かった。また、高年齢層と若年層とはよく調査対象とされ、言及されることが多いのに対し、30歳代から50歳代の年齢層は調査対象とされることが少なく、それ故、「北海道方言」の動向のきめ細かな考察に必要と思われるこの年齢層の資料が、高年齢層や若年層に比べて少ない。

30歳代から50歳代の年齢層は、社会での活動で中心的な年齢層であり、その社会的な位置からしてかれらの使用することばと表現は共通語に傾き、職場を離れた改まらない生活場面でも高年齢層や若年層に比べ共通語の使用が多くなっていると思われる。それ故、そのような年齢層での方言の使用実態を把握することは、高年齢層で使われている方言をどのように引き継いでいるのか、また、共通語へと急速に向かっている若年層にどのような影響を与えているのかなどを明らかにするのに資するだけでなく、今後の「北海道方言」の動向を見極める上でも大切である。

考察は、「語」と「語法」に分けて行う。考察にあたっては、先ず、回収された調査票(アンケート)を地域別・地点別に整理し、調査項目ごとの各調査地の回答人数整理表を作り、それによりパソコンにデータを入力してグラフを作成し、そのグラフに基づいて考察する方法を採る。

調査は平成の大合併以前の市町村を一つの調査単位として実施しており、方言の動態をも究明しようとする考察の目的から、グラフと考察では旧市町村名をそのまま用いる。各調査項目毎に全体を棒グラフで示して地点間、地域間での使用状況を明らかにし、意味の違い、用法の違い、同意語などの使用状況の比較は折れ線グラフによって示し、地理的勢力分布の現況、その動向と伝播を概観する方法を採る。

今まで、まとまった具体的な把握がされていない30歳代から50歳代の社会活動の中心的な年齢層における北海道での方言使用の現況と、青森県、秋田県、山形県、岩手県の東北地方、そして新潟県での方言使用の現況を関連づけて比較・分析することにより、「北海道方言」といわれている語と語法について、より深く究明することができるからである。

3, 調査年と調査地ならびに調査人数

《北海道調査》

【注記】○は、高校依頼「高校生の父母調査」(2007.1～2007.7)のデータに拠る。
 *は、「高校生の父母年齢層臨地調査」(2007.6～2007.10)のデータに拠る。
 ○*は、両調査のデータに拠る。
 他は、臨地依頼調査、臨地直接調査のデータに拠る。

調査年	調査地	調査人数
【道南方言圏地域】		
〔噴火湾・太平洋側〕		
2009	長万部 町	52人
2009	八雲 町	60人
2009	森鹿部 町	39人
2009	南茅部 町	41人
2009	南郷 村	42人
2009	戸部 町	16人
2009	* 函館 市	33人
2007	* 福島 市	48人
2007	○* 福島 市	57人
〔日本海側〕		
2007	* 松前 町	89人
2007	* 上ノ国 町	28人
2007	* 江差 町	56人
2007	○ 熊石 町	36人
2007	○ 北檜 町	24人
2007	○ 寿都 町	60人
2007	* 岩内 町	100人
2008	* 共栄 町	47人
2008	* 泊村 村	31人
2008	* 神内 村	33人
2008	* 積丹 町	13人
2007	* 古平 町	45人
2007	○ 小樽 市	68人
【日本海側道南方言圏以北地域】		
2007	○* 増毛 町	47人
2007	* 留萌 市	61人
2007	* 苫前 町	48人
2007	* 羽幌 町	43人
2007	* 天塩 町	45人
2007	* 豊浦 町	42人

2007 * 稚内市 50人

【内陸地域】

2007	○* 札幌市 手稲区	59人
2007	○ 札幌市 東区	50人
2007	* 砂川市	29人
2007	* 滝川市	52人
2007	○ 富良野市	71人
2007	* 旭川市	44人
2007	* 士別市	31人
2007	* 名寄市	45人
2007	* 北見市	75人
2007	* 遠軽町	55人

【大平洋側胆振地域】

2007	○* 伊達市	46人
2007	* 達志市	29人
2007	* 老牧市	25人
2007	* 苫小牧市	62人

【大平洋側日高地域】

2007	* 静内町	64人
2007	* 浦河町	75人
2007	* 様似町	60人
2007	○ えりも町	73人

【大平洋側道東地域】

2007	* 釧路市	55人
2007	* 厚岸町	62人
2007	* 根室市	53人

【オホーツク海側地域】

2007	* 斜里町	47人
2007	* 網走市	74人
2007	* 紋別市	67人
2007	○ 浜頓別町	54人

北海道調査地点 54地点 調査人数 2,711人

《東北・新潟調査》

調査年	調査地	調査人数
【青森県下北半島側地域】		
2008.7・10	佐井村	54人
2008.7・10	大間町	25人
2008.7・10	風間浦村	53人
2008.10	むつ市	78人
2008.10	野辺地町	62人
【青森県中央部地域】		
2008.10	青森市	106人
2009.7	弘前市	103人
【青森県津軽半島側地域】		
2008.7・10	蟹田町	56人
2008.7・10	今別町	35人
2008.7・10	三厩村	47人
2008.10	五所川原市	115人
2008.10	小泊村	53人
2008.10	小樽町	87人
2008.10	深浦町	80人
【秋田県海岸部地域】		
2009.7	能代市	74人
2009.7	男鹿市	55人
2009.7	秋田市	56人
2010.3	岩城市	16人
2010.3	本荘市	79人
2010.3	仁賀保市	35人
2009.7	象潟町	56人
【秋田県内陸部地域】		
2010.4	角館市	58人
2010.4	大曲市	59人
2010.4	横手市	28人

【山形県海岸部地域】

2010.3	遊佐町	74人
2009.7	酒田市	63人
2010.3	鶴岡市	63人
2010.4	温海市	63人

【山形県内陸部地域】

2010.4	新村市	76人
2010.4	庄山市	72人
2010.4	天童市	40人
2010.4	山形市	43人
2010.4	米沢市	67人

【岩手県海岸部地域】

2010.4	種宮市	43人
2010.4	古石町	42人
2010.4	釜石市	54人

【岩手県内陸部地域】

2010.4	二戸市	78人
2010.4	遠野市	58人

【新潟県海岸部地域】

2010.3	府村町	46人
2010.3	屋上町	42人
2010.3	神林町	57人
2010.3	新潟市	70人
2010.3	新出雲崎町	29人
2010.4	直江津市	61人

【新潟県内陸部地域】

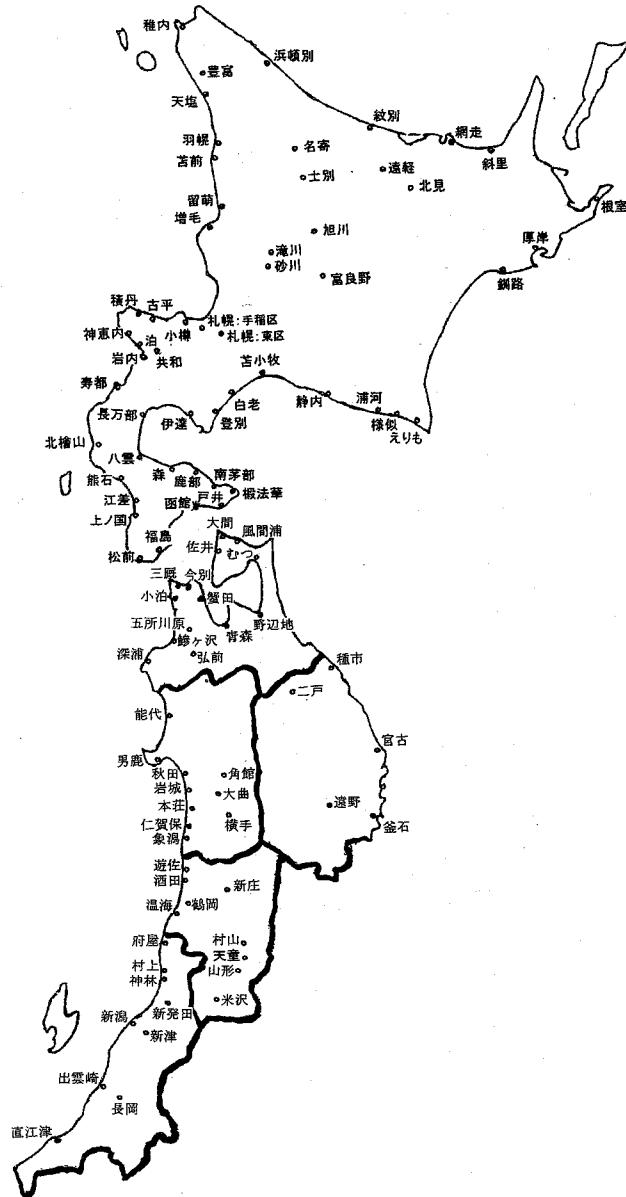
2010.3	新発田市	65人
2010.4	新潟市	84人
2010.4	長岡市	44人

東北・新潟調査地点 47地点 調査人数 2,804人

総調査地点101地点 総調査人数 5,515人

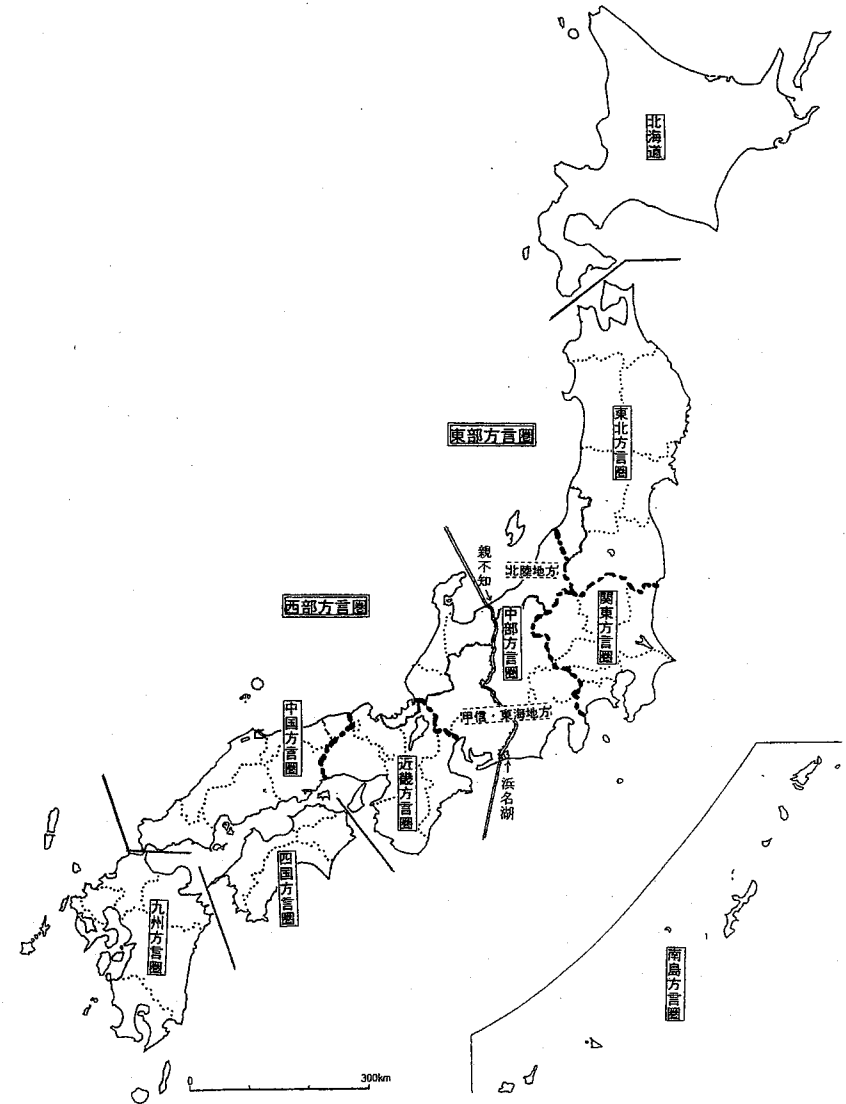
4, 調査地と全国方言区画地図

【調査地】

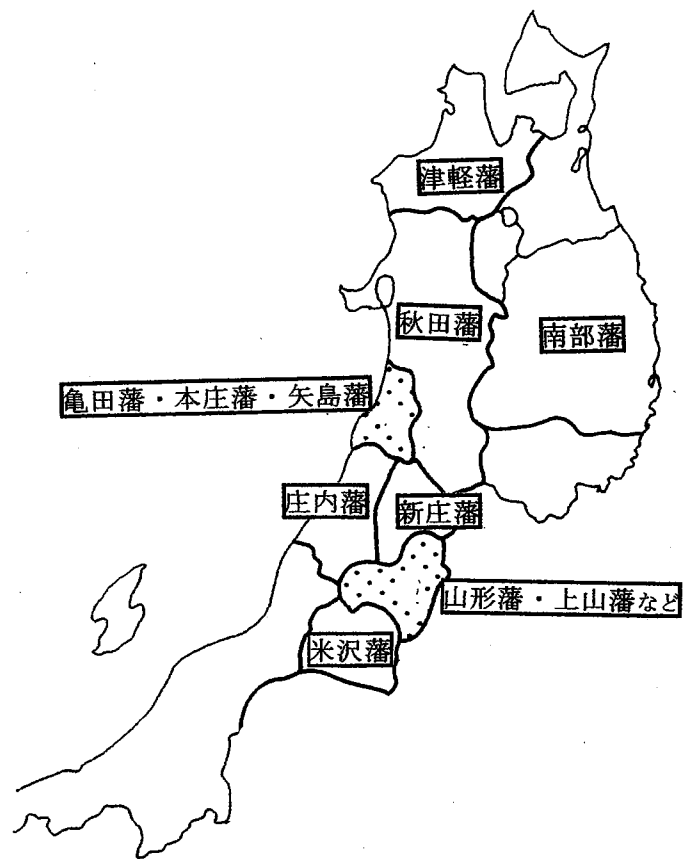


【全国方言区画地図】

この考察のための全国方言区画地図を載せます。方言の全国区画については、細部では説がわかれるところもありますが、ここでは一般的な方言区画地図に拠ることにします。



5, 東北地方（青森県・岩手県・秋田県・山形県）での 旧藩領域図



【注】上図は、加藤正信・佐藤武義・前田富祺著『方言に生きる古語』に掲載の旧藩領域の図に拠って作成した。

6, 謝辞・調査協力者

調査は2007年から2010年の4年間で実施した。その間、北海道と東北の青森県・秋田県・山形県・岩手県、そして新潟県の101地点、5,515人の方々のご協力により、本考察のデータを得ることができた。データをお与えくださった方々に心よりお礼申し上げる。

このような広域にわたっての多地点・多人数調査ができたのは、各調査地でお力添えをくださった方々のご温情によるところが大きい。アンケート用紙の配布、集約から、返送までなさってください、また、調査にあたりご助言をいただいた。

本調査報告書により、今まで具体的な把握ができていなかった「北海道方言」と東北方言、新潟方言との関わりと勢力分布の状況を明らかにすることができたのは、お力添えくださった方々のご尽力による。ここに記し、心より感謝申し上げます。〔()内は調査時点で、敬称は略す。〕

【北海道】

- 001 滑川 剛 (長万部町教育委員会)
- 002 米代 剛 (長万部町教育委員会)
- 003 三坂 亮司 (八雲町教育委員会)
- 004 片野 滋 (森町教育委員会)
- 005 渡辺 康文 (鹿部町教育委員会)
- 006 藤重 重人 (鹿部町漁業協同組合)
- 007 飯田 敏次 (函館市教育委員会南茅部教育事務所)
- 008 中易 正明 (南かやべ漁業協同組合川汲支所)
- 009 三ツ石 悟 (函館市教育委員会楸法華教育事務所)
- 010 杉山 和行 (えさん漁業協同組合楸法華支所)
- 011 山下 勝 (函館市役所戸井支所)
- 012 木村 栄治 (北海道福島商業高等学校)
- 013 若佐 智弘 (松前町役場)
- 014 滝谷 義一 (松前さくら漁業協同組合)
- 015 木村 朝子 (上ノ国町役場)
- 016 布施 麻希子 (江差町役場)
- 017 三鹿 裕明 (北海道熊石高等学校)
- 018 鯨井 修 (北海道檜山北高等学校)
- 019 宮澤 正行 (北海道寿都高等学校)
- 020 伊藤 喜良 (岩内町役場)
- 021 濱 秀宏 (岩内町役場)
- 022 大島 恭介 (共和町教育委員会)
- 023 小林 宣弘 (共和町農業協同組合)
- 024 長尾 透 (泊村教育委員会)
- 025 岩田 好美 (神恵内村教育委員会)
- 026 小林 直 (古平漁業協同組合)

- 027 末神 敏昭 (北海道小樽潮陵高等学校)
- 028 中島 洋史 (北海道小樽潮陵高等学校)
- 029 上田 啓輔 (北海道増毛高等学校)
- 030 御代 裕昭 (増毛町役場)
- 031 増岡 秀夫 (留萌市役所)
- 032 成川 敬 (苫前町役場)
- 033 宇佐美 雅巳 (北留萌消防組合消防署苫前支署)
- 034 田澤 己栄樹 (苫前郵便局)
- 035 本間 幸広 (羽幌町役場)
- 036 川端 聡 (天塩町役場)
- 037 板垣 寿徳 (豊臣町役場)
- 038 堀江 美奈 (稚内市役所)
- 039 津田 剛志 (札幌市手稲区役所)
- 040 岡部 敦 (北海道札幌手稲高等学校)
- 041 及川 雅晴 (北海道札幌東陵高等学校)
- 042 乾 成美 (北海道札幌東陵高等学校)
- 043 東 正人 (砂川市役所)
- 044 高瀬 慎二郎 (滝川市役所)
- 045 井上 文二 (北海道富良野高等学校)
- 046 芦田 修一 (北見市役所)
- 047 大貫 雅英 (遠軽町役場)
- 048 成田 準 (北海道伊達高等学校)
- 049 伊藤 俊光 (苫小牧市役所)
- 050 毛利 よし子 (苫小牧市役所)
- 051 田辺 貞次 (新ひだか町役場)
- 052 柴田 隆 (新ひだか町役場)
- 053 本郷 梨香 (浦河町役場)
- 054 細川 千枝 (様似町役場)
- 055 田宮 司 (北海道えりも高等学校)
- 056 平船 昭宏 (釧路市役所)
- 057 北川 勝雄 (厚岸町教育委員会)
- 058 熊崎 農夫博 (厚岸町教育委員会)
- 059 谷口 博之 (根室市役所)
- 060 川島 雄司 (斜里町役場)
- 061 和田 俊太郎 (網走市役所)
- 062 田中 優二 (紋別市役所)
- 063 森 実三保子 (北海道浜頓別高等学校)

【青森県】

- 064 滝本 正憲 (佐井村教育委員会)
- 065 内田 誠一 (佐井村漁業協同組合)
- 066 興村 慎吾 (大間町教育委員会)

- 067 石戸 益美 (大間町商工会)
 068 小浜 哲夫 (大間漁業協同組合)
 069 松谷 幸夫 (大間町細間道)
 070 能渡 善行 (風間浦村役場)
 071 土井 豊 (風間浦村教育委員会)
 072 宮古 大靖 (風間浦村易国間漁業協同組合)
 073 横浜 義秋 (風間浦村易国間)
 074 村口 要太郎 (風間浦村易国間)
 075 村口 節子 (風間浦村易国間)
 076 青山 高志 (むつ市教育委員会)
 077 山本文三 (むつ市商店街)
 078 成田 桂子 (むつ市商店街)
 079 橋本 邦夫 (野辺地町役場)
 080 高坂 和麿 (青森市役所)
 081 安田 光孝 (青森市商店街)
 082 渡辺 茂義 (青森市商店街)
 083 菅野 昌子 (弘前市役所)
 084 小中 雄治 (弘前市土手町)
 085 久保田 (弘前市中土手町商店街)
 086 山崎 賢 (弘前市上土手町商店街)
 087 三上 豊 (外ヶ浜町教育委員会)
 088 工藤 豪 (外ヶ浜町蟹田)
 089 本郷 光成 (今別町教育委員会)
 090 柏谷 謙治 (竜飛今別漁業協同組合)
 091 秋田 幸則 (外ヶ浜町役場三厩支所)
 092 山田 清昭 (外ヶ浜町字三厩本町)
 093 川村 修蔵 (竜飛今別漁業協同組合)
 094 古川 竜大 (五所川原市役所)
 095 鱒田 義光 (五所川原市商店会)
 096 工藤 邦昭 (五所川原市商店会)
 097 磯野 政雄 (中泊町役場小泊支所)
 098 小野 清秋 (中泊町小泊)
 099 横野 昭治 (中泊町小泊)
 100 兼岡 正英 (鱒ヶ沢町教育委員会)
 101 若松 修 (鱒ヶ沢町商店会)
 102 宮本 満 (深浦町教育委員会)
 103 伊東 信 (深浦町教育委員会)

【秋田県】

- 104 伊藤 勉 (能代市役所)
 105 鎌田 (能代市役所)
 106 山田 政信 (男鹿市役所)

- 107 青木 巖 (秋田市役所)
 108 須田 泰史 (由利本荘市岩城総合支所)
 109 渡部 進 (由利本荘市岩城総合支所)
 110 三浦 千尋 (由利本荘市役所)
 111 安倍 はと子 (にかほ市役所にかほ庁舎)
 112 須田 慎人 (にかほ市役所象潟庁舎)
 113 須田 泰史 (にかほ市役所象潟庁舎)
 114 斎藤 (仙北市役所)
 115 山形 幸子 (仙北市教育委員会)
 116 厨川 信之 (大仙市役所)
 117 栗林 弥生 (横手市役所)

【山形県】

- 118 東海林 エリ (遊佐町役場)
 119 長尾 和浩 (酒田市教育委員会)
 120 佐藤 英夫 (酒田市中通り商店街)
 121 菊池 恒夫 (酒田市中通り商店街)
 122 木村 久 (鶴岡市役所)
 123 三浦 市樹 (鶴岡市温海庁舎)
 124 川又 秀昭 (新庄市役所)
 125 細谷 充 (村山市役所)
 126 柴田 明 (村山市役所)
 127 斎藤 (天童市役所)
 128 高橋 仁 (天童市役所)
 129 大場 隆志 (山形市役所)
 130 菅野 紀生 (米沢市役所)

【岩手県】

- 131 滝川 幸弘 (洋野町役場)
 132 盛合 光成 (宮古市役所)
 133 中村 達也 (釜石市役所)
 134 高瀬 政広 (二戸市役所)
 135 菊池 寿 (遠野市役所)
 136 前川 さおり (遠野市教育委員会)

【新潟県】

- 137 菅原 寿 (村上市役所山北支所)
 138 本間 清 (村上市役所山北支所)
 139 川村 勇治 (村上市役所)
 140 佐藤 博 (村上市役所神林支所)
 141 山本 剛広 (新潟市役所)
 142 金泉 修一 (出雲崎町役場)

- 143松永 (出雲崎町役場)
- 144小池兼一郎 (上越市役所)
- 145山崎 剛 (上越市役所)
- 146八幡 (上越市役所)
- 147小泉由岐子 (新発田市役所)
- 148倉島 (新発田市役所)
- 149高橋 穰 (新潟市秋葉区役所)
- 150田辺 亮 (長岡市役所)

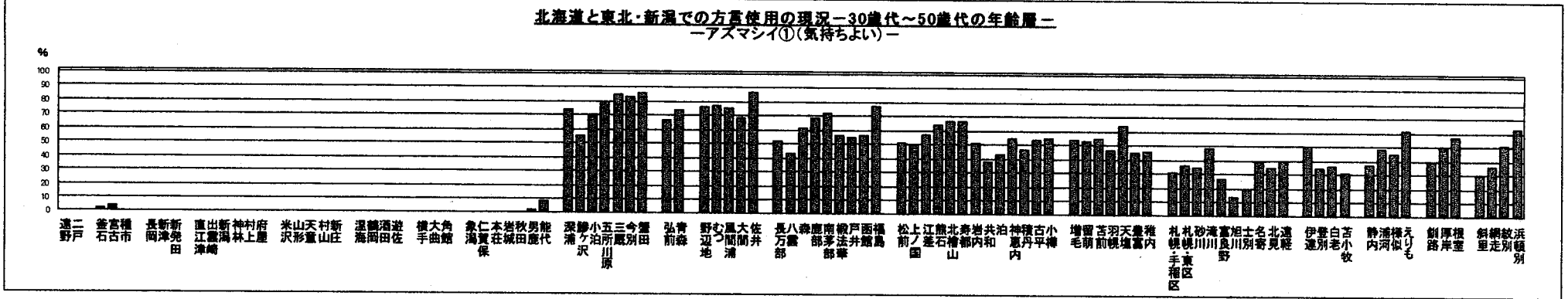
岩手県の二戸、遠野、釜石、宮古、種市(現洋野町)の調査は2010年の3月下旬から4月上旬にかけて実施し、地域の方々のお力添え、ご協力により、多くの貴重なデータのご提供をいただいた。それらの方々の中には、この度の東日本大震災で被災された方々、また、不幸にしてお亡くなりになった方が居られることをとても残念に思う。被災なされた方々にお見舞い申し上げ、一日もはやい復興を祈念申し上げます。また、お亡くなりになった方に衷心より哀悼の意を捧げ、ご冥福をお祈り申し上げます。

お力添え、ご協力によりお与えくださったデータによるこの調査報告書を、被災前、また、ご生前にお届けすることができなかったことをお詫び申し上げますとともに、お亡くなりになった方の御霊に捧げ、改めてお礼申し上げます、感謝申し上げます。

(2012.4.8記)

誦彙編

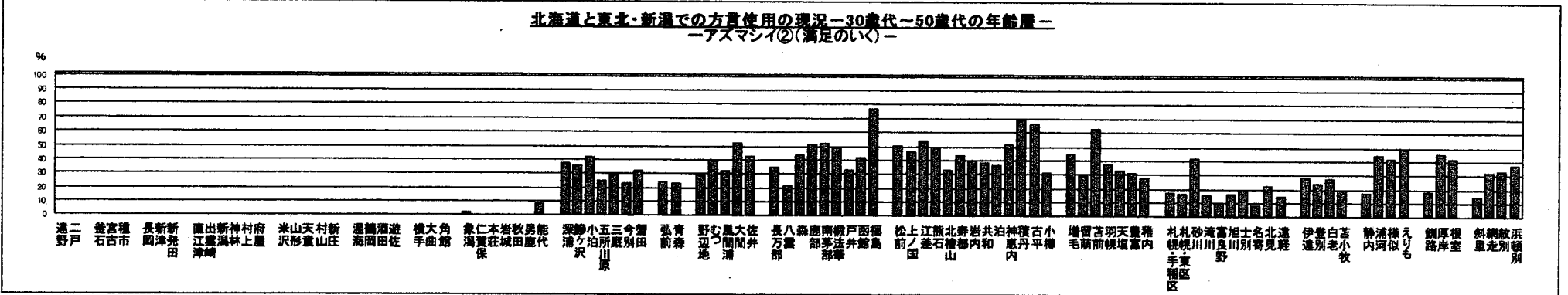
01 ■ 「アズマシイ」① (気持ちよい)



◇ 「気持ちよい」の意味で「アズマシイ」を使うかを問う。

青森県、北海道で勢力があり、青森県で優勢である。青森県では、中央部、津軽半島部、下北半島部とともに勢力があり、津軽半島部でやや優勢である。秋田県では、青森県寄り海岸部の能代、男鹿で微弱で、他の海岸部、内陸部では全く勢力がない。山形県では、海岸部、内陸部ともに全く勢力がない。岩手県では、海岸部の釜石、宮古で微弱で、内陸部では全く勢力がない。新潟県では海岸部、内陸部ともに全く勢力がない。北海道では、道南方言圏の南側で勢力のある地点が比較的多く、北側の積丹半島部とそれ以北の日本海側地域ではそれに次ぐ勢力状況である。太平洋側の日高地域、道東地域、オホーツク海側地域では、それぞれ先端地のえりも、根室、浜頓別で比較的勢力がある。太平洋側の胆振地域と内陸部では他の地域に比べて勢力が弱く、内陸部では道北の旭川、士別で弱い状況である。

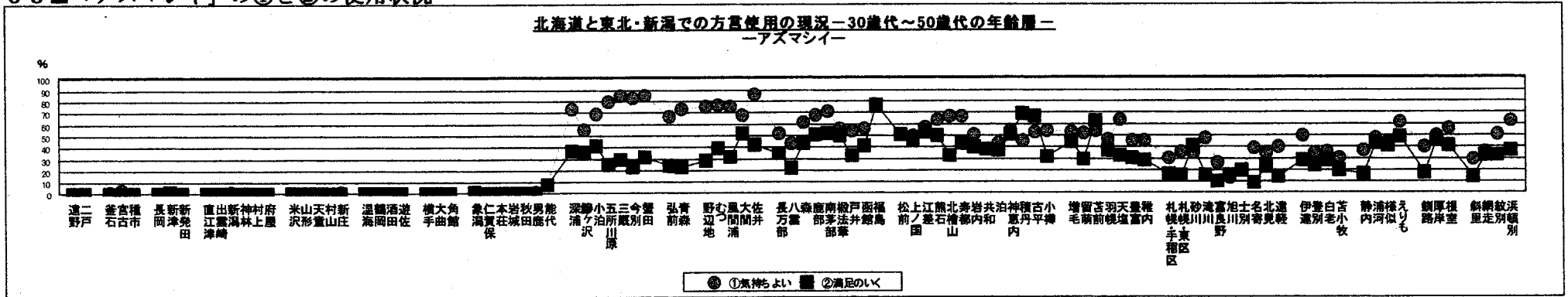
02 ■ 「アズマシイ」② (満足のいく)



◇ 「十分な・満足のいく」の意味で「アズマシイ」を使うかを問う。

青森県、北海道で勢力があり、北海道の道南方言圏で優勢である。青森県では、津軽半島部、下北半島部で比較的勢力がある。秋田県では、青森県寄り海岸部の能代で微弱で、海岸部の他の地点ではほとんど勢力がなく、内陸部では全く勢力がない。岩手県、山形県、新潟県では海岸部、内陸部ともに全く勢力がない。北海道では、道南方言圏で優勢で、中でも南側で勢力のある地点が比較的多く、北側の積丹半島部でも勢力がある。道南方言圏以北の日本海側地域、太平洋側の日高地域と道東地域、オホーツク海側地域では、それに次いで比較的勢力があるが、太平洋側の胆振地域では勢力は弱い。内陸部では、道央の砂川で勢力があるが、海岸部に比較して勢力が弱い地点が多い状況である。

03 ■ 「アズマシイ」の①と②の使用状況

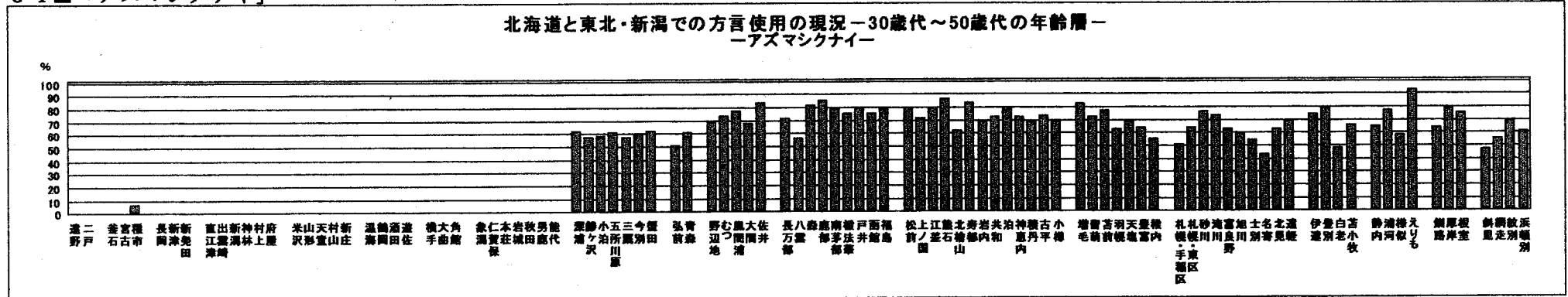


◇ 「アズマシイ」の①「気持ちよい」と②「十分な・満足いく」の使用状況を見る。

「アズマシイ」は、青森県から北上して北海道に伝播しているが、秋田県や山形県、岩手県方面への南下は弱かったようで、その勢力はほとんど見られない。「アズマシイ」に見られるこのような青森県と北海道との強い繋がり、北海道全域への「アズマシイ」の勢力拡大は、青森県と北海道との長い歴史的關係、とりわけ、練場時代の青森県側からの大勢の漁夫の渡道が背景にあってのことと思われる。

「アズマシイ」は、青森県では「気持ちよい」の意味合いで使われることが多く、「満足いく」の意味合いで使われることはそれに比べて少ない。それに対し、北海道では「気持ちよい」と「十分な・満足いく」には大きな差がない使用となっている。

04 ■ 「アズマシクナイ」

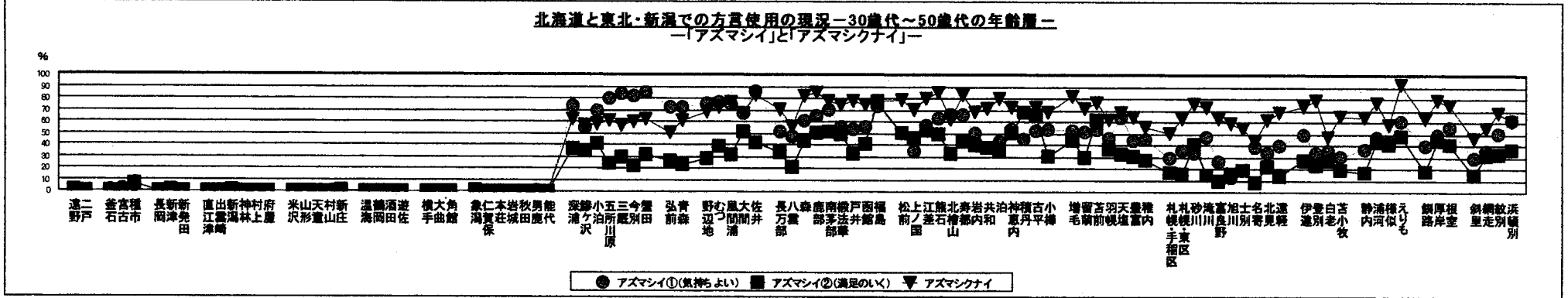


◇ 「アズマシイ」の否定形「アズマシクナイ」を使うかを問う。

青森県、北海道で勢力があり、北海道で優勢である。青森県では、中央部、津軽半島部、下北半島部で勢力があり、下北半島部で優勢で、北海道の道南方言圏に連なっている勢力状況である。岩手県では海岸部南側の釜石で微弱であるが、他の海岸部、内陸部では全く勢力がない。秋田県、山形県、新潟県では海岸部、内陸部ともに全く勢力がない状況である。

北海道では、道南方言圏でいくぶん優勢で、道南方言圏以北の日本海側地域、太平洋側の日高地域、道東地域ではそれに劣らない勢力状況である。太平洋側の胆振地域、オホーツク海側地域、内陸部では比較的勢力の弱い地点が見られる状況である。

05 ■ 「アズマシイ」と「アズマシクナイ」の使用状況

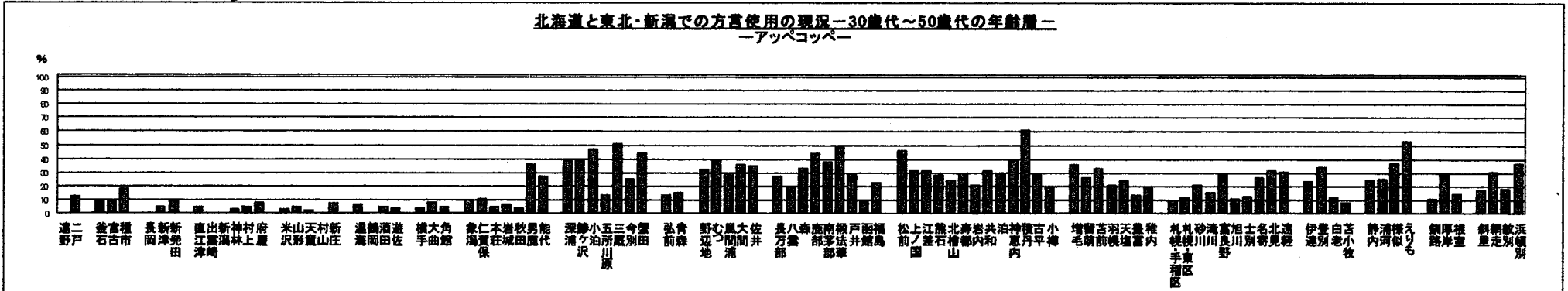


◇ 「アズマシイ」の①「気持ちよい」②「十分な・満足 of いく」と否定形「アズマシクナイ」の使用状況を見る。

青森県では、「気持ちよい」の意味での「アズマシイ」が優勢で、否定形「アズマシクナイ」がそれに次ぎ、それらに比べ、「十分な・満足 of いく」の意味での「アズマシイ」の使用は、勢力が弱い状況である。「気持ちよい」の意味での「アズマシイ」と否定形「アズマシクナイ」の勢力は、下北半島部では拮抗状態であるが、中央部、津軽半島部では、「気持ちよい」の「アズマシイ」の勢力が強く、津軽半島部で優勢である。

北海道では、否定形「アズマシクナイ」が「アズマシイ」を凌いで全域で優勢で、「気持ちよい」の意味での「アズマシイ」と「十分な・満足 of いく」の意味での「アズマシイ」の使用は、「気持ちよい」がいくぶん優勢ではあるが、青森県でのように「十分な・満足 of いく」と大きな勢力差は見られない。

06 ■ 「アッペコッペ」



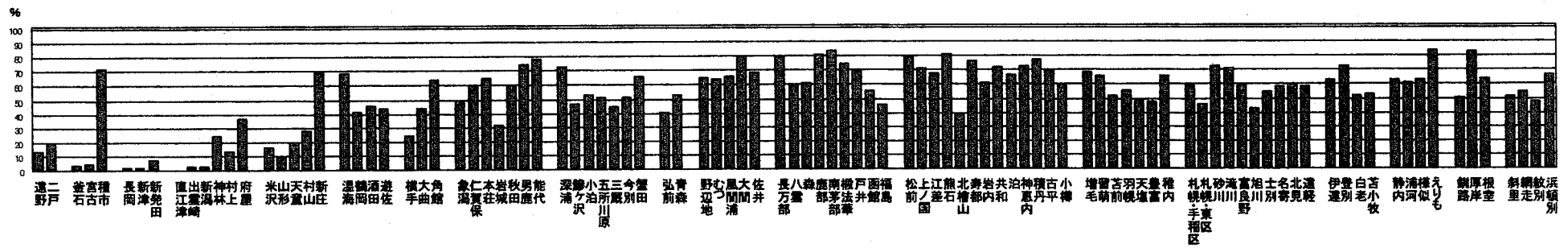
◇ 「反対・逆」の意味で「アッペコッペ」を使うかを問う。

青森県、北海道で勢力があり、青森県と北海道の道南方言圏で優勢である。青森県では、中央部で勢力が弱く、下北半島部、津軽半島部の海岸地域で勢力がある。秋田県では、青森県寄り海岸部の能代、男鹿では勢力があるが、秋田以南の海岸部、内陸部では微弱である。岩手県では、海岸部、内陸部ともに弱い勢力状況である。山形県、新潟県では、海岸部、内陸部ともに微弱である。

北海道では、道南方言圏の南側、北側の積丹半島部先端地の積丹で勢力があり、優勢である。太平洋側日高地域の先端地えりもでも優勢である。内陸部では勢力の微弱な地点が多い状況である。

07 ■ 「イーフリコキ (イーフリコギ・イイフリコキ・イイフリコギ)」

北海道と東北・新潟での方言使用の現況—30歳代～50歳代の年齢層—
—イーフリコキ(イーフリコギ・イイフリコキ・イイフリコギ)—

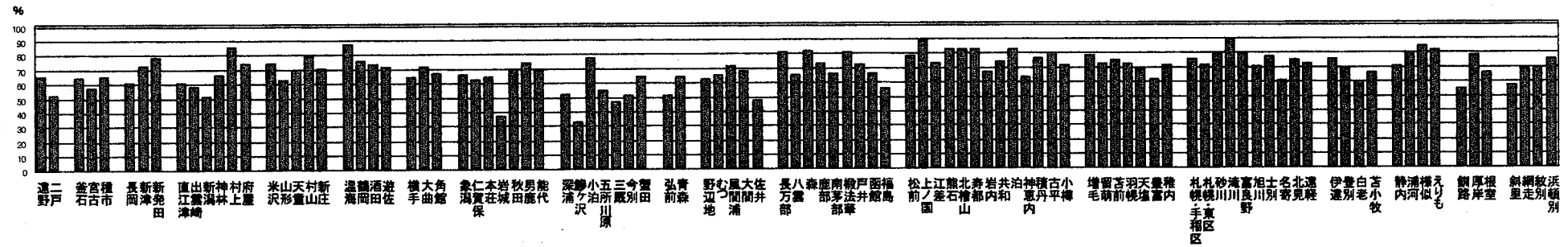


◇「見栄を張る・派手にする人」の意味で「イーフリコキ (イーフリコギ・イイフリコキ・イイフリコギ)」を使うかを問う。

青森県、秋田県、山形県、北海道で勢力があり、北海道の道南方言圏で優勢な傾向である。青森県では、下北半島部、津軽半島部秋田寄りの深浦で比較的優勢である。秋田県では、青森県寄り海岸部の能代、男鹿で優勢である。山形県では、海岸部で優勢で、南側の温海で勢力があり、内陸部では青森県寄りの新庄で勢力があるが他の地点では弱い状況である。岩手県では青森県寄り海岸部の種市で極めて勢力があるが、海岸部の他の地点では微弱で、内陸部では弱い状況である。新潟県では、新潟以北の海岸部で勢力が見られるものの、新潟以南の海岸部、そして内陸部では微弱である。北海道では、道南方言圏で勢力の強い地点が多い中、農業が主産業の北檜山では弱い。太平洋側日高地域の先端地えりも、道東地域の厚岸で勢力が強い。

08 ■ 「イッチョーマエ (イッチョマエ)」

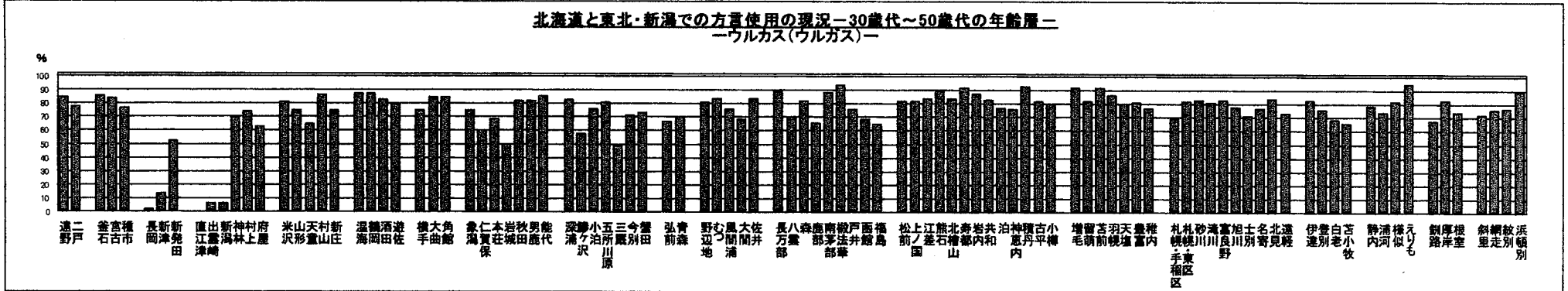
北海道と東北・新潟での方言使用の現況—30歳代～50歳代の年齢層—
—イッチョーマエ(イッチョマエ)—



◇「一人前」の意味で「イッチョーマエ (イッチョマエ)」を使うかを問う。

青森県、秋田県、山形県、岩手県、新潟県、北海道で勢力があり、北海道でいくぶん優勢な傾向である。青森県では、津軽半島部に勢力の弱い地点が多い。秋田県では、海岸部の岩城で勢力が弱い、海岸部の他の地点と内陸部では差のない勢力状況である。山形県では、海岸部、内陸部ともに勢力がある。岩手県では、海岸部、内陸部で同じよう、いくぶん弱い勢力状況である。新潟県では、海岸部、内陸部ともに新潟以北で優勢である。北海道では、全道的に勢力があり、海岸部、内陸部で大きな差のない状況であるが、太平洋側の胆振地域、道東地域、オホーツク海側の地域でいくぶん勢力が弱い傾向である。

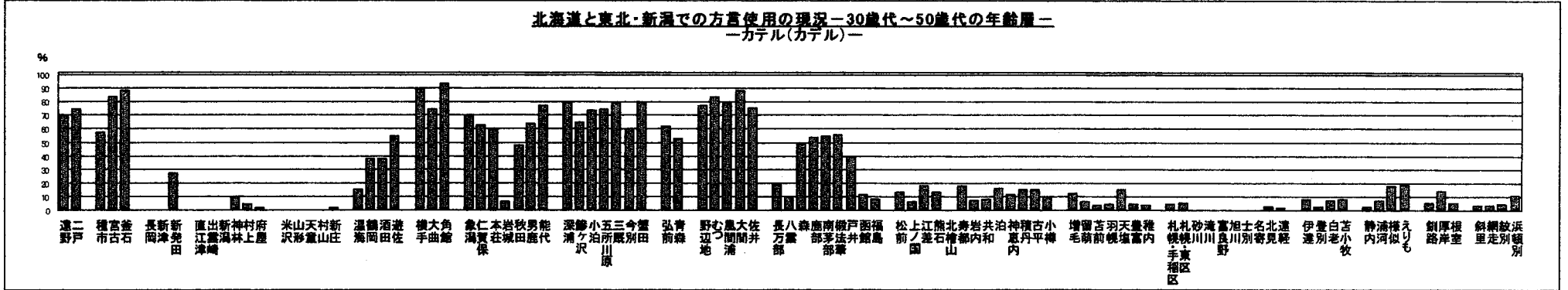
09 ■ 「ウルカス (ウルガス)」



◇ 「水に浸す」の意味で「ウルカス (ウルガス)」を使うかを問う。

青森県、秋田県、山形県、岩手県、北海道で勢力があり、山形県、岩手県、北海道でいくぶん優勢な傾向である。それぞれ、海岸部、内陸部で大きな差は見られない状況であるが、青森県では、津軽半島部に、秋田県では、秋田以南の海岸部にいくぶん勢力の弱い地点が見られる。山形県、岩手県では、海岸部、内陸部ともに勢力があり、大きな差はない。新潟県では、海岸部、内陸部ともに新潟以北で勢力があるが、新潟以南では勢力が微弱な状況である。北海道では、全道的に勢力があるが、日本海側地域で太平洋側やオホーツク海側の地域よりもいくぶん優勢な傾向で、道南方言圏の日本海側と太平洋側でも同じような状況である。太平洋側日高先端地のえりも、オホーツク海側先端地の浜頓別では地域内の他の地点より優勢な状況である。

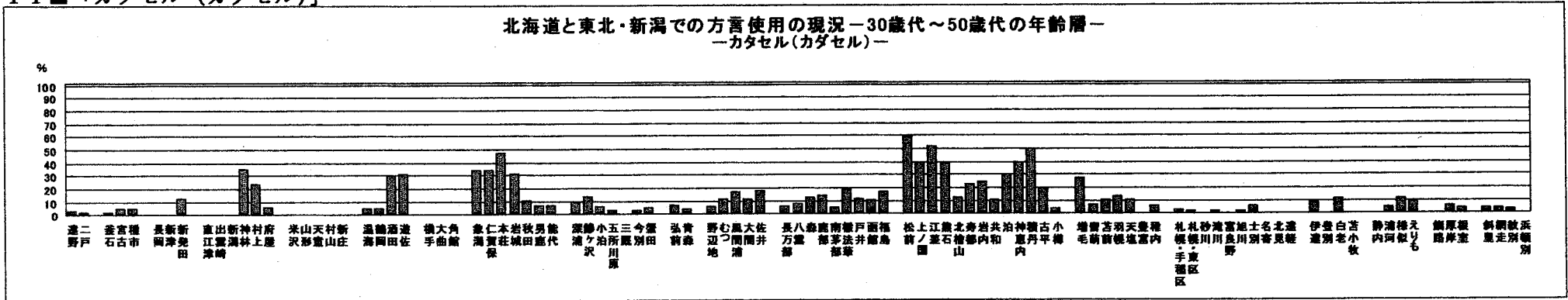
10 ■ 「カテル (カデル)」



◇ 「仲間に入れる」の意味で「カテル (カデル)」を使うかを問う。

青森県、秋田県、岩手県で優勢である。山形県の海岸部、北海道の道南方言圏太平洋側でも勢力がある。青森県では、津軽半島部、下北半島部で優勢で、中央部ではそれに比べて勢力が弱い。秋田県では、内陸部で優勢で、海岸部の岩城では微弱である。岩手県では、海岸部、内陸部で大きな差がなく、勢力がある。山形県では、海岸部で勢力があるが、南下するに従い弱くなっている。内陸部では北の新庄で微弱で、他の地点では全く勢力がない。新潟県では、海岸部では新潟以北の地域で微弱で、内陸部でも新潟以北の新発田で勢力があるが、海岸部、内陸部ともに新潟以南では全く勢力がない。北海道では、道南方言圏の太平洋側で強くはないが勢力があり、亀田半島の先端地域から噴火湾側で優勢で、道南方言圏の日本海側や道南方言圏以北の日本海側、太平洋側の日高、道東地域では弱く、太平洋側の胆振地域、オホーツク海側の地域では微弱である。内陸部では極めて微弱である。

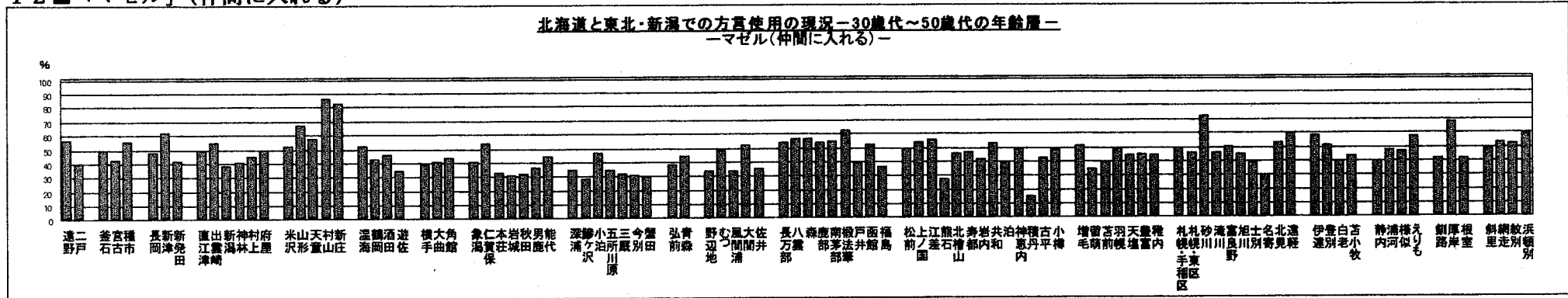
1 1 ■ 「カタセル (カダセル)」



◇「仲間に入れる」の意味で「カタセル (カダセル)」を使うかを問う。

秋田県の海岸部、山形県の海岸部、新潟県の新潟以北の海岸部、北海道の道南方言圏の日本海側、道南方言圏以北の日本海側で、強くはないが勢力がある。青森県では、中央部、津軽半島部、下北半島部ともに勢力が弱い。秋田県、山形県の内陸部では全く勢力がない。岩手県では、海岸部、内陸部ともに微弱である。新潟県では、海岸部、内陸部ともに新潟以北では勢力が見られるが、内陸部では弱く、新潟以南では海岸部、内陸部ともに全く勢力がない。北海道では、道南方言圏の日本海側で勢力があり、南側の松前・上ノ国・江差・熊石、北側の積丹半島先端地域で優勢である。太平洋側の胆振地域、日高地域では極めて弱く、道東地域、オホーツク海側の地域では微弱である。内陸部では極めて微弱な状況である。

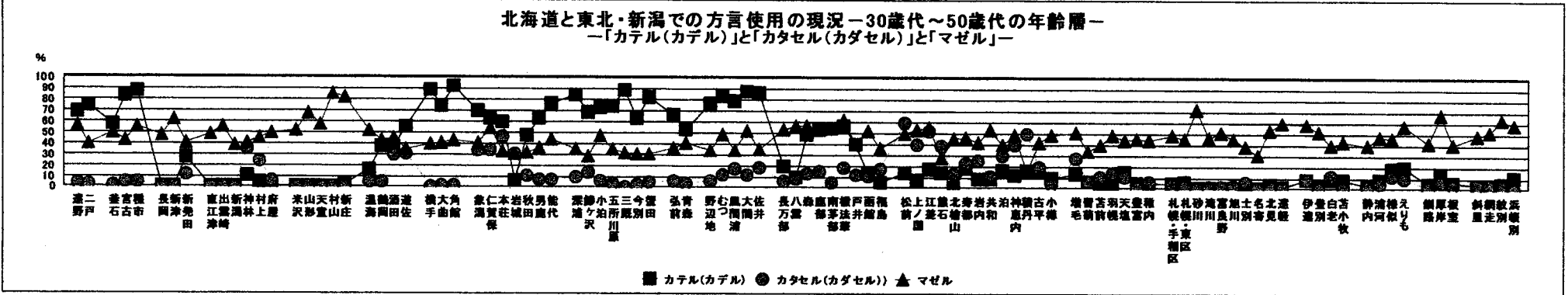
1 2 ■ 「マゼル」(仲間に入れる)



◇「仲間に入れる」の意味で「マゼル」を使うかを問う。

青森県、秋田県、山形県、岩手県、新潟県、北海道と広域に渡って勢力があり、山形県の内陸部で優勢である。青森県、秋田県、そして、山形県の海岸部ではやや勢力が弱い傾向である。北海道では、海岸部と内陸部の地域間に大きな使用差は見られない状況であるが、海岸部では、道南方言圏南側の日本海側の熊石と、北側の積丹半島先端地の積丹で勢力が弱い状況である。内陸部では、道央の砂川で勢力が強く、優勢な状況である。

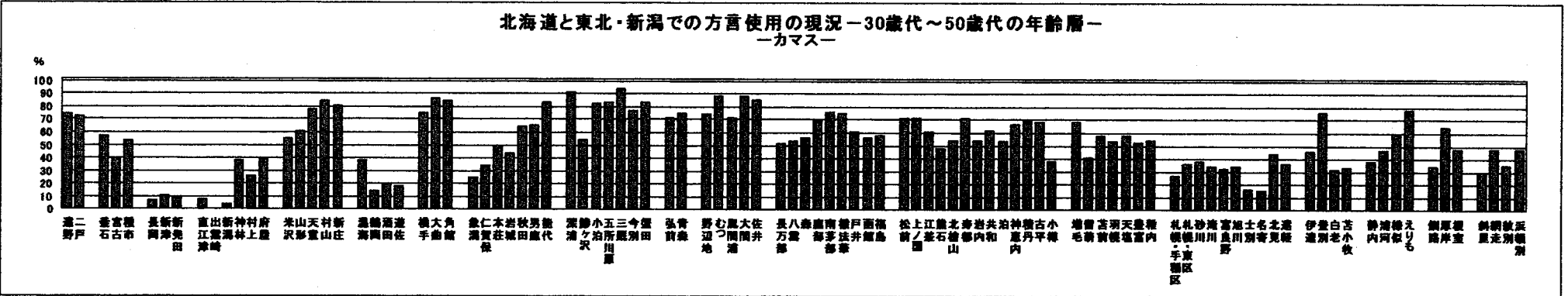
1.3 「カテル (カデル)」と「カタセル (カダセル)」と「マゼル」の使用状況



◇ 「カテル (カデル)」、「カタセル (カダセル)」、「マゼル」の使用状況を見る。

「カテル (カデル)」は、青森県、秋田県、岩手県の東北北部で極めて優勢で、山形県海岸部の庄内地方でも勢力がある。山形県の内陸部と新潟県では勢力がない。北海道では、道南方言圏の太平洋側で優勢で、日本海側、太平洋側の日高地域先端地の様似、えりも、道東地域でもいくぶん勢力がある。内陸部では殆ど勢力がない。「カタセル (カダセル)」は、新潟県、山形県、秋田県の北前船の寄港地であったところで勢力があり、秋田県と山形県の内陸部、岩手県では殆ど勢力がない。北海道では道南方言圏日本海側の松前、上ノ国、江差、熊石、積丹半島部で優勢で、それ以北の日本海側でも勢力があるが、太平洋側やオホーツク海側、内陸部では殆ど勢力がない。「マゼル」は、山形県から新潟県にかけて優勢で、北海道でも全道的に優勢である。

1.4 「カマス」

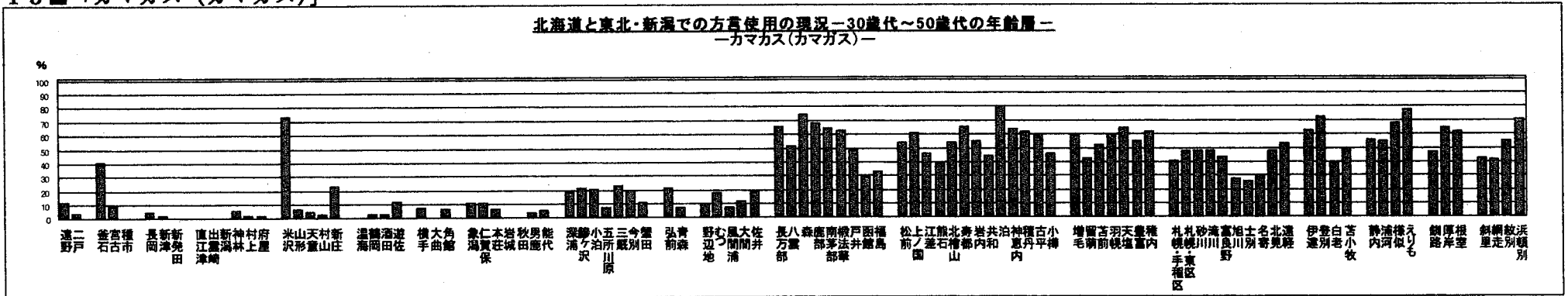


◇ 「掻き回す」の意味で「カマス」を使うかを問う。

青森県、秋田県、山形県、岩手県、北海道で勢力があり、青森県、秋田県の内陸部、山形県の内陸部で優勢である。青森県では、中央部、津軽半島部、下北半島部で勢力があるが、中央部でいくぶん弱い。秋田県では、青森県寄りの海岸部では勢力があるが、南下するに従って勢力が弱くなっている。山形県では、海岸部で勢力が弱く、内陸部との使用差が大きく、内陸部では南下するに従い勢力が弱くなっている。岩手県では、内陸部でいくぶん優勢な状況である。新潟県では、新潟以北の海岸部では勢力があるが、新潟以南の海岸部と、内陸部では微弱な状況である。

北海道では、海岸部で勢力があり、道南方言圏、道南方言圏以北日本海側の地域で優勢な傾向で、太平洋側やオホーツク海側ではいくぶん勢力が弱い。太平洋側胆振地域の登別、日高地域先端地のえりもでは強い勢力である。内陸部では、海岸部に比べて勢力は弱く、道北の士別、名寄で弱い状況である。

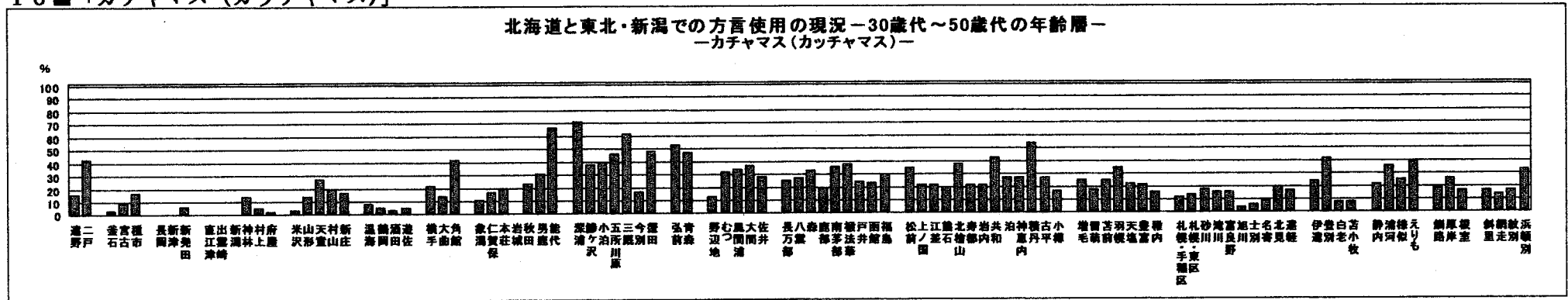
15 ■ 「カマカス (カマガス)」



◇ 「掻き回す」の意味で「カマカス (カマガス)」を使うかを問う。

山形県内陸部の米沢、岩手県海岸部の釜石、北海道で勢力があり、北海道で優勢である。青森県では、中央部、津軽半島部、下北半島部ともに勢力が弱い。秋田県では、海岸部、内陸部ともに微弱である。山形県では、内陸部の米沢で勢力が強いが、他の地点では弱いか微弱である。岩手県では、海岸部南側の釜石で勢力があるが、他の地点では微弱である。新潟県では、海岸部、内陸部ともに勢力は微弱で、新潟以南の海岸部では勢力は全くない。北海道では、海岸部で優勢で、日本海側、太平洋側、オホーツク海側での大きな使用差は見られない状況であるが、太平洋側の日高地域、道東地域、オホーツク海側地域の先端部では地域内の他の地点より勢力がある状況である。内陸部は、海岸部に比べ弱く、道北の旭川、士別、名寄で弱い状況である。

16 ■ 「カチャマス (カッチャマス)」

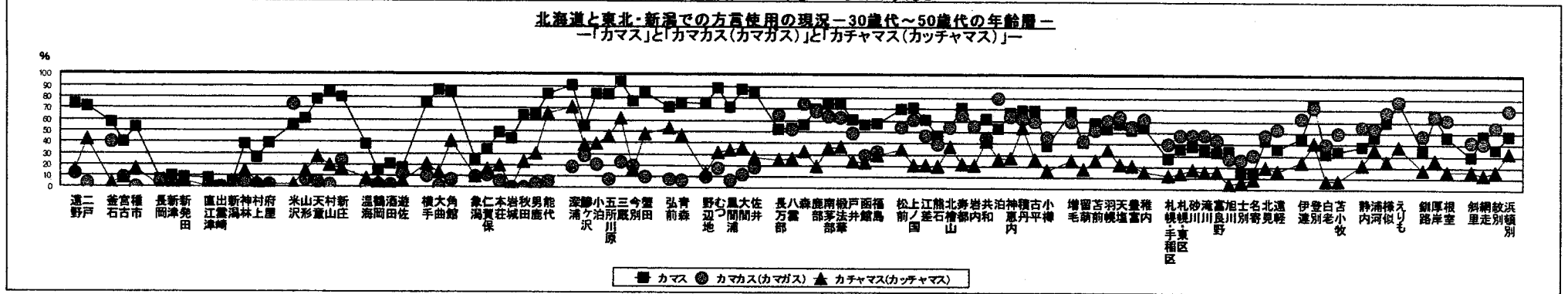


◇ 「掻き回す」の意味で「カチャマス (カッチャマス)」を使うかを問う。

強くはないが、青森県、北海道で勢力があり、青森県で優勢である。青森県では、中央部から津軽半島部で優勢で、下北半島部ではそれに比べて勢力は弱い状況である。秋田県では、海岸部、内陸部ともに青森県寄りの能代、角館で勢力があるが、他の地点では弱い。山形県では、海岸部では微弱で、内陸部では弱い状況である。岩手県では、勢力は弱いが、青森県寄り内陸部の二戸では勢力がある。新潟県では、海岸部、内陸部ともに新潟以北で微弱ながら勢力が見られるが、新潟以南では全く勢力がない状況である。

北海道では、強くはないが海岸部で比較的勢力がある。太平洋側の道東地域、オホーツク海側の地域ではいくぶん弱い。内陸部では弱く、道北の旭川、士別、名寄では微弱な勢力状況である。

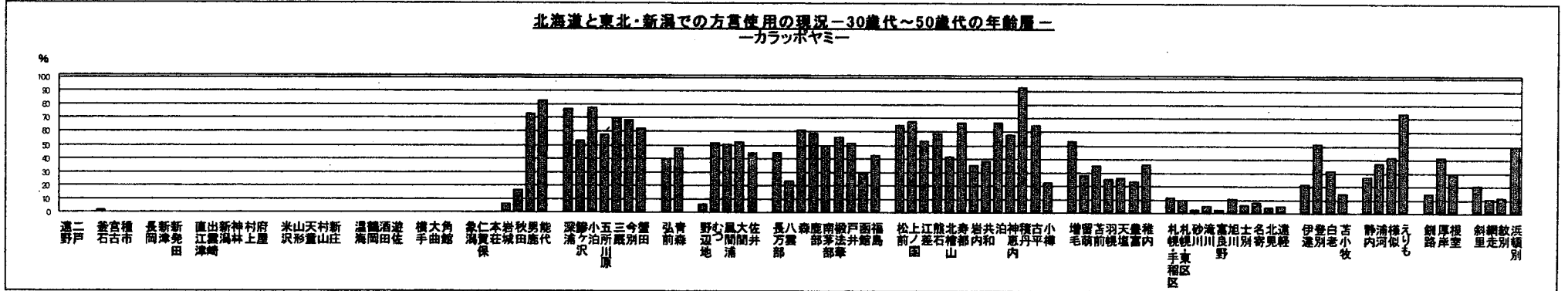
17 ■ 「カマス」と「カマカス (カマガス)」と「カチャマス (カッチャマス)」の使用状況



◇ 「カマス」、「カマカス (カマガス)」、「カチャマス (カッチャマス)」の使用状況を見る。

「カマス」は、新潟県、山形県の海岸部で勢力が弱く、青森県、秋田県、山形県の内陸部、岩手県で優勢である。北海道では、日本海側で勢力があり、太平洋側、オホーツク海側でも勢力がある。内陸部では弱い。「カマカス (カマガス)」は、青森県、秋田県、山形県、岩手県、新潟県では勢力が弱い、その中で山形県内陸部の米沢では極めて勢力が強い。北海道では、道南方言圏では「カマス」に及ばないが、他の地域では「カマス」を凌いで優勢である。「カチャマス (カッチャマス)」は、青森県の中央部、津軽半島部、秋田県北部の青森県寄りの能代で勢力が強く、北海道では海岸部で勢力があるが、「カマス」、「カマカス (カマガス)」には及ばない。北海道での「掻き混ぜる」を言う方言は、「カマス」から「カマカス (カマガス)」へ動いている。

18 ■ 「カラッポヤミ」

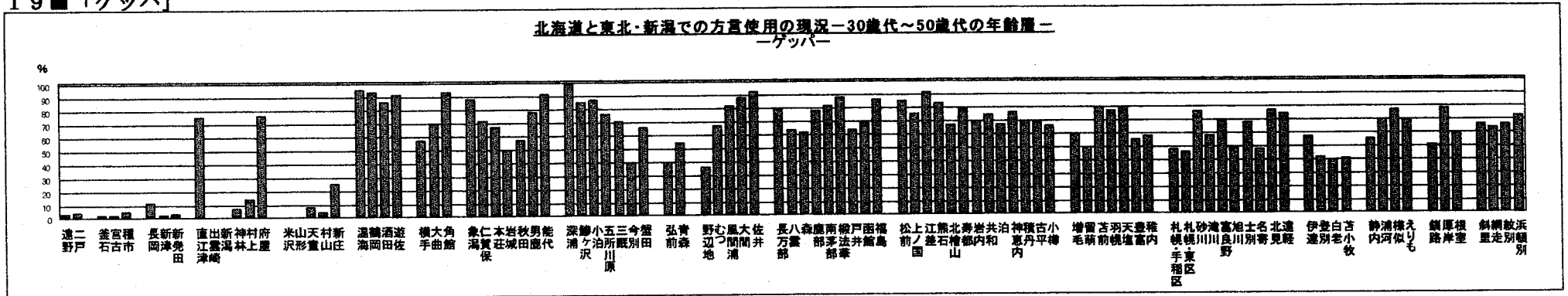


◇ 「怠け者」の意味で「カラッポヤミ」を使うかを問う。

青森県、秋田県、北海道で勢力があり、青森県、北海道で優勢である。青森県では、津軽半島部で優勢で、中央部、下北半島部ではそれに比べて弱い勢力状況である。秋田県では、秋田以北青森県寄り海岸部の能代、男鹿では勢力があるが、秋田以南の海岸部では微弱で、内陸部では勢力が全くない状況である。山形県では、海岸部、内陸部ともに全く勢力がない。岩手県では、海岸部ではほとんど勢力がなく、内陸部では全く見られない状況である。新潟県では、海岸部、内陸部ともに全く勢力がない。*東北地方に見られる「カラホネヤミ、カラボネヤミ、カラボネヤミ」はデータに入っていない。

北海道では、道南方言圏で優勢で、日本海側で比較的勢力があり、北側の積丹半島の先端地積丹で強い勢力である。太平洋側の日高地域、オホーツク海側地域では、それぞれ先端地のえりも、浜頓別で地域内の他の地点に比べて勢力がある。内陸部では微弱な状況である。

19 ■ 「ゲッパ」

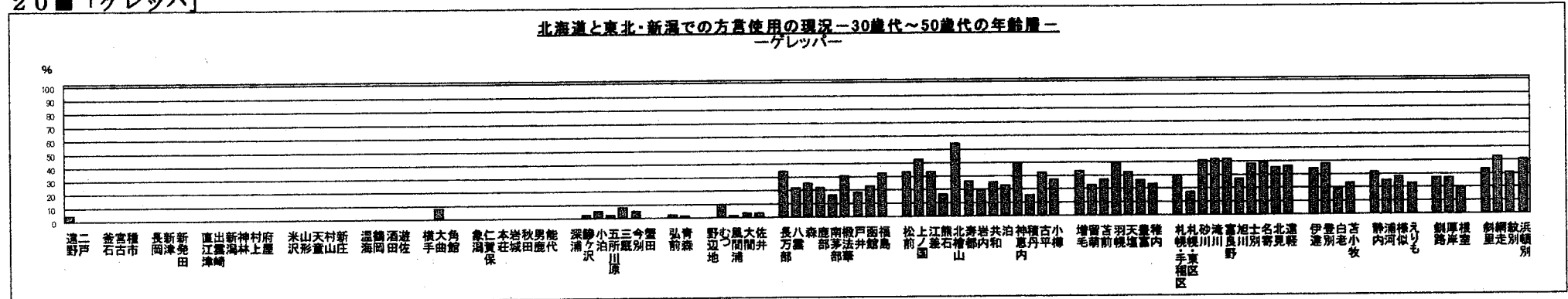


◇ 「最下位・最後」の意味で「ゲッパ」を使うかを問う。

青森県、秋田県、山形県、北海道で勢力があり、山形県の海岸部で優勢である。青森県では、津軽半島部と下北半島部で優勢で、津軽半島部では日本海側で勢力が強し、下北半島部では北上するに従って強く、中央部では弱い。秋田県では、海岸部、内陸部では南下するに従って弱くなっている。山形県では、海岸部と内陸部では対照的な状況で、内陸部では極めて弱い。新潟県では、海岸部北側の山形県寄りの府屋と南側の富山県寄りの直江津で勢力があるが、他の地点と内陸部では極めて弱い状況である。岩手県では、海岸部、内陸部ともに微弱である。

北海道では、道南方言圏、道南方言圏以北の日本海側、太平洋側の日高地域、道東地域、オホーツク海側の地域で勢力があり、内陸部でもそれら地域に劣らない勢力状況である。それらに比べ、太平洋側の胆振地域では勢力が弱い状況である。

20 ■ 「ゲレツパ」

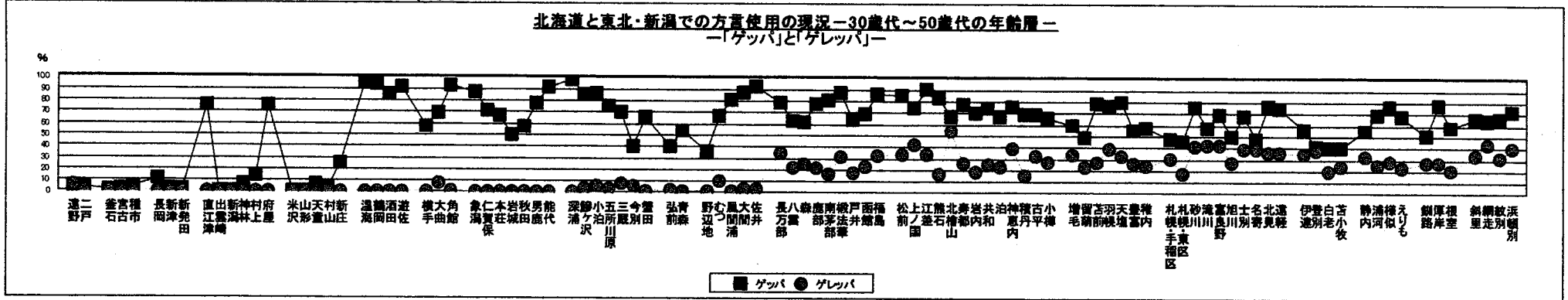


◇ 「最下位・最後」の意味で「ゲレツパ」を使うかを問う。

強くはないが、北海道で勢力を張り、優勢である。青森県では、中央部、津軽半島部、下北半島部ともに勢力は微弱である。秋田県では、海岸部では全く勢力がなく、内陸部では微弱である。山形県では、海岸部、内陸部ともに全く勢力がない。岩手県では、海岸部では全く勢力がなく、内陸部では微弱である。新潟県では、海岸部、内陸部ともに全く勢力は見られない状況である。

北海道では、内陸部でいくぶん優勢な傾向が見られ、海岸部では道南方言圏の日本海側で農業主産業の北檜山で他の地点に比べ勢力がある。

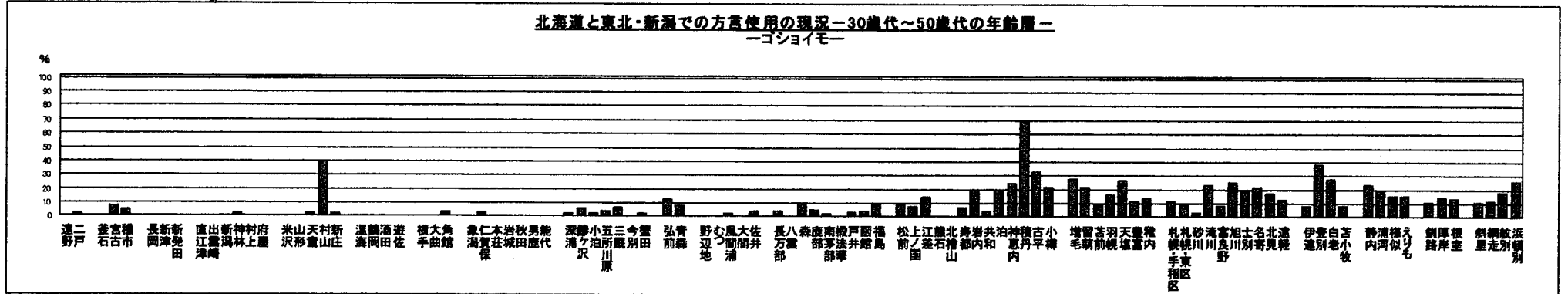
21 ■ 「ゲッパ」と「ゲレッパ」の使用状況



◇ 「ゲッパ」、「ゲレッパ」の使用状況を見る。

「ゲッパ」は、青森県、秋田県、山形県海岸部、北海道で優勢である。岩手県、山形県内陸部では勢力がない。新潟県では、山形県寄り海岸部の府屋と、富山県寄り海岸部の直江津では勢力があるが、他の地点では勢力がない。「ゲレッパ」は、青森県、秋田県、山形県、岩手県、新潟県ではほとんど勢力がないが、北海道では全域で勢力がある。「ゲレッパ」は、宮城県や千葉県あたりに分布する方言で、それが北海道に伝播し、勢力を伸ばして生き延びているようである。「ゲッパ」や「ゲレ」は、「ゲレッパ」の縮約で生まれたのであろうが、「ゲレ」は勢力がなく、「ゲッパ」が勢力を持つようになっている。北海道での「ゲッパ」と「ゲレッパ」の使用状況は興味深い現象で、北海道では、古い語形の「ゲレッパ」がまだ勢力を保持している。

22 ■ 「ゴシヨイモ」

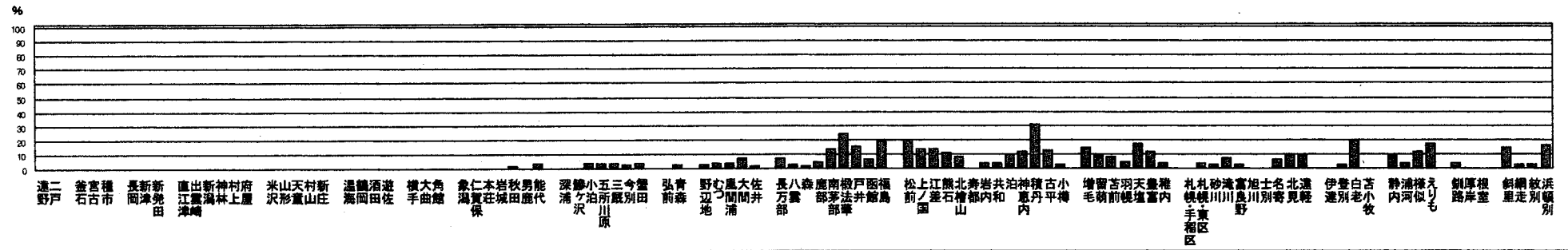


◇ 「じゃがいも」の意味で「ゴシヨイモ」を使うかを問う。

強くはないが、北海道で勢力があり、優勢である。青森県では、中央部では弱く、津軽半島部、下北半島部では微弱である。秋田県では、海岸部、内陸部ともにほとんど勢力がない。山形県では、海岸部では全く勢力がなく、内陸部では村山だけ勢力が見られるが、他の地点ではほとんど勢力がない。岩手県では、海岸部で微弱で、内陸部ではほとんど勢力がない状況である。新潟県では、海岸部ではほとんど勢力がなく、内陸部では全く勢力が見られない。北海道では、道南方言圏の太平洋側から日本海側の南側では勢力が弱く、北側で比較的勢力があり、積丹半島部先端地の積丹では強い勢力状況である。道南方言圏以北の日本海側、太平洋側の胆振地域でも比較的勢力があり、それに比べて、太平洋側の日高地域、道東地域、オホーツク海側、内陸部の地域ではやや弱い傾向である。

2.3 「ゴッペカエス」

北海道と東北・新潟での方言使用の現況—30歳代～50歳代の年齢層—
—ゴッペカエス—



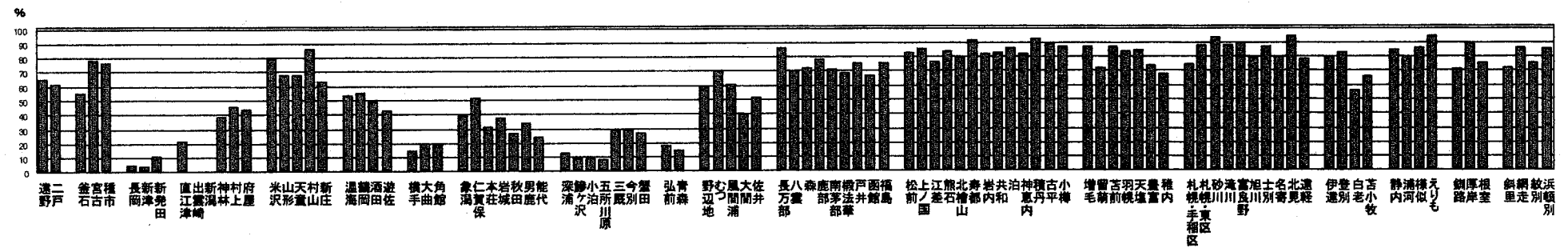
◇ 「失敗する・大損をする」の意味で「ゴッペカエス」を使うかを問う。

弱いが北海道で勢力があり、優勢である。青森県では、中央部、津軽半島部、下北半島部とともに微弱である。秋田県では、青森県寄り海岸部の能代でやはり微弱で、他の海岸部ではほとんど勢力が見られず、内陸部では全く勢力がない。山形県、岩手県、新潟県では、海岸部、内陸部ともに全く勢力がない状況である。

北海道では、勢力は弱いが全道的に使われており、海岸部では勢力は弱い状況であるが、道南方言圏、道南方言圏以北の日本海側の地域でいくぶん優勢な傾向で、太平洋側の道東地域ではほとんど勢力がない状況である。内陸部では微弱で、道北の旭川、士別では勢力がない。

2.4 「コワイ」

北海道と東北・新潟での方言使用の現況—30歳代～50歳代の年齢層—
—コワイ—

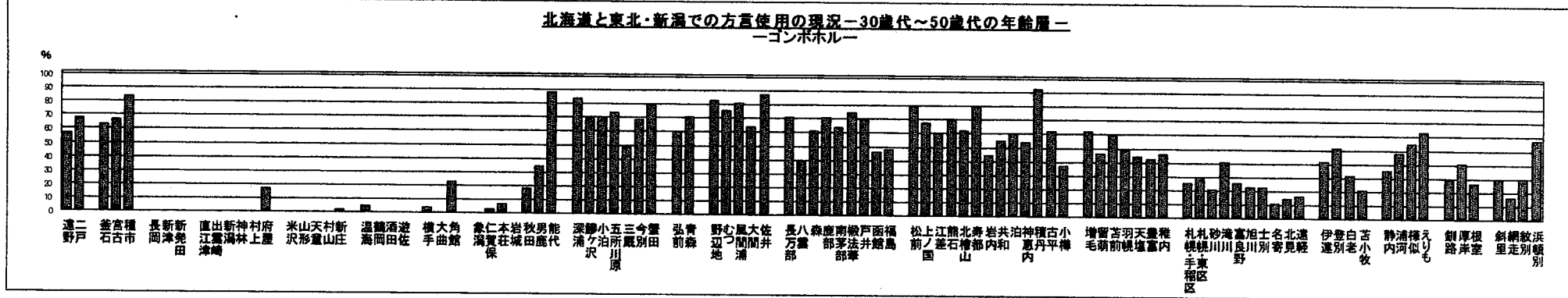


◇ 「疲労感・疲れる」の意味で「コワイ」を使うかを問う。

青森県、秋田県、山形県、岩手県、北海道で勢力があり、北海道で優勢である。青森県では、中央部、津軽半島部では勢力が弱く、下北半島部で勢力があり、優勢である。津軽半島部では陸奥湾側から先端地域で優勢な傾向である。秋田県では、海岸部で優勢で、南下するに従って勢力がある傾向で、内陸部では弱い。山形県では、内陸部で優勢で、海岸部では南下するに従って勢力がある傾向である。岩手県では、海岸部、内陸部ともに勢力があり、海岸部で優勢である。新潟県では、海岸部で優勢で、新潟以北山形県寄りの府屋、村上、神林で勢力がある。内陸部では微弱である。

北海道では、海岸部、内陸部ともに勢力があり、大きな勢力差は見られないが、太平洋側胆振地域の白老、苫小牧では、やや弱い状況である。

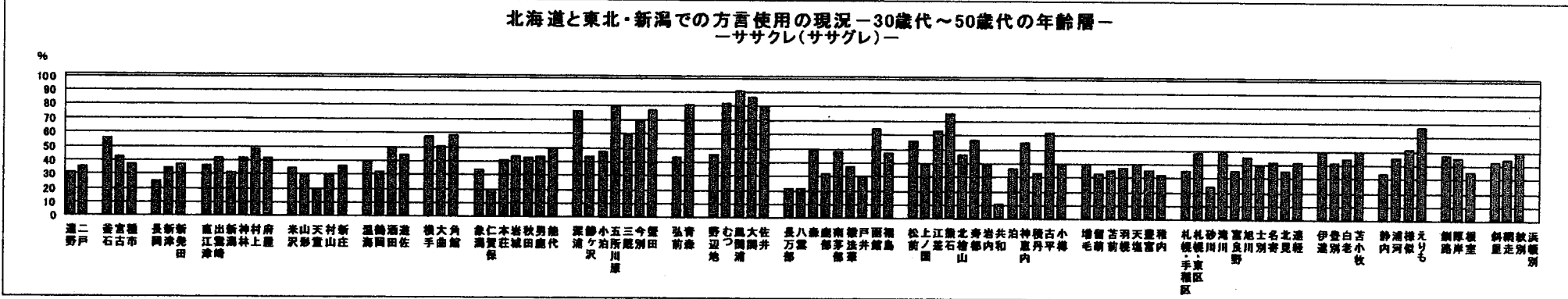
25 ■ 「ゴンボホル」



◇ 「駄々をこねる・無理を言う」の意味で「ゴンボホル」を使うかを問う。

青森県、岩手県、北海道で勢力があり、青森県で比較的優勢である。青森県では、中央部、津軽半島部、下北半島部で同じように勢力があるが、中央部でいくぶん弱い傾向である。秋田県では、秋田以北青森寄り海岸部で勢力が見られ、能代で極めて優勢で、内陸部では北側の角館で勢力が見られるが、他の地点では微弱で海岸部に比べて弱い状況である。山形県では、海岸部、内陸部ともにほとんど勢力がない状況である。岩手県では、海岸部、内陸部ともに勢力がある。新潟では、山形寄り海岸部の府屋でいくぶん勢力が見られるが、他の海岸部、内陸部では全く勢力がない状況である。北海道では、道南方言圏で優勢で、北側の積丹半島部の先端地積丹で極めて強い勢力である。内陸部では勢力が弱い状況である。

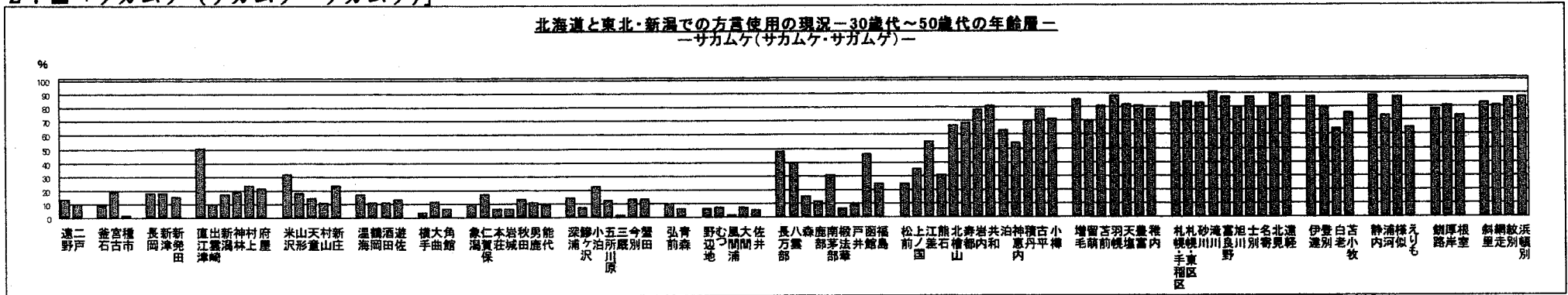
26 ■ 「ササクレ (ササグレ)」



◇ 「爪の付け根の皮がむける」の意味で「ササクレ (ササグレ)」を使うかを問う。

青森県で優勢である。秋田県の内陸部、北海道の道南方言圏がそれに次いで勢力がある。青森県では、中央部、津軽半島部、下北半島部の全域で勢力があり、下北半島部でやや優勢な傾向が見られる。秋田県では、海岸部に比べ内陸部で勢力があり、海岸部では南下するに従い勢力が弱くなっている傾向が見られる。山形県、岩手県、新潟県では、内陸部に比べて海岸部で勢力があり、岩手県の海岸部では北上するに従い勢力が強くなっている状況である。北海道では、道南方言圏で勢力のある地点が多く、優勢である。その中で、農業が主産業の共和では目立って勢力が微弱である。太平洋側の日高地域先端地のえりもでは勢力があり優勢である。道南方言圏以北日本海側地域では、他の地域に比べ、いくぶん勢力が弱い傾向である。

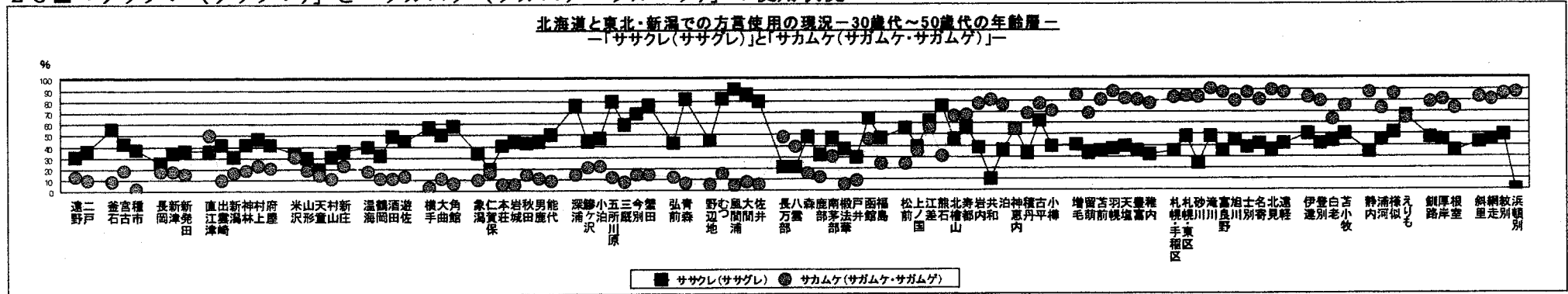
27 ■ 「サカムケ (サガムケ・サガムゲ)」



◇ 「爪の付け根の皮がむける」の意味で「サカムケ (サガムケ・サガムゲ)」を使うかを問う。

北海道で勢力があり、優勢である。青森県、秋田県、岩手県では勢力が極めて弱く、山形県、新潟県でも弱い。青森県では、中央部、下北半島部で微弱で、それに比べ津軽半島部ではいくぶん勢力があり、弱い状況である。秋田県では、海岸部、内陸部ともに勢力は微弱である。山形県では、海岸部、内陸部ともに弱いが、内陸部でいくぶん勢力がある。新潟県では、富山県寄りの海岸部直江津で勢力があるが、他の海岸部、内陸部では弱い状況である。北海道では、道南方言圏日本海側の北側、道南方言圏以北の日本海側、太平洋側の胆振地域、日高地域、道東地域、オホーツク海側地域、内陸部で勢力が強く、優勢である。道南方言圏の太平洋側から日本海側の南側では勢力の弱い地点が多い。

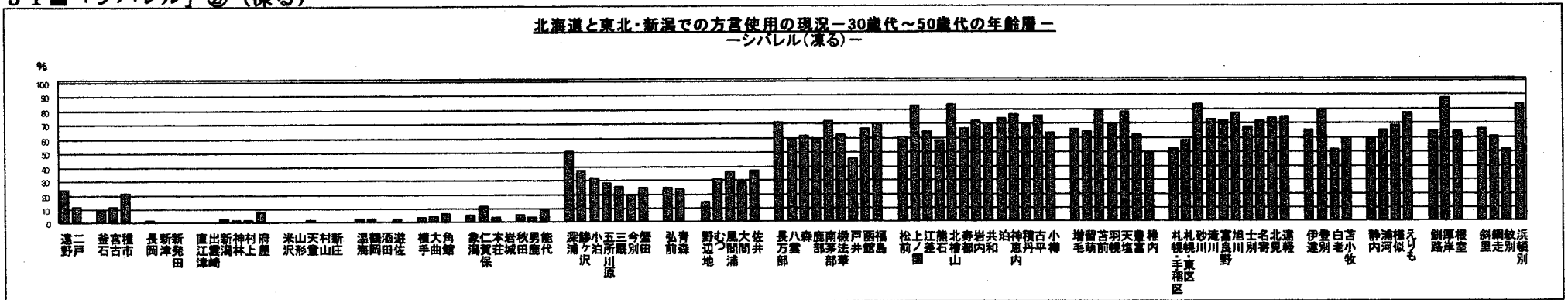
28 ■ 「ササクレ (ササグレ)」と「サカムケ (サガムケ・サガムゲ)」の使用状況



◇ 「ササクレ (ササグレ)」と「サカムケ (サガムケ・サガムゲ)」の使用状況を見る。

青森県、秋田県、山形県、岩手県、新潟県では、「ササクレ (ササグレ)」が優勢で、中でも青森県で極めて優勢である。北海道では、道南方言圏では「ササクレ (ササグレ)」と「サカムケ (サガムケ・サガムゲ)」が拮抗し、南側の太平洋側の森から日本海側の熊石にかけて「ササクレ (ササグレ)」が優勢なのに対し、それより北側では「サカムケ (サガムケ・サガムゲ)」が優勢になっている。道南方言圏以北の日本海側、太平洋側、オホーツク海側、内陸部では「サカムケ (サガムケ・サガムゲ)」が優勢な状況である。道南方言圏北側の積丹半島地域における「サカムケ (サガムケ・サガムゲ)」の優勢は、道南方言圏での「ササクレ (ササグレ)」から「サカムケ (サガムケ・サガムゲ)」への勢力交替の動きの現れで、日本海側の道北地域や内陸部の「サカムケ (サガムケ・サガムゲ)」勢力が南下し浸透してきている姿を見ることがができる。

31 ■ 「シバレル」② (凍る)

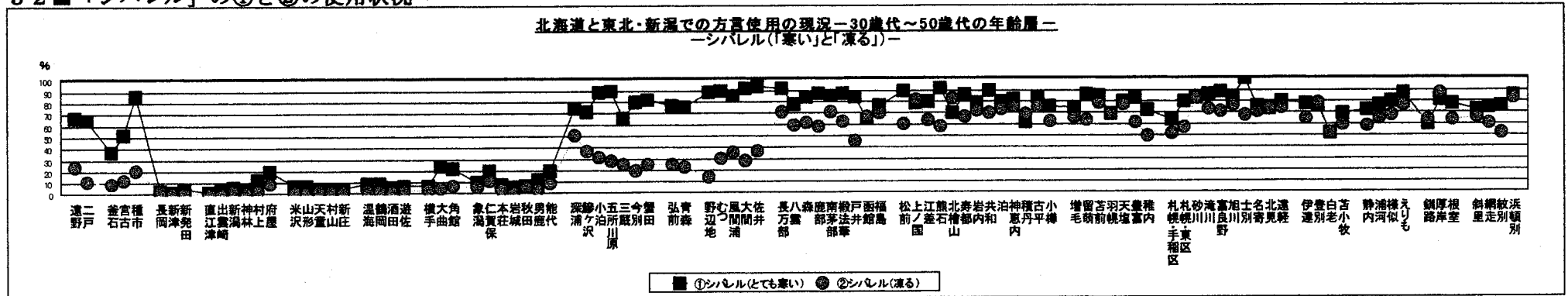


◇ 「凍る」の意味で「シバレル」を使うかを問う。

青森県、北海道で勢力があり、北海道で極めて優勢である。青森県では、強くはないが、中央部、津軽半島部、下北半島部で勢力が見られ、津軽半島部の日本海側と下北半島部でいくぶん優勢である。秋田県では、海岸部、内陸部ともに微弱である。山形県では、海岸部で微弱で、内陸部ではほとんど勢力がない。岩手県では、海岸部、内陸部ともに弱い。新潟県では、海岸部では微弱で、内陸部ではほとんど勢力がない状況である。

北海道では、海岸部、内陸部ともに勢力がある。道南方言圏の日本海側、道南方言圏以北の日本海側の地域、内陸部の札幌を除く地域でいくぶん優勢な傾向で、道南方言圏の太平洋側、日本海側の南側、道南方言圏以北の日本海側、太平洋側の胆振地域、オホーツク海側に比較的勢力の弱い地点がある。

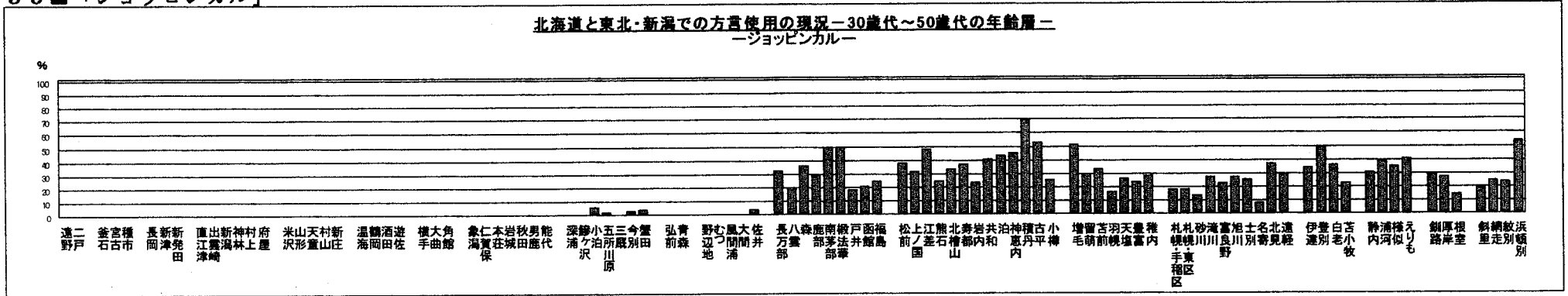
32 ■ 「シバレル」の①と②の使用状況



◇ 「とても寒い」の「シバレル」と「凍る」の「シバレル」の使用状況を見る。

青森県、岩手県では「とても寒い」の意味での「シバレル」が勢力が強く優勢なのに対し、北海道では「とても寒い」の意味での「シバレル」に劣らず「凍る」の意味での「シバレル」も優勢である。北海道では、青森県や岩手県などから伝播した「凍る」の「シバレル」が、「とても寒い」の「シバレル」と同じ程度に頻繁に使用されている。秋田県、山形県、新潟県では、「シバレル」は「とても寒い」の意味でも「凍る」の意味でも微弱である。「シバレル」は、東北北部、北海道で強い勢力を持っており、厳しい寒さを実感を込めて的確に表現できることばである。もともとは東北方言であるが、「凍る」の意味での「シバレル」は、極めて北海道的な方言になっている。

35 ■ 「ジョッピンカル」

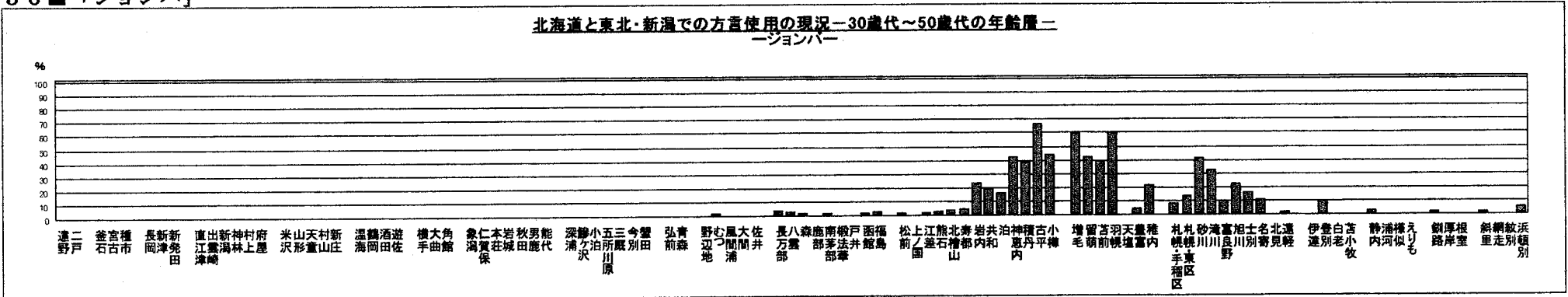


◇「鍵をかける」の意味で「ジョッピンカル」を使うかを問う。

北海道で勢力があり、優勢である。青森県では、津軽半島部で極めて微弱な勢力が見られるが、中央部では全く勢力がなく、下北半島部ではほとんど勢力がない。秋田県、山形県、岩手県、新潟県では、海岸部、内陸部ともに全く勢力がない。

北海道では、道南方言圏で比較的優勢な傾向で、太平洋側では亀田半島先端地の綴法華、南茅部、日本海側では積丹半島先端地の積丹で優勢である。道南方言圏以北の日本海側では、道南方言圏寄りの増毛で勢力がある。太平洋側の道東地域、オホーツク海側では先端地の浜頓別を除く地域、内陸部では、勢力がいくぶん弱い状況である。

36 ■ 「ジョンバ」



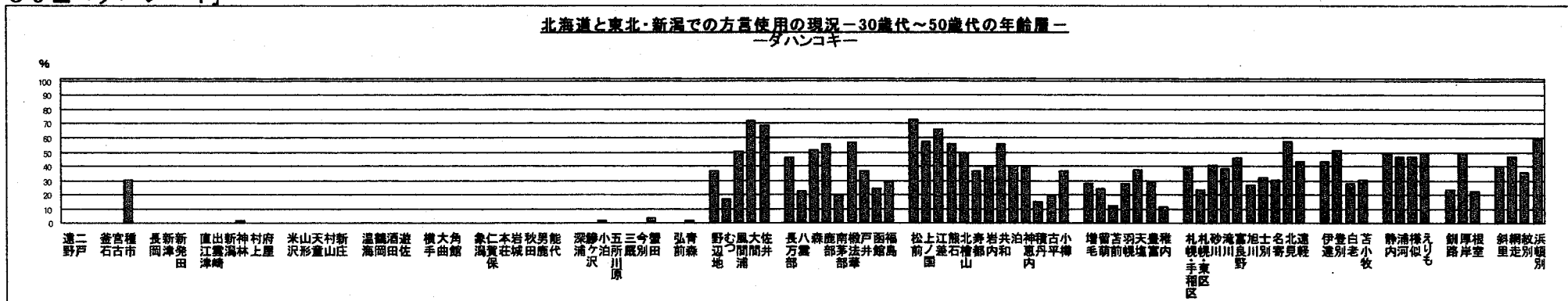
◇「雪かき」の意味で「ジョンバ」を使うかを問う。

北海道で勢力があり、優勢である。青森県、秋田県、山形県、岩手県、新潟県ではほとんど使われていない。青森県では、下北半島部のむつで孤例での使用が見られるだけで、他の地点では使われていない。秋田県、山形県、岩手県、新潟県では、海岸部でも内陸部でも全く使用が見られない。

北海道では、道南方言圏日本海側で北側の積丹半島地域から道南方言圏以北の日本海側の羽幌以南にかけて優勢で、内陸部では道央から道北地域にかけて勢力がある。道南方言圏でも太平洋側から日本海側の南側、太平洋側の胆振地域では微弱で、太平洋側の日高地域、道東地域、オホーツク海側の地域ではほとんど勢力がない状況である。

管見では、今のところ他県の方言集に見られず、北海道生まれの方言である可能性もあり、道北地域で見られるジョンベラと関係があるかもしれない。

39 ■ 「ダハンコキ」

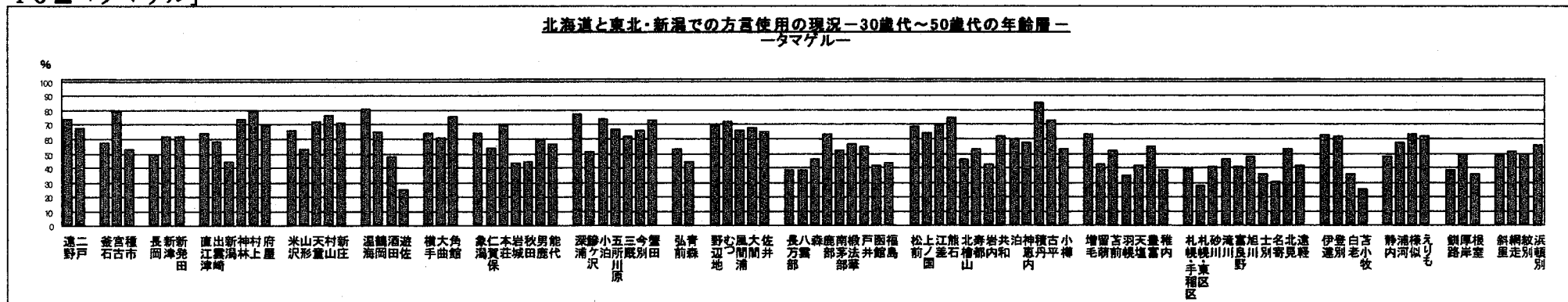


◇ 「駄々をこねる・ごろつく人・無理難題を言う人」の意味で「ダハンコキ」を使うかを問う。

青森県、北海道で勢力があり、北海道で優勢である。青森県では、下北半島部で勢力があり、先端地の佐井、大間で優勢で、中央部、津軽半島部ではほとんど勢力がない。秋田県、山形県では、海岸部、内陸部ともに全く勢力がない。岩手県では、青森県寄り海岸部の種市で勢力があるが、他の海岸部、内陸部では全く勢力がない。新潟県では海岸部ではほとんど勢力がなく、内陸部では全く勢力がない状況である。

北海道では、道南方言圏日本海側の南側で優勢で、道南方言圏以北の日本海側地域では比較的勢力が弱い傾向である。内陸部でも勢力がある。
『松前方言考』には、「ダハン」、「ダハンモノ」という名詞形が「酒などを飲んで傍若無人なるさまをいう。また飲んでいなくても理不尽なるをいう」と解説されて見えており、江戸時代以来、北海道での日常生活語として用いられてきていたことばの一つである。

40 ■ 「タマゲル」

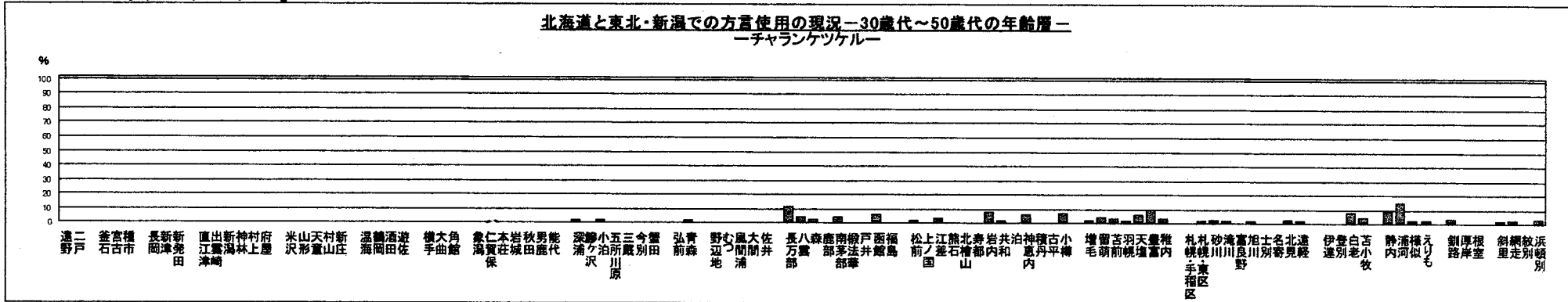


◇ 「驚く」の意味で「タマゲル」を使うかを問う。

青森県、秋田県、山形県、岩手県、新潟県、北海道ともに勢力がある。青森県では、津軽半島部と下北半島部で優勢である。秋田県では、海岸部の秋田、岩城で弱い。他の地点は内陸部と差がない。山形県では、秋田県寄り海岸部の遊佐で弱く、南下するに従い勢力が増しており、内陸部で優勢である。岩手県では、海岸部、内陸部で大きな勢力差は見られない。新潟県では、新潟以北の海岸部で優勢で、新潟以南の海岸部、内陸部では比較的弱い状況である。

北海道では、道南方言圏日本海側の南側と北側の積丹半島部の先端地域で優勢である。太平洋側の胆振地域の苦小牧、白老では弱く、道東地域、オホーツク海側の地域、内陸部ではやや勢力が弱い状況である。

4.1 ■ 「チャランケツケル」

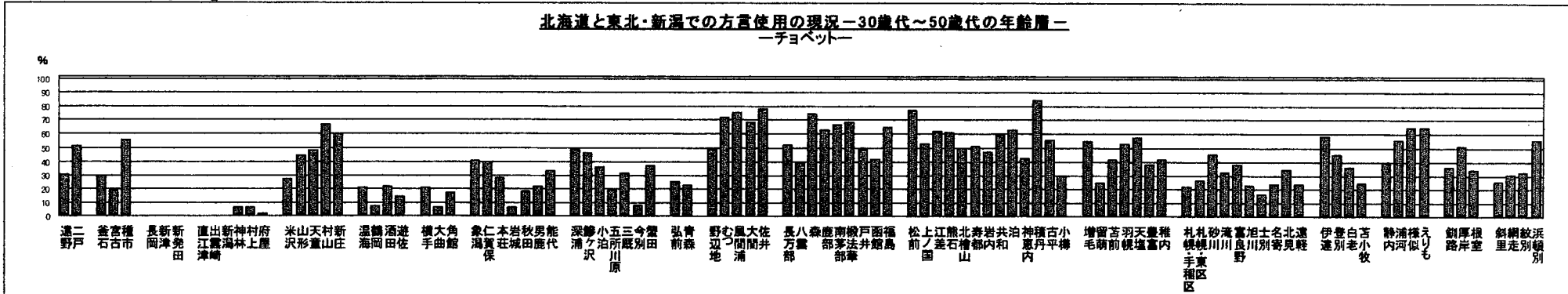


◇ 「文句を言う・言いがかりを付ける」の意味で「チャランケツケル」を使うかを問う。

勢力は極めて弱いながらも、北海道で全道的に使用が見られ、道南方言圏から道南方言圏以北の日本海側にかけて、太平洋側の胆振地域、日高地域で他の地域でよりいくぶん多くの使用が見られる。太平洋側の道東地域、オホーツク海側の地域、内陸部では、極めて微弱である。青森県では、津軽半島側と中央部の青森で点的に使用がみられるものの、ほとんど勢力がない状況である。秋田県、山形県、岩手県、新潟県では、全く使用は見られない。

*「チャランケ」は、アイヌ語で「談判、話し合い」の意味であるが、和人が「言いがかり」の意味にとったアイヌ語からの北海道方言である。

4.2 ■ 「チョベツト」

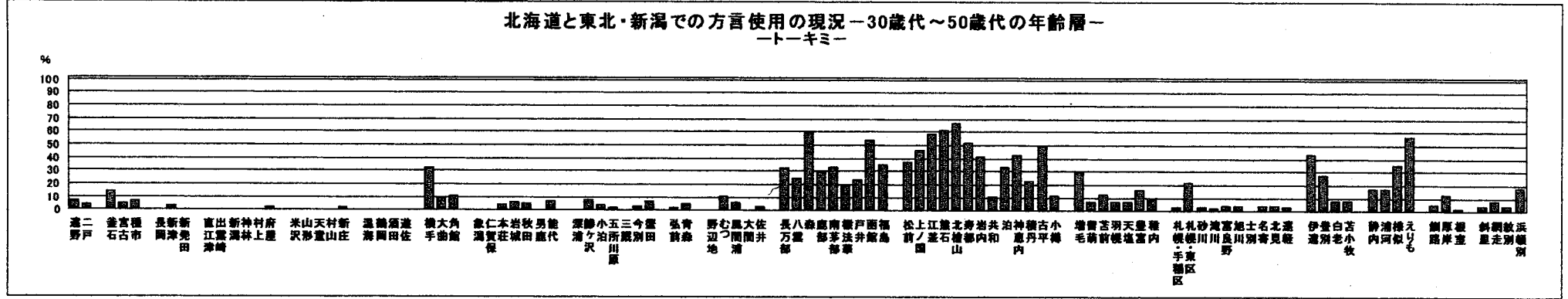


◇ 「少し」の意味で「チョベツト」を使うかを問う。

青森県、北海道、山形県で勢力があり、青森県の下北半島部で優勢である。青森県では、下北半島部で勢力が強く、津軽半島部ではそれに比べて勢力が弱く、中央部でも弱い状況である。秋田県では、海岸部で勢力あり、内陸部では弱い状況である。山形県では、海岸部で勢力が弱く、内陸部で優勢な状況であるが、南下するに従って勢力は弱くなっている。岩手県では、海岸部、内陸部で同じような勢力状況で、海岸部、内陸部ともに青森県寄りでは優勢である。新潟県では、新潟以北の山形県寄り海岸部で微弱ながら勢力が見られるものの、新潟以南の海岸部、内陸部では全く勢力がない状況である。

北海道では、道南方言圏で優勢で、太平洋側の亀田半島先端地域、日本海側の南側と北側の積丹半島部の先端地積丹で勢力がある。道南方言圏以北の日本海側、太平洋側の日高地域でも勢力がある。内陸部では比較的勢力が弱い状況である。

45 ■ 「トーキミ」

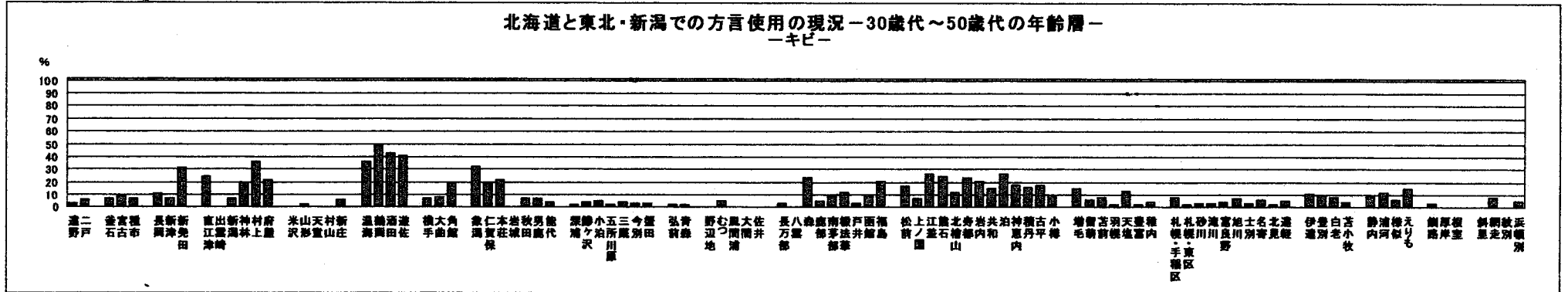


◇「とうもろこし」の意味で「トーキミ」を使うかを問う。

北海道で勢力があり、優勢である。青森県では、中央部、津軽半島部、下北半島部で同じように微弱な勢力状況である。秋田県では、内陸部の横手で勢力が見られるが、他の内陸部、海岸部では微弱である。山形県では、海岸部では全く勢力がなく、内陸ではほとんど勢力がない状況である。岩手県では、海岸部、内陸部ともに微弱な勢力状況である。新潟県では、海岸部、内陸部ともにほとんど勢力がない。

北海道では、道南方言圏で勢力があり、日本海側の南側で優勢で、太平洋側胆振地域の先端地えりもでも勢力がある。道南方言圏以北の日本海側地域、太平洋側の胆振地域、先端地えりもを除く日高地域では弱く、太平洋側の道東地域、オホーツク海側の地域、内陸部では極めて弱い勢力状況である。

46 ■ 「キビ」

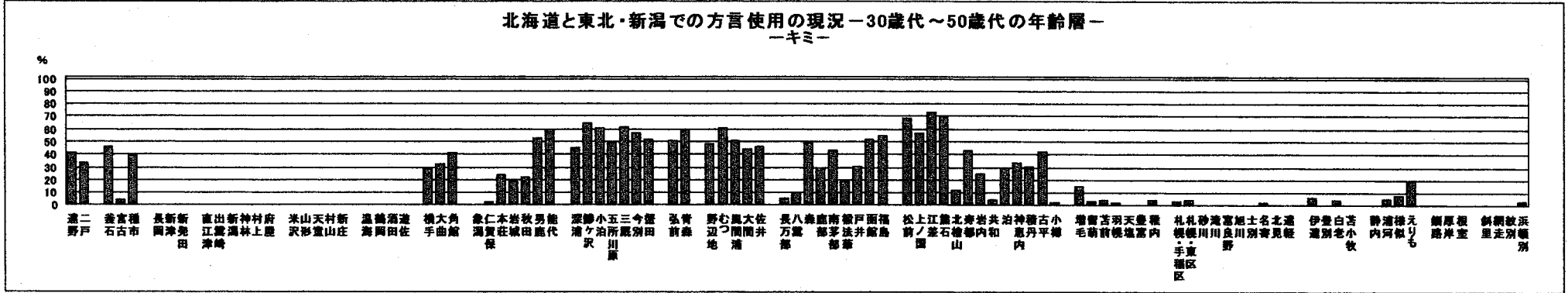


◇「とうもろこし」の意味で「キビ」を使うかを問う。

山形県の海岸部で比較的に勢力があり、優勢である。秋田県の山形県寄りの海岸部、新潟県、北海道でも勢力が見られる。青森県では、中央部、津軽半島部、下北半島部ともに微弱な勢力状況である。秋田県では、岩城以南の海岸部、内陸部では角館で弱いながらも勢力が見られるが、他は微弱な勢力状況である。山形県では、海岸部で勢力があり、内陸部ではほとんど勢力がない状況である。岩手県では、海岸部、内陸部ともに微弱な勢力状況である。新潟県では、海岸部、内陸部ともに弱い勢力であるが、新潟以北山形県寄り海岸部の村上、内陸部の新発田では他の地点よりいくぶん勢力が見られる。

北海道では、弱いながらも道南方言圏で勢力があり、他の地域では微弱な勢力状況で、特に太平洋側の道東地域ではほとんど勢力が見られない。

47 ■ 「キミ」

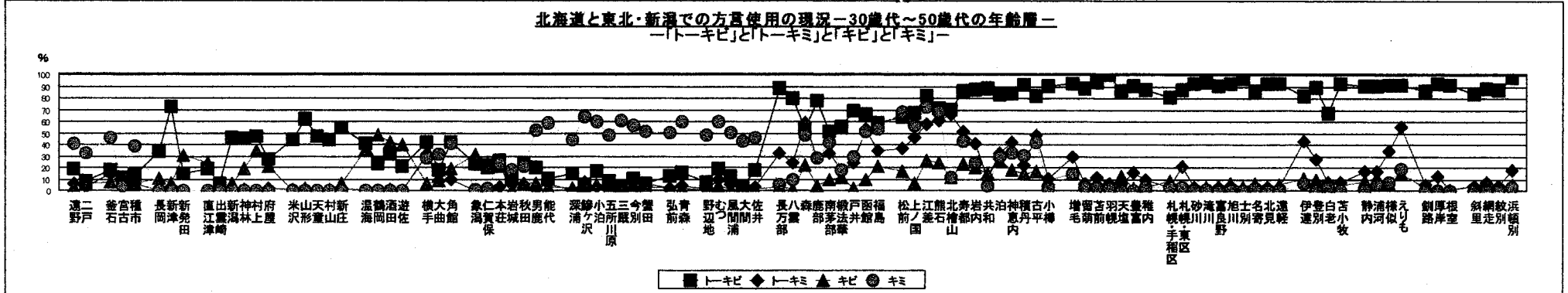


◇ 「とうもろこし」の意味で「キミ」を使うかを問う。

青森県、北海道で勢力があり、青森県で比較的優勢である。次いで秋田県、岩手県で勢力がある。青森県では、中央部、津軽半島部、下北半島部で同じような勢力状況である。秋田県では、秋田以北青森県寄りの海岸部で勢力があり、内陸部でも勢力がある。山形県では、海岸部、内陸部ともに全く勢力がない。岩手県では、宮古では微弱な勢力であるが、他の海岸部、内陸部では同じような勢力状況である。新潟県では、海岸部、内陸部ともに全く勢力がない。

北海道では、道南方言圏で優勢で、日本海側の南側で勢力が強く、太平洋側と日本海側の北側では弱い。道南方言圏以北の日本海側、太平洋側の日高地域では弱く、太平洋側の胆振地域、内陸部では極めて微弱で、太平洋側の道東地域では全く勢力がない。オホーツク海側の地域ではほとんど勢力がない。

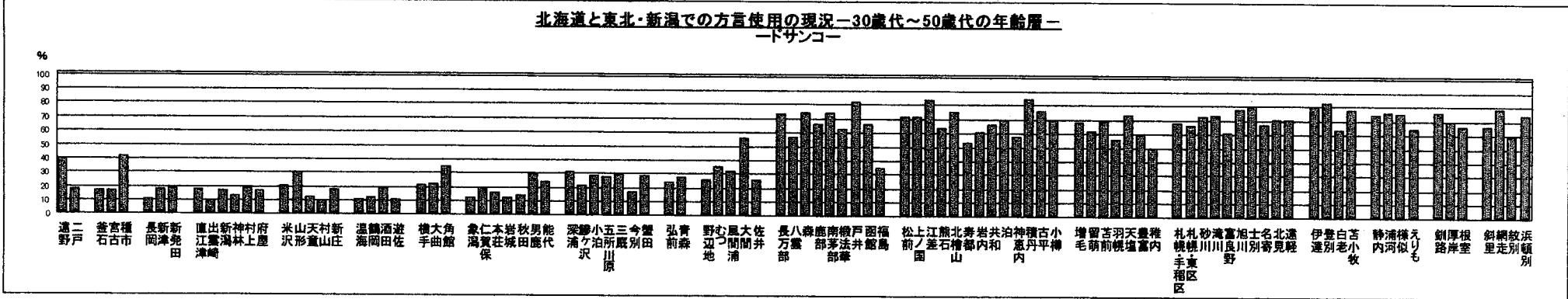
48 ■ 「トーキビ」と「トーキミ」と「キビ」と「キミ」の使用状況



◇ 「トーキビ」、「トーキミ」、「キビ」、「キミ」の使用状況を見る。

「トーキビ」は、新潟県、山形県、北海道で勢力があり、北海道で優勢である。「トーキミ」は、北海道で勢力があり、道南方言圏で優勢で、太平洋側の胆振地域、日高地域でも勢力が見られる。「キビ」は、秋田県の山形県寄りの海岸部、山形県の海岸部、新潟県にかけて勢力を持ち、北海道では道南方言圏で勢力がある。「キミ」は、岩手県、秋田県、青森県の東北地方北部で勢力を持ち、青森県で優勢であり、山形県、新潟県ではほとんど勢力がない。北海道では道南方言圏で勢力があり、南側で優勢である。「トーキミ」が「トーキビ」より優勢な地はほとんどない。北海道では、「トーキビ」が他のことばを圧して非常に優勢な中、道南方言圏では、「トーキビ」、「トーキミ」、「キミ」、「キビ」がそれぞれ勢力を持ち、競合している地点がある状況である。

49 ■ 「ドサンコ」



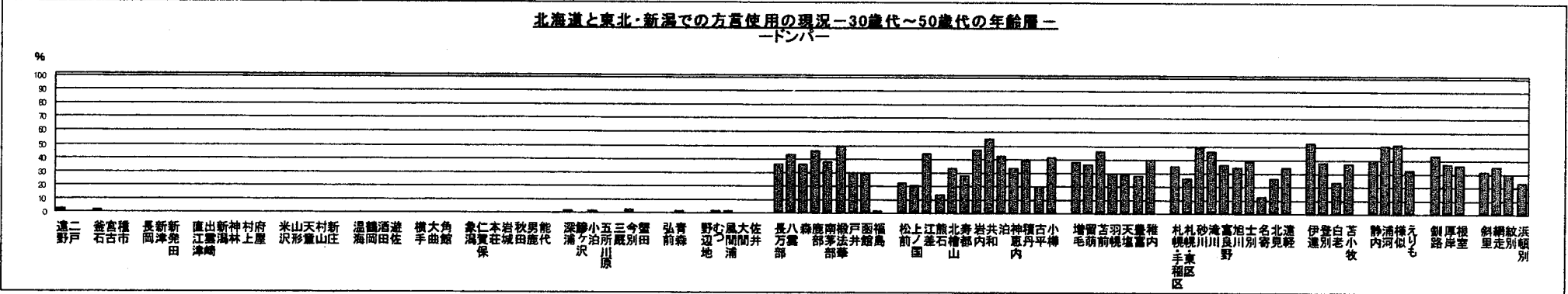
◇ 「北海道産馬・北海道人」の意味で「ドサンコ」を使うかを問う。

北海道で勢力があり、優勢である。青森県では、中央部、津軽半島部、下北半島部で同じように勢力が弱い。下北半島部で道南の函館に近い先端地間で優勢である。秋田県、山形県では、海岸部、内陸部ともに勢力は弱い状況である。岩手県では海岸部、内陸部ともに勢力は弱い。青森県寄り海岸部の種市と内陸部の遠野では比較的勢力が見られる状況である。

北海道では、道南方言圏太平洋側の福島で勢力は弱い、それを除くと全道的に勢力があり、海岸部、内陸部で大きな差は見られない。

*この調査では、「北海道産馬」と「北海道人」を分けた調査はしていない。両者を含んでの調査データである。

50 ■ 「ドンパ」



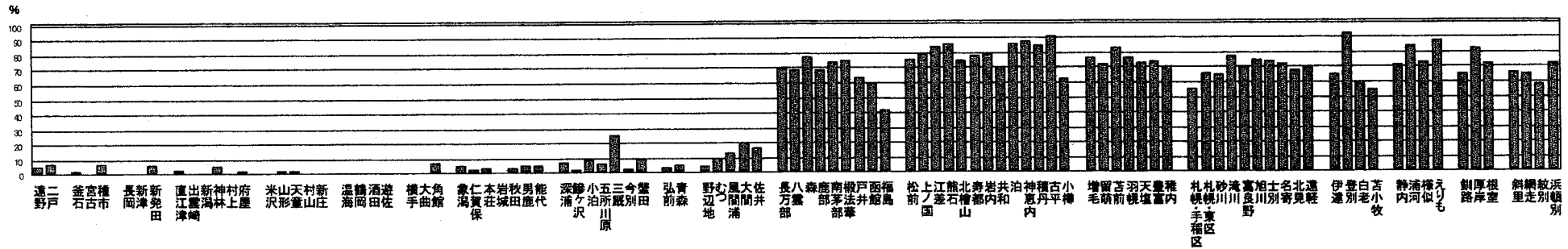
◇ 「同等の話し方・同級生」の意味で「ドンパ」を使うかを問う。

北海道で勢力があり、優勢である。青森県では、中央部、津軽半島部、下北半島部で同じように極めて微弱で、ほとんど勢力がない。秋田県、山形県、新潟県では、海岸部、内陸部ともに全く勢力がない。岩手県では、海岸部、内陸部ともに極めて微弱で、ほとんど勢力がない状況である。

北海道では、海岸部、内陸部の間で大きな勢力差は見られないが、道南方言圏日本海側の南側で勢力の弱い地点が比較的多い状況で、内陸部では、道北の名寄で微弱な勢力状況である。

51 ■ 「ナイチ」

北海道と東北・新潟での方言使用の現況—30歳代～50歳代の年齢層—
—ナイチ—



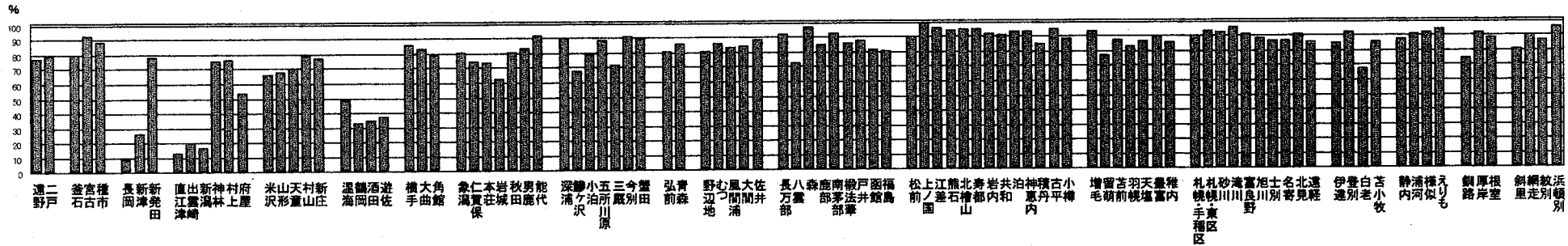
◇「本州」の意味で「ナイチ」を使うかを問う。

北海道で勢力があり、優勢である。青森県では中央部では微弱で、津軽半島部、下北半島部では先端地で比較的勢力が見られるが、弱い。秋田県では、海岸部で微弱で、内陸部では角館で微弱なものほとんど勢力がない。山形県では、海岸部では全く勢力がなく、内陸部ではほとんど勢力がない。岩手県では、海岸部、内陸部ともに微弱な勢力状況である。新潟県では、海岸部、内陸部で微弱な地点が多い、ほとんど勢力がない状況である。

北海道では、道南方言圏の日本海側で比較的優勢な地点が多い。道南方言圏のオホーツク海側地域、内陸部では、他の地域に比較していくぶん勢力が弱い状況で、太平洋側の胆振地域でも、登別では勢力が強いものの、他の地点ではやはり比較的弱い状況である。オホーツク海側の地域でも比較的弱い。

52 ■ 「ナゲル」

北海道と東北・新潟での方言使用の現況—30歳代～50歳代の年齢層—
—ナゲル—



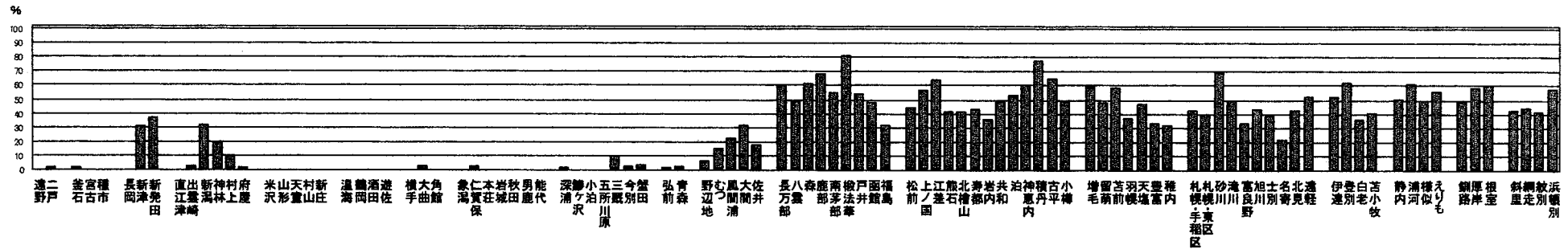
◇「捨てる」の意味で「ナゲル」を使うかを問う。

青森県、秋田県、岩手県、北海道で勢力が強く、北海道で比較的優勢な傾向である。青森県では、中央部、津軽半島部、下北半島部で強い勢力状況である。秋田県では、海岸部、内陸部でともに強い勢力状況である。山形県では、海岸部では勢力が弱く、内陸部で勢力が強い状況である。岩手県では、海岸部、内陸部ともに強い勢力で、海岸部でいくぶん勢力が強い状況である。新潟県では、新潟以北の山形県寄りの地域、海岸部では府屋、村上、神林、内陸部では新発田で勢力が強く、新潟以南の地域では勢力が弱い状況である。

北海道では、地域による判然とした勢力差は見られず、海岸部、内陸部ともに強い勢力状況である。

5 3 ■ 「ナマラ」

北海道と東北・新潟での方言使用の現況—30歳代～50歳代の年齢層—
—「ナマラ」—



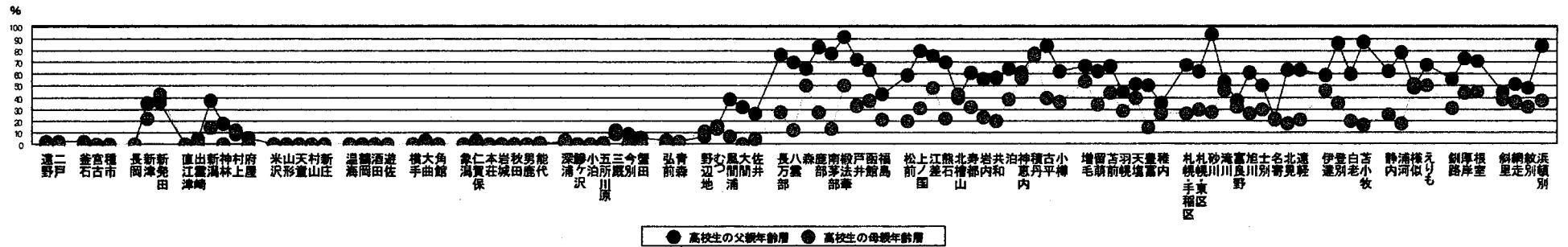
◇「とても」の意味で「ナマラ」を使うかを問う。

北海道、青森県、新潟県で勢力があり、北海道で優勢である。青森県では、北海道の道南方言圏函館地域と繋がり深い下北半島部の先端地域で弱いながらも勢力が見られるが、中央部、津軽半島部では極めて微弱な状況である。秋田県では、海岸部、内陸部ともにほとんど勢力がない状況である。山形県では、海岸部、内陸部ともに全く勢力がない。岩手県では、海岸部、内陸部ともにほとんど勢力がない。新潟県では、新潟周辺地域で勢力が見られる。

北海道では、道南方言圏でいくぶん優勢な傾向であるが、海岸部、内陸部ともに地域というよりは地点により勢力の強弱が見られる状況で、海岸部では、道南方言圏太平洋側の亀田半島先端地の綴法華、日本海側の北側積丹半島先端地の積丹で比較的勢力が強く、内陸部では道央の砂川で勢力が強い。

5 4 ■ 「ナマラ」の性別での使用状況

北海道と東北・新潟での方言使用の現況—30歳代～50歳代の年齢層—
—「ナマラ」—

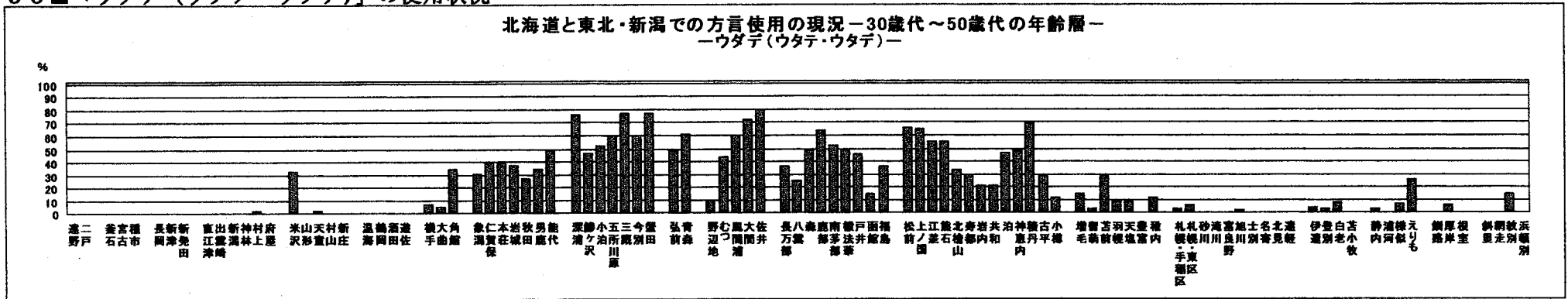


◇「ナマラ」の男性と女性での使用状況を見る。

北海道全域で、男性での使用が優勢な状況で、女性でも勢力があるがその使用差は大きい地点が多い。青森県の下北半島部の先端地域では、勢力は弱いながらもやはり男性で優勢で、女性での使用は微弱である。新潟県では、北海道で見られるような顕著な性別による使用差は見られない。

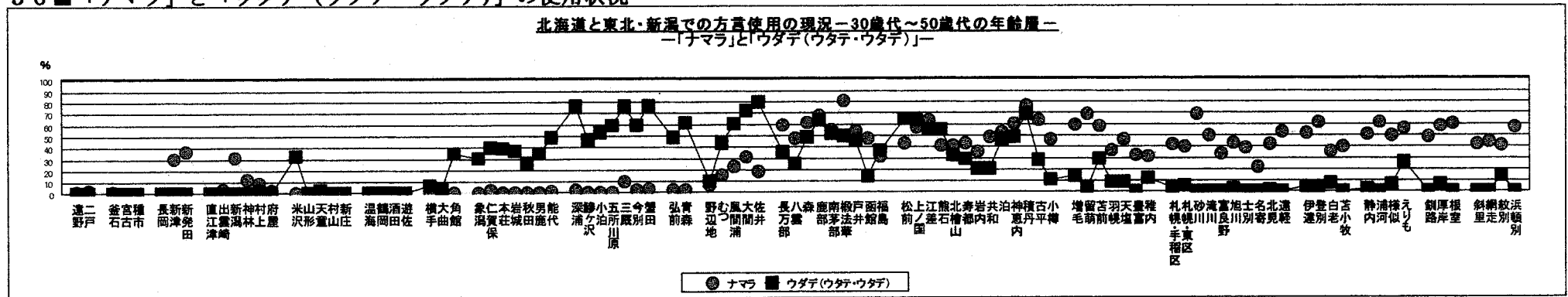
北海道での「ナマラ」は、以前は女性ではほとんど使われていなかったことばである。現在も、グラフで見られるように、30歳代から50歳代の年齢層では、男性での使用に比べ女性での使用は少ない。それが若年層（高校生）では女子でもよく使われるようになっていて、海岸部から内陸部へ浸透して勢力を広げ、北海道では「新方言」になっている。青森県下北半島部の先端地域での「ナマラ」は、北海道の函館地域からの伝播、浸透である。

55 ■ 「ウダデ (ウタテ・ウタデ)」 の使用状況



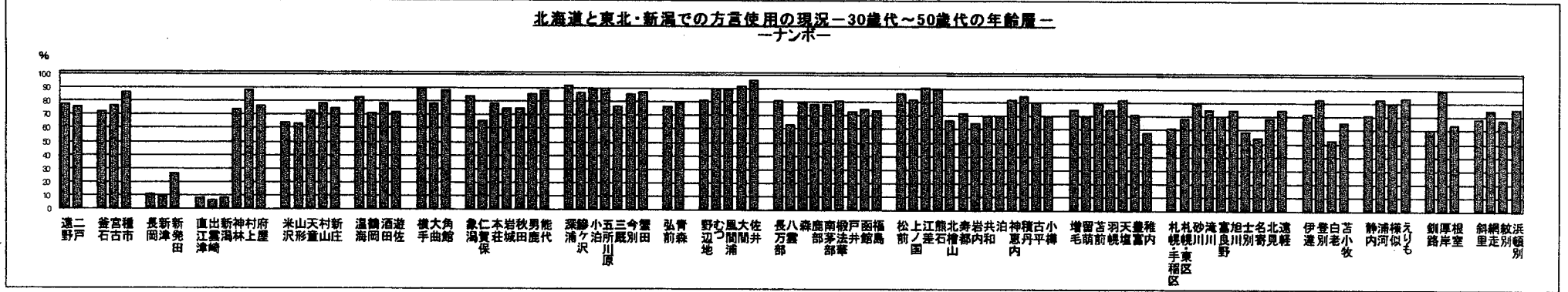
青森県、秋田県、北海道で勢力があり、青森県で優勢である。青森県では、中央部、津軽半島部、野辺地を除く下北半島部で勢力があり、津軽半島部、下北半島部に優勢な地点が多い。下北半島部では、先端地に向かうに従って勢力が強くなっている。秋田県では、海岸部で勢力があり、内陸部では北側の角館で勢力が見られるが、それより南側の大曲、横手では微弱である。山形県では、海岸部では勢力は全くない。内陸部では米沢で勢力があるが、他の地点ではほとんど勢力がない。岩手県では海岸部、内陸部ともに全く勢力がない。新潟県では、海岸部ではほとんど勢力がなく、内陸部では全く勢力がない。北海道では、道南方言圏で優勢で、太平洋側と日本海側の南側、北側の積丹半島部で勢力があり、先端地の積丹で優勢である。道南方言圏以北の日本海側では弱い。太平洋側の胆振地域、日高地域の先端地えりもを除く地点、道東地域、オホーツク海側の地域、内陸部では微弱である。

56 ■ 「ナマラ」と「ウダデ (ウタテ・ウタデ)」 の使用状況



「ウダデ」は、青森県、秋田県、北海道の道南方言圏で勢力があり、青森県で優勢である。山形県内陸部の米沢でも勢力が見られるものの、山形県、岩手県、新潟県ではほとんど勢力がない。北海道では、道南方言圏で勢力があり、「ナマラ」の勢力と拮抗している。太平洋側、オホーツク海側では微弱で、内陸部ではほとんど勢力がない。「ナマラ」は、北海道全域で勢力があり、青森県の下北半島先端地域でも弱いながら勢力が見られ、道南方言圏の函館地域から伝播したものである。下北半島先端部と函館地域との経済的・文化的に密接な関係が背景にある。「ナマラ」は、新潟県でも使用が見られるが、北海道での「ナマラ」の成立過程から見て、北海道の「ナマラ」と新潟県の「ナマラ」とは別系統での発生と思われる。

57 ■ 「ナンボ」



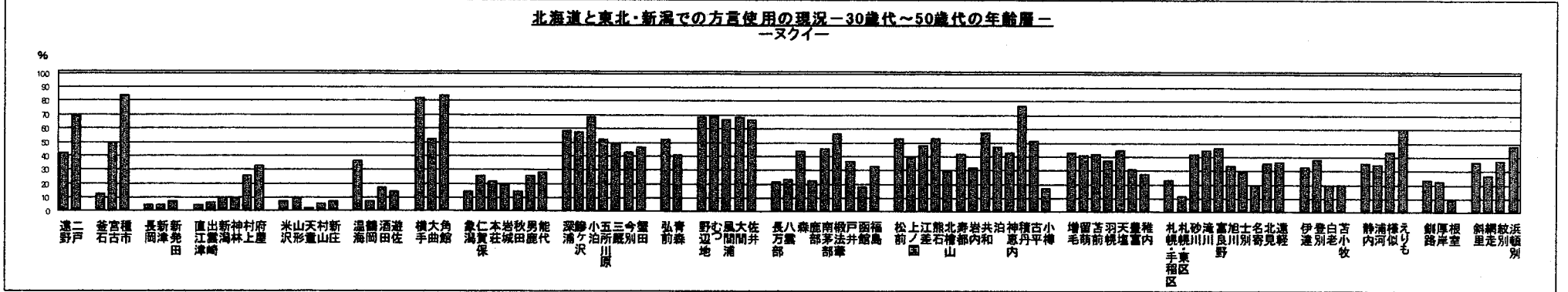
◇「いくら」の意味で「ナンボ」を使うかを問う。

青森県、秋田県、山形県、岩手県、北海道で、海岸部、内陸部に大きな勢力差は見られず、ともに勢力が強く、優勢である。新潟県では、新潟以北の山形県寄り海岸部の府屋、村上、神林で勢力が強く、新潟以南の海岸部、内陸部では、勢力が極めて弱い状況である。

北海道では、道南方言圏日本海側の南側地域で他の地域に比べていくぶん勢力がある傾向である。

*なお、この調査では、「ナンボ」の①量的意味での使用、②時間的意味での使用、③心理的意味での使用を分けて調査することはしていない。それら3用法を含んだデータである。

58 ■ 「ヌクイ」



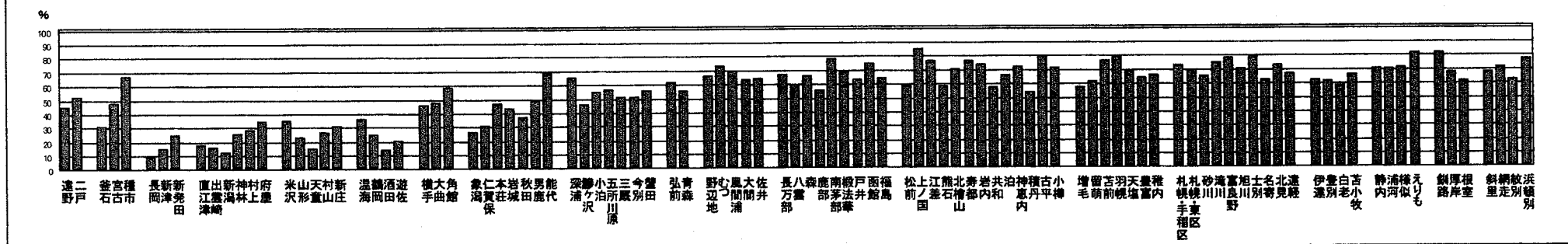
◇「暖かい」の意味で「ヌクイ」を使うかを問う。

青森県、秋田県の内陸部、岩手県、北海道で勢力があり、青森県で優勢である。青森県では、中央部、津軽半島部、下北半島部で勢力があり、下北半島部で優勢である。秋田県では、海岸部では勢力が弱く、内陸部で強く、優勢である。山形県では、海岸部では弱く、内陸部では更に弱く微弱な勢力状況である。岩手県では、海岸部、内陸部ともに青森県寄りの種市、二戸で強い勢力である。海岸部の釜石では極めて弱い。新潟県では、新潟以北の山形県寄り海岸部の府屋、村上で弱い勢力が見られるものの、それ以外の海岸部の地域、そして内陸部では微弱な勢力状況である。

北海道では、道南方言圏の日本海側で勢力がある地点が比較的多く、北側の積丹半島先端地の積丹で強い勢力で、太平洋側日高地域の先端地えりもでも勢力がある。太平洋側の道東地域では他の地域に比べて勢力は弱い状況である。

59 ■ 「ハク」

北海道と東北・新潟での方言使用の現況—30歳代～50歳代の年齢層—
—ハク—

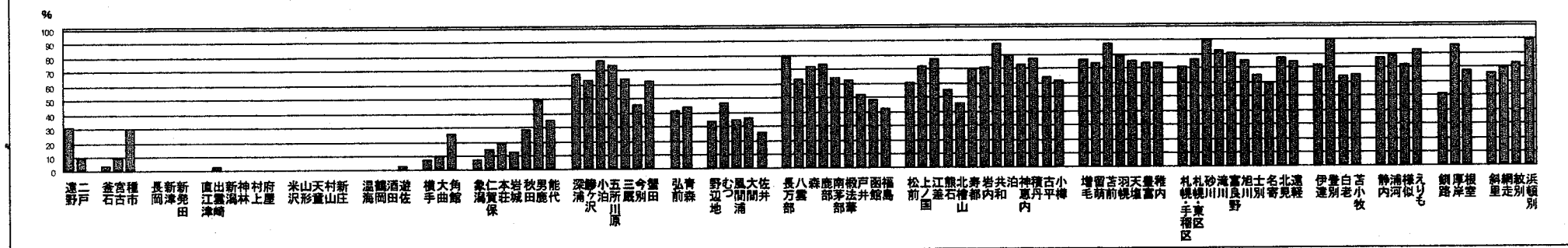


◇ 「はめる・身に付ける」の意味で「ハク」を使うかを問う。

青森県、秋田県、岩手県、北海道で勢力があり、北海道で優勢である。青森県では、中央部、津軽半島部、下北半島部とともに勢力があり、下北半島部でやや優勢な状況である。秋田県では、海岸部、内陸部ともに、青森県寄りの能代、角館で比較的優勢で、内陸部で優勢な傾向である。山形県では、海岸部、内陸部ともに勢力は強くない。新潟県では、勢力は弱い。新潟県では、海岸部、内陸部ともに新潟以北の山形県寄りの地域でいくぶん優勢な状況である。北海道では、地域間に大きな差がなく、一様に強い勢力状況であるが、太平洋側の胆振地域で他の地域に比べてやや弱い傾向である。

60 ■ 「バクル」

北海道と東北・新潟での方言使用の現況—30歳代～50歳代の年齢層—
—バクル—

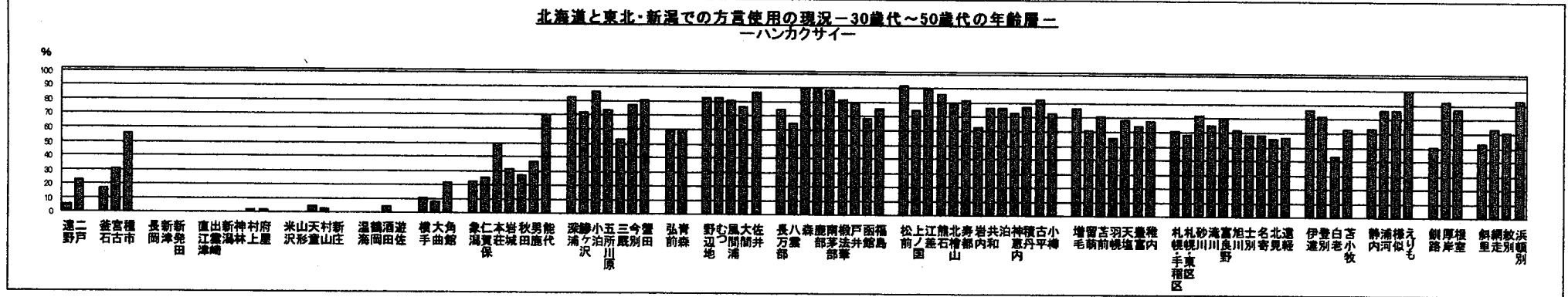


◇ 「交換する」の意味で「バクル」を使うかを問う。

青森県、北海道で勢力があり、北海道で優勢である。青森県では、中央部、下北半島部では勢力が弱く、津軽半島部で優勢である。秋田県では、秋田以北の青森県寄り海岸部の能代、男鹿では勢力はあるが、秋田以南の海岸部、内陸部では勢力は弱い状況である。山形県では、海岸部ではほとんど勢力がなく、内陸部では全く勢力がない。岩手県では、海岸部、内陸部ともに勢力は弱い。新潟県では、海岸部ではほとんど勢力がなく、内陸部では全く勢力がない状況である。

北海道では、海岸部、内陸部ともに勢力があるが、道南方言圏の南側で勢力の弱い地点が多い状況である。

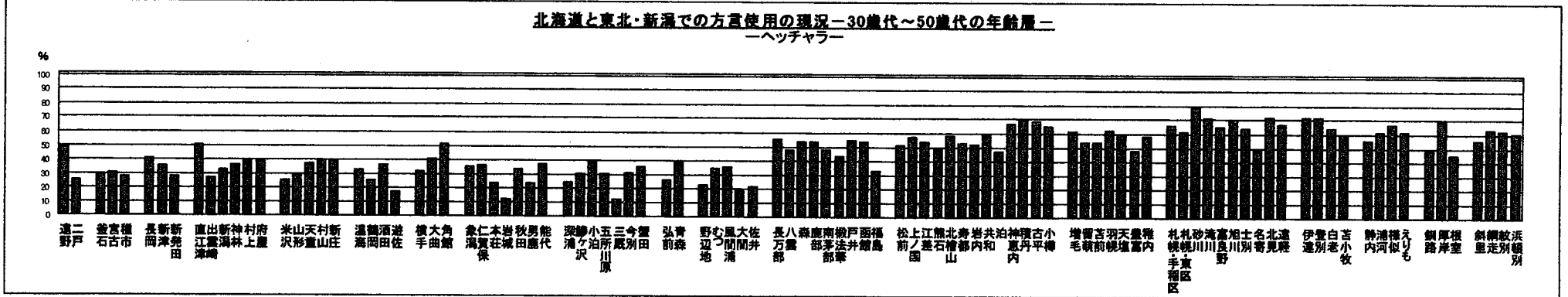
6.1 ■ 「ハンカクサイ」



◇「ばか」の意味で「ハンカクサイ」を使うかを問う。

青森県、北海道で勢力があり、優勢である。青森県では、中央部ではやや弱く、津軽半島部、下北半島部で優勢である。秋田県では、青森県寄り海岸部の能代で勢力があるが、勢力の弱い地点が多く、内陸部でも弱い。山形県では、海岸部、内陸部ともに微弱である。岩手県では、青森県寄り海岸部の種市では勢力があるが、他の海岸部、内陸部では弱い。新潟県では、新潟以北山形県寄り海岸部の府屋、村上では微弱で、他の地点と内陸部では勢力がない。北海道では、海岸部、内陸部ともに勢力があり、道南方言圏で比較的優勢である。太平洋側の日高地域先端地のえりも、道東地域の厚岸と先端地の根室、オホーツク海側の先端地の浜頓別では地域内の他の地点よりも優勢な状況である。内陸部では海岸部よりもいくぶん弱い傾向である。

6.2 ■ 「ヘツチャラ」



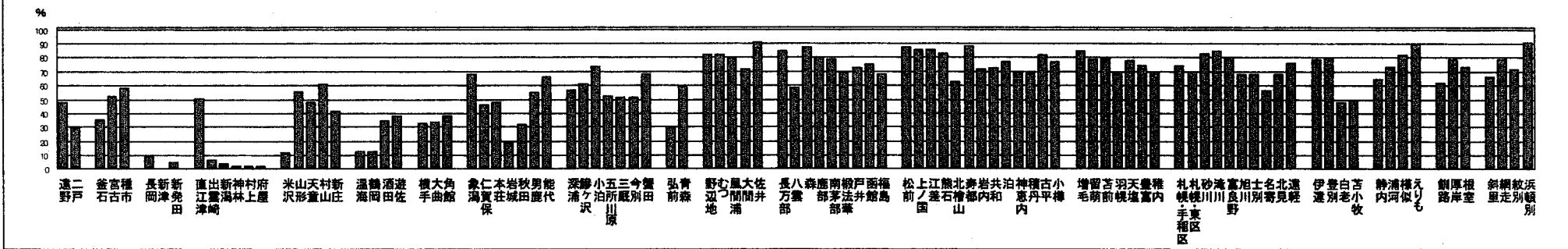
◇「平気」の意味で「ヘツチャラ」を使うかを問う。

北海道で勢力があり、優勢である。青森県では、中央部、津軽半島部、下北半島部で大きな勢力差はみられず、同じような勢力状況である。秋田県では、内陸部の角館で他の地点に比べいくぶん勢力があるが、海岸部、内陸部ともに同じような勢力状況である。山形県では、海岸部に比べ内陸部でいくぶん勢力がある。岩手県では、内陸部の南側遠野で他の地点に比べ勢力がある状況である。

北海道では、海岸部、内陸部ともに勢力がある。道南方言圏では、太平洋側、日本海側の南側の地域で北側の積丹半島地域に比べいくぶん勢力が弱く、福島で弱い状況である。道南方言圏以北の日本海側地域、太平洋側の日高地域、オホーツク海側の地域でもいくぶん弱い勢力状況で、太平洋側の道東地域でも釧路、根室では弱い状況である。内陸部では道北の名寄で弱い状況である。

63 ■ 「ミッタクナイ」

北海道と東北・新潟での方言使用の現況－30歳代～50歳代の年齢層－
－ミッタクナイ－

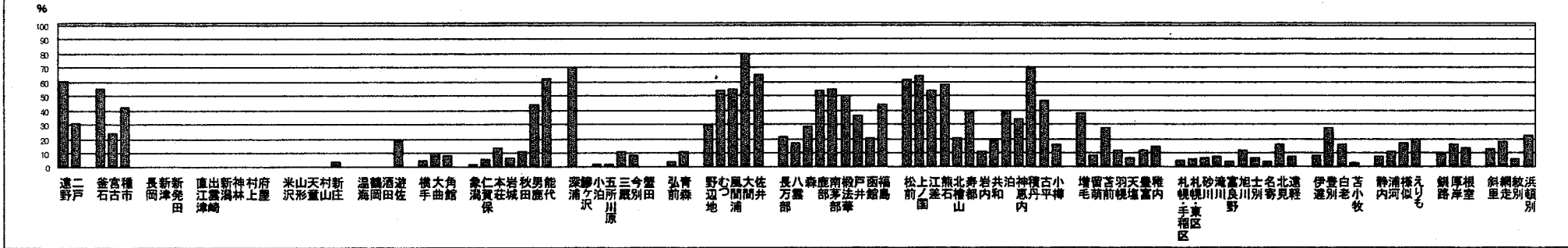


◇「醜い」の意味で「ミッタクナイ」を使うかを問う。

青森県、北海道で勢力があり、青森県の下北半島部、北海道で優勢である。青森県では、中央部の弘前では勢力が弱い。中央部、津軽半島部は下北半島部に比べ勢力が弱く、下北半島部で優勢である。秋田県では、岩城で勢力が弱い状況であるが、海岸部では内陸部より優勢である。山形県では、海岸部よりも内陸部で優勢であるが、海岸部の鶴岡、温海、内陸部の米沢では勢力が弱い状況である。岩手県では、海岸部で比較的優勢で、南下するに従って勢力が弱くなっている。新潟県では、海岸部の南側、富山県寄りの直江津で勢力があるが、他の海岸部の地点や内陸部では微弱である。北海道では、海岸部、内陸部ともに勢力があるが、太平洋側胆振地域の白老、苫小牧では勢力が弱い。日高地域では先端地へ向かって強くなっている。

64 ■ 「ムッタリ」

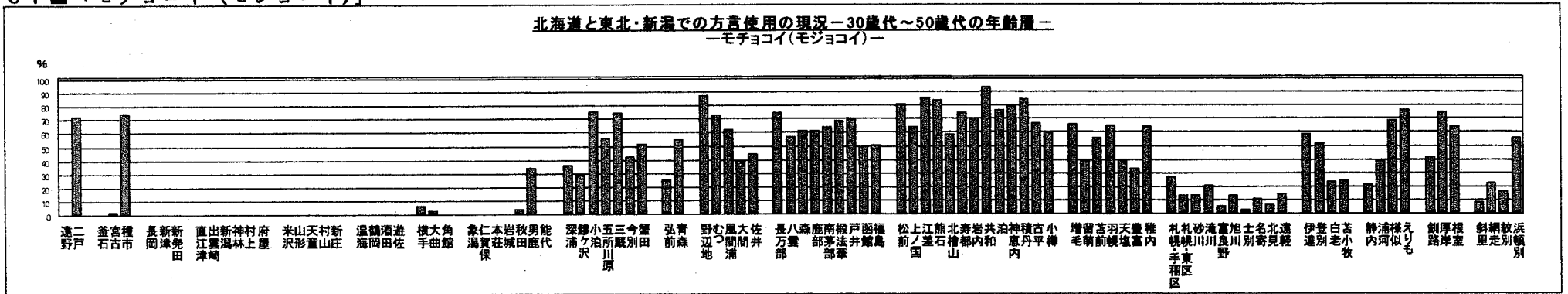
北海道と東北・新潟での方言使用の現況－30歳代～50歳代の年齢層－
－ムッタリ－



◇「いつも・しょっちゅう」の意味で「ムッタリ」を使うかを問う。

青森県、秋田県、岩手県、北海道で勢力があり、青森県の下北半島部、北海道の道南方言圏で優勢である。青森県では、下北半島部と津軽半島部の秋田県寄り深浦で勢力があり、津軽半島部の他の地域、中央部では微弱である。秋田県では、青森県寄り海岸部の能代、男鹿で勢力があるが、他の海岸部、内陸部では微弱である。山形県では、秋田県寄り海岸部の遊佐で弱い勢力で、他の海岸部、内陸部では新庄を除いて全く勢力がない。岩手県では海岸部、内陸部で同じような勢力である。新潟県では、全く勢力がない。*青森県の津軽半島部ではムッタト、ムッタドが勢力を持ち、ムッタドが極めて優勢である。北海道では、道南方言圏で勢力があり、太平洋側の亀田半島先端地域、日本海側の南側、北側の積丹半島先端地積丹で優勢である。道南方言圏以北の日本海側、太平洋側の胆振地域、日高地域、道東地域、オホーツク海側地域では弱く、内陸部では微弱な状況である。*北海道ではムッタドは勢力がない。

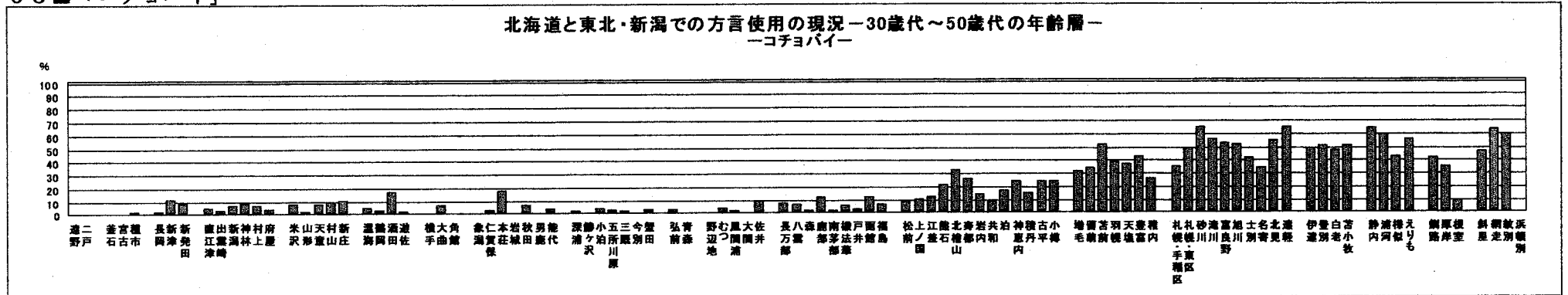
67 ■ 「モチョコイ (モジョコイ)」



◇「くすぐったい」の意味で「モチョコイ (モジョコイ)」を使うかを問う。

青森県、北海道で勢力があり、北海道で優勢である。青森県では、津軽半島部、下北半島部で優勢であるが、津軽半島部では秋田県寄りの鱈ヶ沢、深浦、下北半島部では先端地の佐井、大間では勢力が弱い。秋田県では、青森県寄り海岸部の男鹿で勢力があるが、海岸部の他の地点、内陸部ではほとんど勢力がない状況である。山形県では全く勢力がない。岩手県では、海岸部、内陸部ともに青森県寄りの種市、二戸で勢力が強いが、他の地点では勢力はない。北海道では、海岸部で勢力があり、道南方言圏で優勢で、日本海側で勢力が強い。大平洋側の胆振地域では道南方言圏寄りの伊達、登別、日高地域では類似、先端地のえりも、道東地域では、厚岸、先端地の根室、オホーツク海側では先端地の浜頓別で優勢である。内陸部では、勢力は弱い状況である。

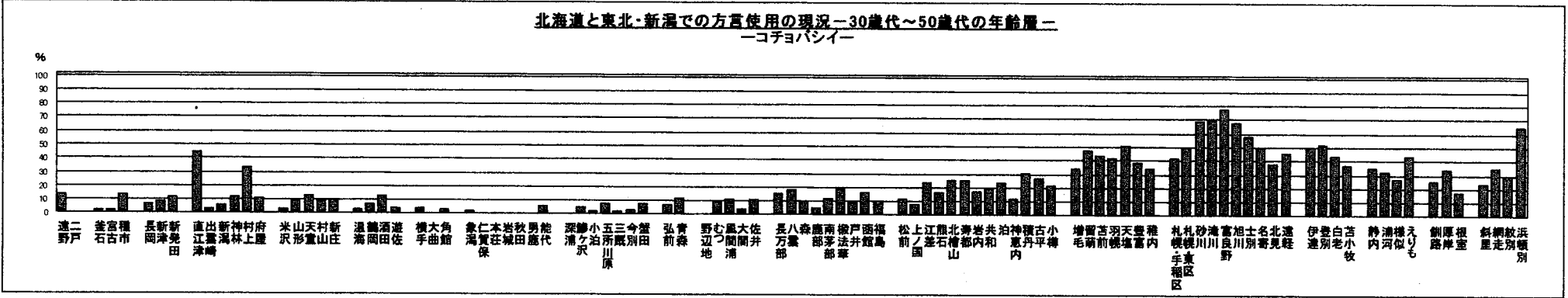
68 ■ 「コチョバイ」



◇「くすぐったい」の意味で「コチョバイ」を使うかを問う。

北海道で勢力があり、優勢である。青森県では、中央部、津軽半島部、下北半島部でともに勢力は極めて微弱である。秋田県では、海岸部では本荘でいくぶん勢力が見られるものの、他の地点では極めて微弱で、内陸部では、ほとんど勢力がない。山形県では、海岸部の酒田で弱いだが、海岸部の他の地点、内陸部では微弱な勢力である。岩手県では、海岸部、内陸部ともにほとんど勢力がない。新潟県では、海岸部、内陸部ともに微弱な勢力状況である。北海道では、内陸部、海岸部では大平洋側の日高地域、オホーツク海側の地域で優勢である。道南方言圏以北の日本海側、大平洋側の胆振地域ではそれに次ぐ勢力で、道東地域ではいくぶん弱く、根室では微弱な勢力である。道南方言圏では大平洋側で微弱で、日本海側で弱い。なお、内陸部では道南方言圏寄りの札幌手稲地区、道北の士別、名寄で弱く、海岸部では道東の先端地根室では極めて弱く、オホーツク海側の先端地浜頓別では勢力が全くない。

69 ■ 「コチョバシイ」

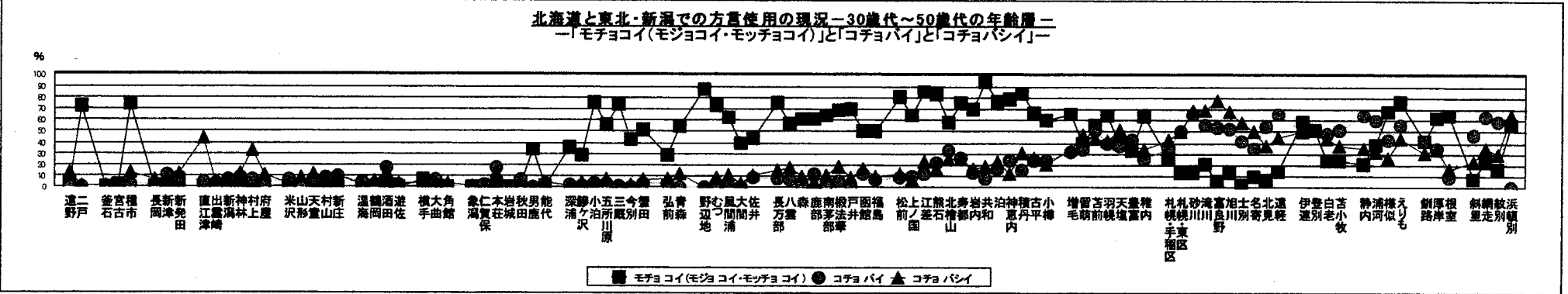


◇ 「くすぐったい」の意味で「コチョバシイ」を使うかを問う。

北海道で勢力があり、優勢である。青森県では、中央部、津軽半島部、下北半島部ともに勢力は微弱である。秋田県では、海岸部、内陸部ともに極めて微弱である。山形県、岩手県では、海岸部、内陸部ともに微弱である。新潟県では、海岸部で新潟以北の村上、新潟以南富山県寄りの直江津で勢力があるが、他の地点では微弱で、内陸部でも微弱な勢力である。

北海道では、内陸部で優勢で、道央から道北地域にかけて勢力が強い状況である。海岸部の道南方言圏以北の日本海側地域、大太平洋側の胆振地域では内陸部に次いで勢力があり、大太平洋側の日高地域、道東地域ではそれに比べて弱い状況で、オホーツク海側の地域でも先端地の浜頓別を除いて同じように弱い勢力状況である。道南方言圏では勢力が弱く、日本海側の地域に比べ、太平洋側の地域では更に弱い勢力状況である。

70 ■ 「モチョコイ (モジョコイ)」と「コチョバイ」と「コチョバシイ」の使用状況

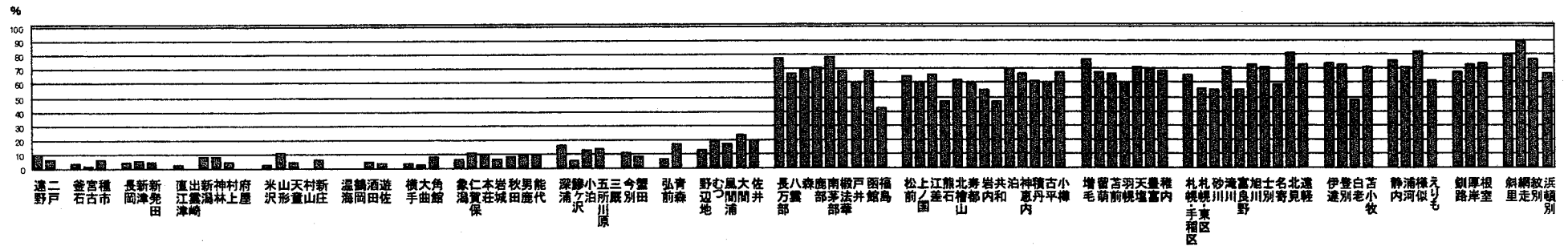


◇ 「モチョコイ (モジョコイ)」、「コチョバイ」、「コチョバシイ」の使用状況を見る。

「モチョコイ (モジョコイ・モッチョコイ)」は、青森県、岩手県の青森県寄りの地域、北海道道では道南方言圏で優勢で、太平洋側の胆振地域と日高地域、道東地域、オホーツク海側の道北地域でも優勢な地点があり、海岸部で勢力を持っている。内陸部では勢力は弱く、青森県から北海道の海岸部、とりわけ日本海側へ強く伝播し広まった様子がうかがわれる。「コチョバイ」は、青森県、秋田県、山形県、岩手県、新潟県では勢力は極めて弱い。北海道では、道南方言圏では弱いが、太平洋側、オホーツク海側、内陸部では優勢である。「コチョバシイ」は、「コチョバイ」と同じような分布状況で、東北では極めて弱く、新潟県では弱い。北海道では道南方言圏以外の地域で勢力が強く、内陸部では道央から道北にかけて「コチョバイ」よりも優勢である。

71 ■ 「ルイベ」

北海道と東北・新潟での方言使用の現況—30歳代～50歳代の年齢層—
—ルイベ—



◇ 「凍った鮭の刺身」の意味で「ルイベ」を使うかを問う。

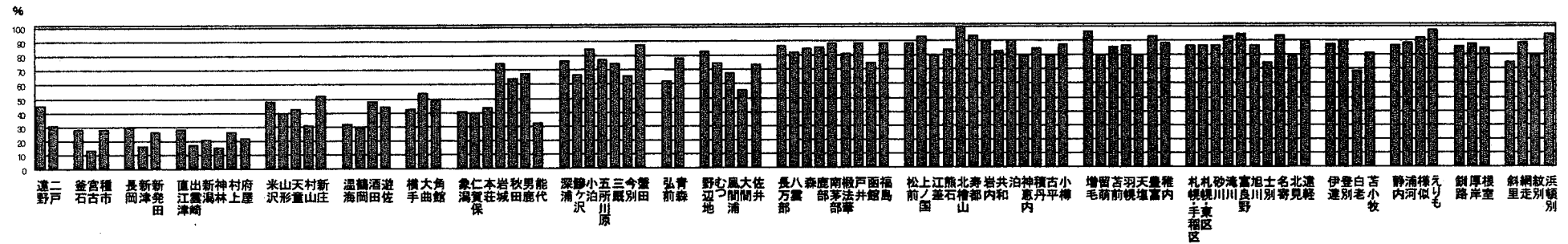
北海道で勢力があり、優勢である。青森県では、中央部、津軽半島部、下北半島部でともに勢力は弱い。秋田県、山形県、岩手県、新潟県では、海岸部、内陸部ともに微弱な状況である。

北海道では、海岸部、内陸部で大きな使用差は見られず、ともに勢力がある。

*ルイベ（凍鮭・凍らせた魚・凍魚の刺身）は、アイヌ語からの北海道方言である。

72 ■ 「アオタン」

北海道と東北・新潟での方言使用の現況—30歳代～50歳代の年齢層—
—アオタン—

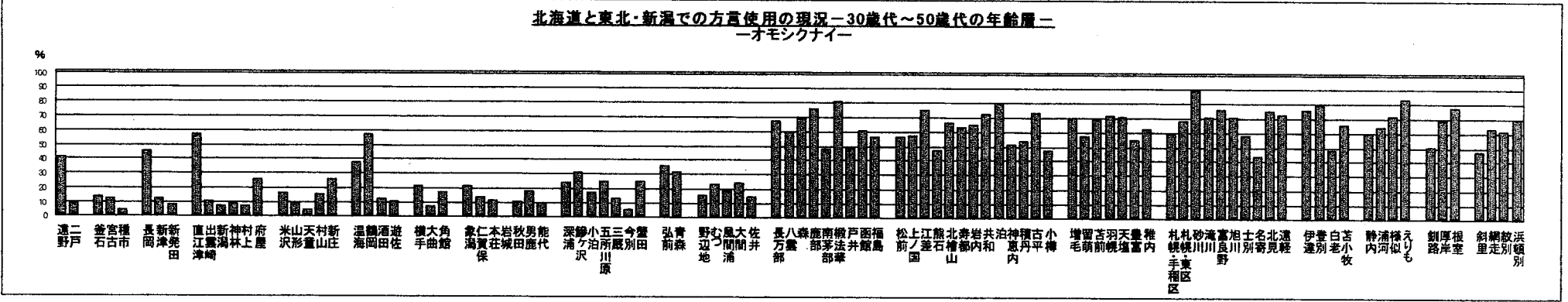


◇ 「打撲による内出血で青黒くなったもの」の意味で「アオタン」を使うかを問う。

青森県、北海道で勢力があり、北海道で優勢である。次いで秋田県、山形県で勢力がある。青森県では、中央部、津軽半島部、下北半島部で勢力があり、津軽半島部でいくぶん優勢な傾向である。秋田県では、海岸部の男鹿、秋田、岩城で優勢で、他の海岸部の地点、内陸部では大きな差のない勢力状況である。山形県では、海岸部、内陸部で大きな差がない勢力状況である。岩手県では、海岸部、内陸部で大きな差のない状況であるが、内陸部の遠野でいくぶん優勢な傾向である。新潟県では、海岸部、内陸部で同じような勢力状況である。

北海道では、海岸部、内陸部で大きな使用差は見られず、ともに極めて強い勢力状況である。

7 3 ■ 「オモシクナイ」

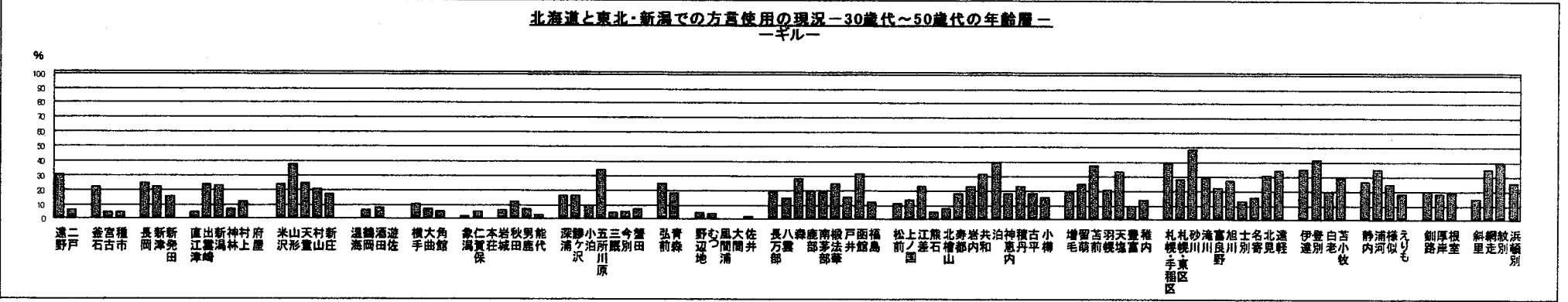


◇ 「おもしろくない」の意味で「アモシクナイ」を使うかを問う。

北海道で勢力があり、優勢である。青森県では中央部、津軽半島部、下北半島部でそれぞれ勢力は弱い、中央部でいくぶん優勢な傾向である。秋田県では、海岸部、内陸部ともに弱い勢力である。山形県では、新潟県寄り海岸部の鶴岡、温海では勢力があるが、秋田県寄り海岸部の遊佐、酒田では弱く、内陸部でも弱い勢力状況である。岩手県では、内陸部の遠野で勢力が見られるものの、他では弱い。新潟県では、新潟以南で富山県寄り海岸部の直江津、内陸部の長岡で勢力があるが、他の地点では弱い。

北海道では、海岸部、内陸部で地点により勢力の差が見られるものの、ともに勢力がある。道南方言圏の南側と北側で勢力の弱い地点が比較的多い。

7 4 ■ 「ギル」

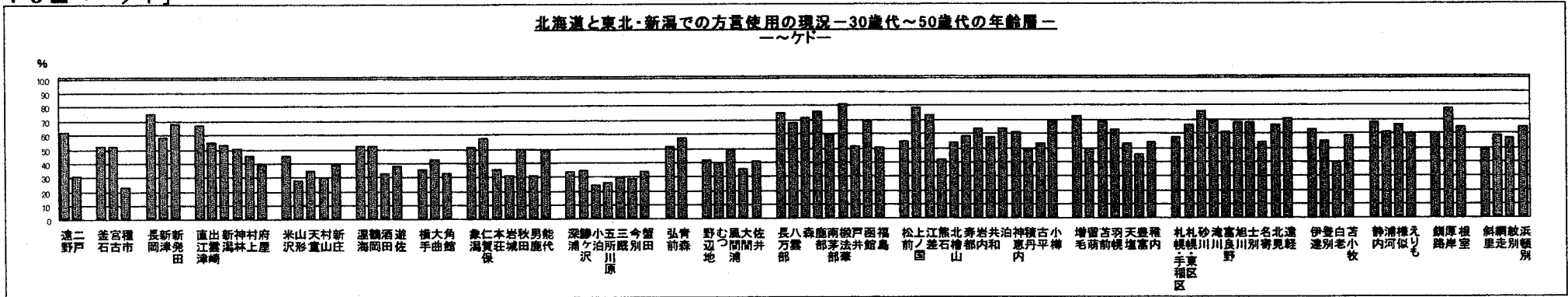


◇ 「盗む」の意味で「ギル」を使うかを問う。

強くはないが、山形県と北海道で勢力があり、北海道で比較的優勢である。青森県では、中央部、津軽半島部では弱いながらも勢力があり、五所川原では他の地点より勢力がある。下北半島部では極めて微弱である。秋田県では、海岸部、内陸部ともに微弱である。山形県では、海岸部では微弱で、内陸部では強くはないが勢力がある。岩手県では海岸部、内陸部ともに南側の釜石、遠野で弱いながらも勢力が見られるが、他の地点では微弱な状況である。新潟県では、海岸部、内陸部ともに弱い勢力状況である。

北海道では、海岸部、内陸部ともに強い勢力は見られない。地域的に大きな差は見られないが、大平洋側の道東地域では比較的弱い勢力状況である。

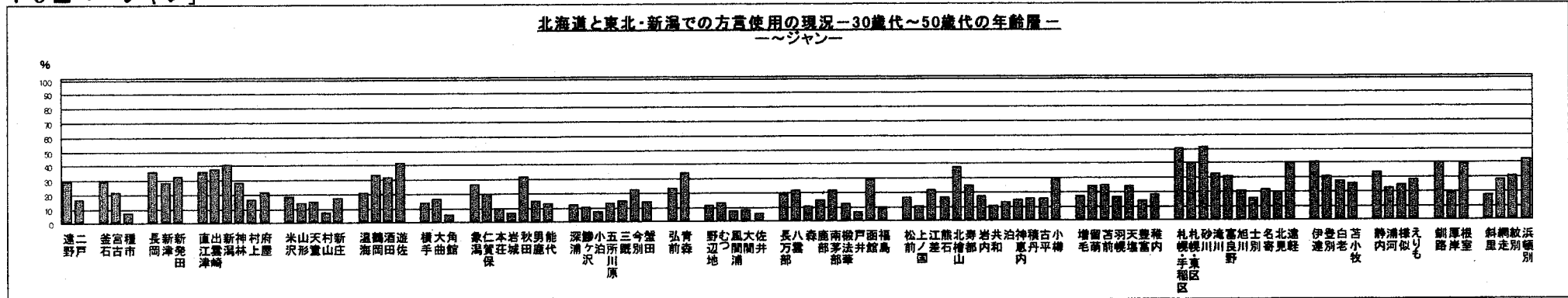
75 ■ 「～ケド」



◇ 「～けれども」の意味で「～ケド」を使うかを問う。

新潟県、北海道で比較的勢力があり、北海道で優勢である。青森県では、中央部で優勢で、下北半島部でそれに次いで勢力があり、津軽半島部では弱い勢力である。秋田県では、海岸部で優勢で、内陸部ではいくぶん弱い状況である。山形県では、海岸部でいくぶん優勢な傾向で、新潟県寄り海岸部の鶴岡、温海で比較的勢力が強い。岩手県では、海岸部、内陸部で大きな差のない状況で、内陸部、海岸部ともに青森県寄りの種市、二戸で勢力が弱い。新潟県では、海岸部、内陸部ともに勢力があり、海岸部では南に向かうに従って勢力が増している状況である。
北海道では、海岸部、内陸部ともに勢力があり、海岸部、内陸部で大きな差はないが、大平洋側の胆振地域、オホーツク海側地域でやや弱い傾向である。

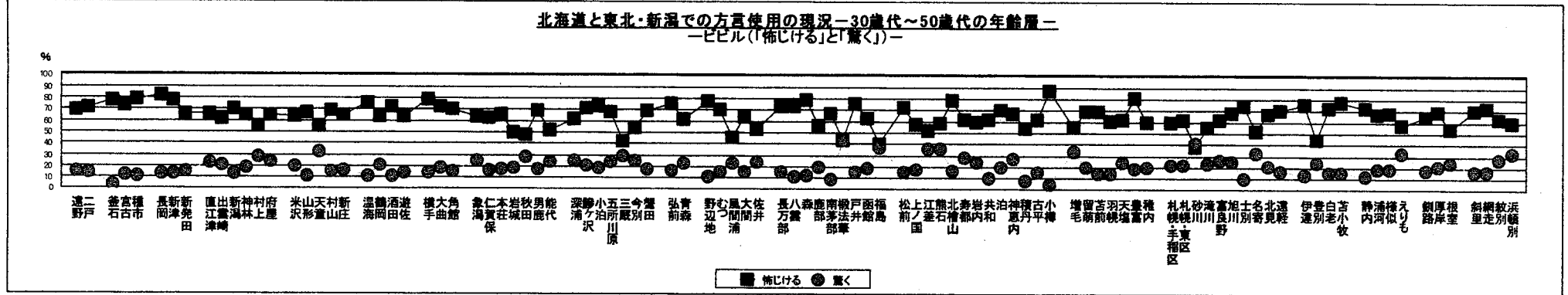
76 ■ 「～ジャン」



◇ 「～ではないか」の意味で「～ジャン」を使うかを問う。

勢力は強くないが、山形県の海岸部、新潟県、北海道で比較的勢力があり、北海道の内陸部道央地域でやや優勢な傾向である。青森県では、中央部でいくぶん優勢で、次いで津軽半島部で、下北半島部では微弱な状況である。秋田県では、弱いが海岸部でいくぶん勢力があり、内陸部では極めて弱い状況である。山形県では、内陸部に比べ海岸部で勢力があり、秋田県寄りに向かって勢力がある。内陸部では弱い。岩手県では海岸部、内陸部ともに南側の釜石、遠野で優勢であるが、勢力は弱い。新潟県では、海岸部、内陸部で同じような勢力状況で、海岸部では新潟以北で比較的に勢力が弱い状況である。
北海道では、内陸部の道央地域で優勢な傾向で、海岸部の道南方言圏では勢力の弱い地点が多く、内陸部の道北でも弱い地点が多い状況である。

77 ■ 「ビビル」の「怖じける」と「驚く」の使用状況

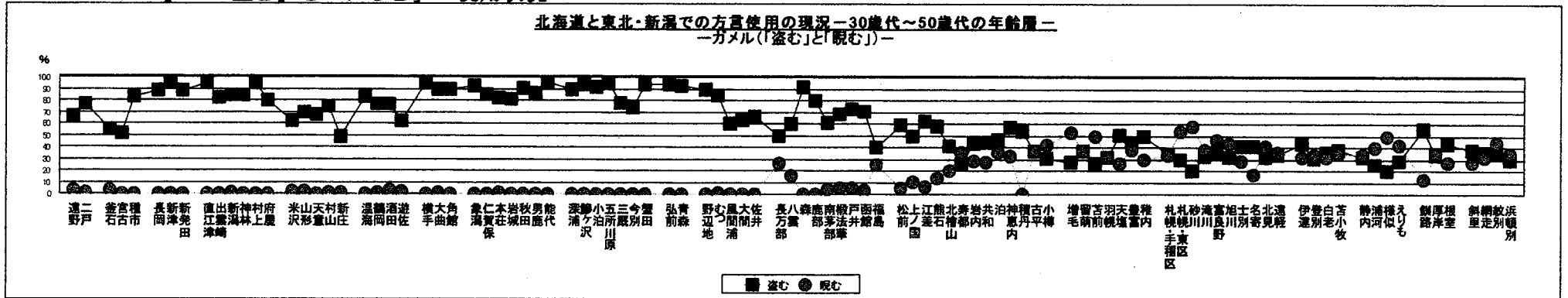


◇ 「ビビル」を「怖じける」と「驚く」のどちらの意味で使うかを問う。

「怖じける」の意味での使用は、青森県、秋田県、山形県、岩手県、新潟県、北海道の全地域で勢力があり、「驚く」の意味での使用よりも優勢な状況である。

「驚く」の意味での使用は、北海道で、海岸部でも内陸部でも他県よりも勢力がある地点が見られる状況である。

78 ■ 「ガメル」の「盗む」と「にらむ」の使用状況



◇ 「ガメル」を「盗む」と「にらむ」のどちらの意味で使うかを問う。

「盗む」の意味での使用は、青森県、秋田県、山形県、岩手県、新潟県、北海道で勢力があり、青森県、秋田県、新潟県、北海道の道南方言圏で「にらむ」の意味での使用よりも優勢である。

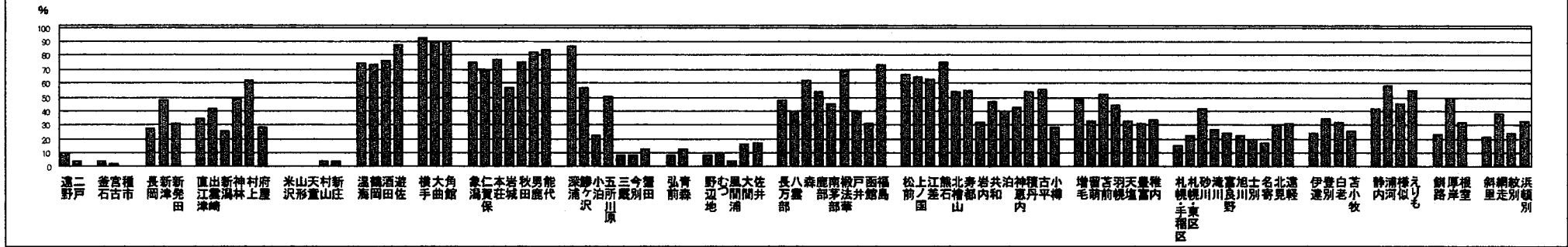
「にらむ」の意味での使用は、北海道で勢力があり優勢で、青森県、秋田県、山形県、岩手県、新潟県では極めて微弱である。

北海道での「にらむ」の意味での使用は、道南方言圏太平洋側の亀田半島先端地域、日本海側の南側と北側の積丹半島先端地積丹では微弱な状況であるが、積丹半島の先端地積丹を除く道南方言圏北側の地域、太平洋側の胆振地域、道東地域、オホーツク海側の地域では「盗む」に接近する勢力状況で、道南方言圏以北の日本海側、太平洋側の日高地域、内陸部の道央から道北地域では「盗む」を凌ぐ勢力になっている地点も見られる状況である。

語法編

01 命令表現「見レ」

北海道と東北・新潟での方言使用の現況—30歳代～50歳代の年齢層—
—命令表現「見レ」—

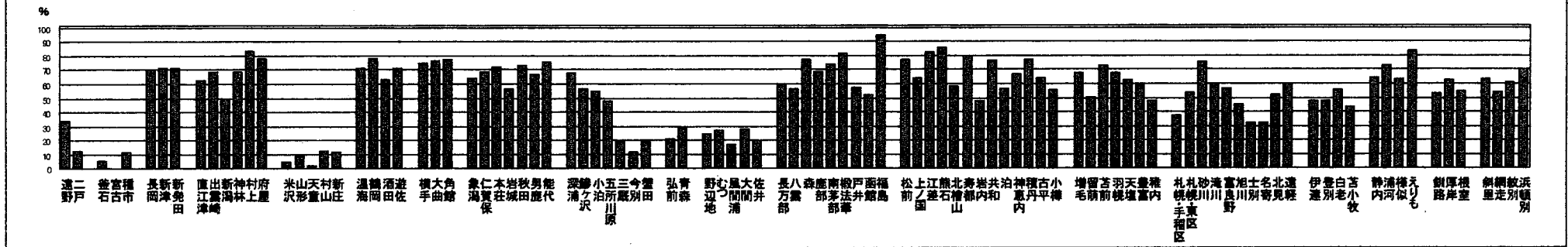


◇「あれミレ、でっかいよ。」を例文として、命令表現「ミレ」の使用を問う。

青森県、秋田県、山形県、新潟県、北海道で勢力があり、秋田県、山形県の海岸部で優勢である。青森県では、津軽半島部の日本海側秋田県寄りの海岸部鱒ヶ沢、深浦で優勢で、五所川原でも勢力があるが、津軽半島部の他の地点、中央部、下北半島部では極めて弱い。秋田県では、海岸部、内陸部ともに勢力が強く、内陸部でやや優勢である。山形県では海岸部で優勢で、内陸部では極めて微弱で、天童、山形、米沢では全く勢力がない。岩手県では、海岸部、内陸部ともに極めて微弱である。新潟県では、海岸部、内陸部ほぼ同じような勢力状況であるが、新潟以北山形県寄りの村上で優勢である。北海道では、道南方言圏日本海側の南側でやや優勢な状況で、太平洋側の胆振地域、オホーツク海側の地域、内陸部では弱い状況である。

02 命令表現「起キレ」

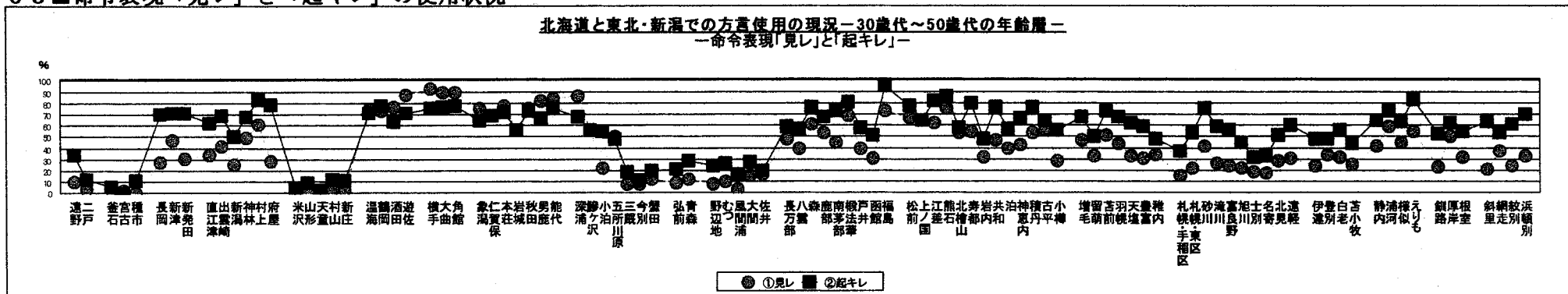
北海道と東北・新潟での方言使用の現況—30歳代～50歳代の年齢層—
—命令表現「起キレ」—



◇「早くオキレ。」を例文として、命令形「オキレ」の使用を問う。

青森県、秋田県、山形県、新潟県、北海道で勢力があり、北海道の道南方言圏でやや優勢な傾向である。青森県では、津軽半島部の日本海側秋の鱒ヶ沢、深浦、小泊で優勢で、五所川原でも勢力があり、津軽半島部の他の地点、中央部、下北半島部では弱い。秋田県では、海岸部、内陸部ともに勢力がある。山形県では海岸部で優勢で、内陸部では微弱である。岩手県では、海岸部、内陸部ともに弱い。新潟県では、海岸部、内陸部ほぼ同じような勢力状況であるが、新潟以北山形県寄りの府屋、村上でいくぶん優勢な状況である。北海道では、道南方言圏日本海側でやや優勢な傾向で、太平洋側の胆振地域ではやや弱く、内陸部では道北の名寄、士別では勢力が弱い状況である。

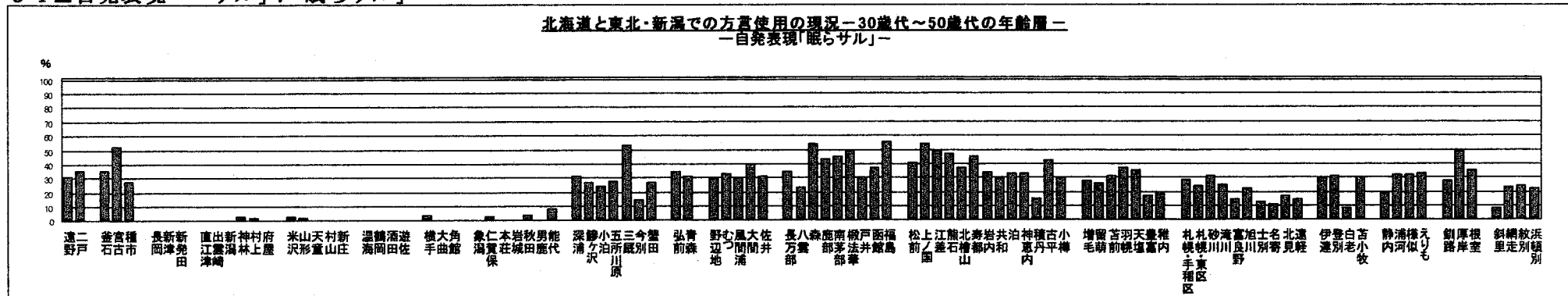
03 ■命令表現「見レ」と「起キレ」の使用状況



◇命令表現「見レ」と「起キレ」の使用状況を見る。

「見レ」「起キレ」ともに、青森県、秋田県、山形県、新潟県、北海道で勢力がある。青森県では、津軽半島部日本海側の鱒ヶ沢、深浦、小泊で優勢で、五所川原でも勢力がある。津軽半島部の他の地点、中央部、下北半島部では勢力が弱い。秋田県では、海岸部、内陸部ともに勢力がある。山形県では海岸部で優勢で、内陸部では弱い。岩手県では、海岸部、内陸部ともに弱い。新潟県では、海岸部、内陸部ほぼ同じようであるが、新潟以北山形県寄りの府屋、村上でいくぶん優勢である。北海道では、道南方言圏日本海側でやや優勢で、太平洋側の胆振地域ではやや弱く、内陸部では道北の名寄、士別では弱い。青森県の深浦から秋田県、山形県の海岸部にかけては「見レ」が優勢で、青森県の多くの地点と、新潟県、北海道では「起キレ」が優勢である。

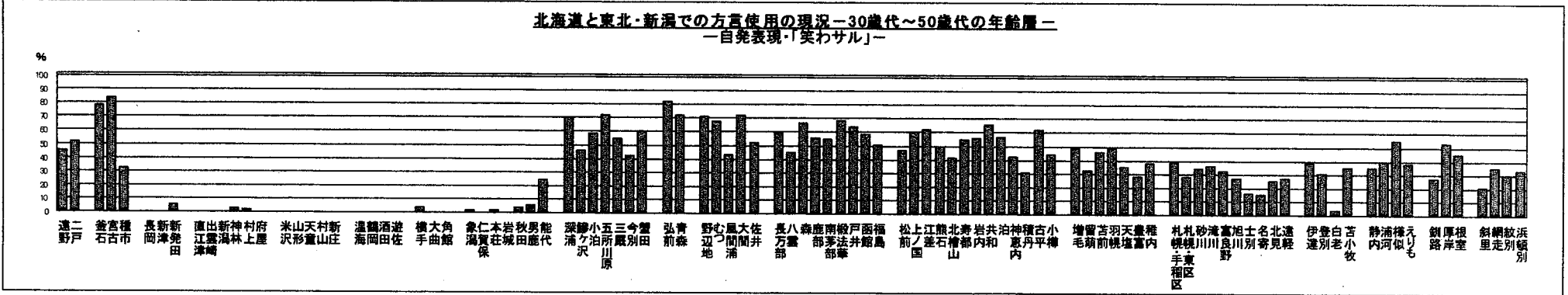
04 ■自発表現「～サル」:「眠らサル」



◇「いつの間にか、眠らサルさ。」を例文として、自発表現「～サル」の使用を問う。

青森県、岩手県、北海道で勢力があり、北海道の道南方言圏で優勢である。青森県では、中央部、津軽半島部、下北半島部で勢力があり、津軽半島先端地の三厩で優勢である。秋田県では、海岸部、内陸部ともにほとんど勢力がない。山形県では、海岸部では全く勢力がなく、内陸部ではほとんど勢力がない。岩手県では、海岸部の宮古で優勢である。新潟県では、海岸部ではほとんど勢力がなく、内陸部では全く勢力がない状況である。北海道では、道南方言圏で優勢であるが、北側の積丹半島先端地の積丹では弱い。道南方言圏以北日本海側では先端地域の豊富、稚内で弱く、太平洋側胆振地域の白老、オホーツク海側地域の斜里、内陸部の道北の士別、名寄では微弱な勢力状況である。

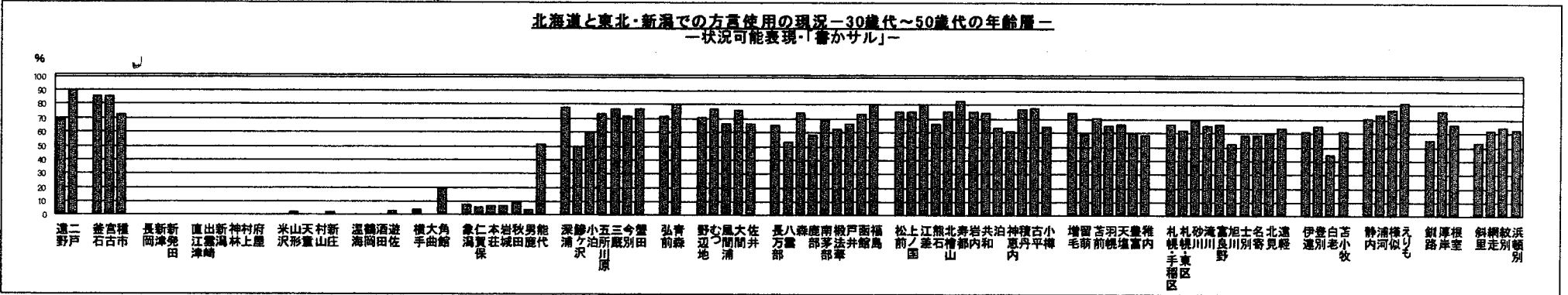
05 ■自発表現「～サル」:「笑わサル」



◇「何となく、笑わサルんだ。」を例文として、自発表現「～サル」の使用を問う。

青森県、岩手県、北海道で勢力があり、青森県、岩手県の海岸部、北海道の道南方言圏で優勢である。青森県では、中央部、津軽半島部、下北半島部で勢力があり、中央部でやや優勢な傾向である。秋田県では、青森県寄り海岸部の能代では弱いながらも勢力があるが、他の海岸部では極めて微弱で、内陸部ではほとんど勢力がない。山形県では、海岸部、内陸部ともに全く勢力がない。岩手県では、海岸部で優勢であるが、青森県寄りの種市では内陸部よりも弱い状況である。新潟県では、海岸部、内陸部ともにほとんど勢力がない状況である。
北海道では、道南方言圏で優勢で、太平洋側の胆振地域、オホーツク海側、内陸部では弱く、胆振地域の白老では極めて微弱な状況である。

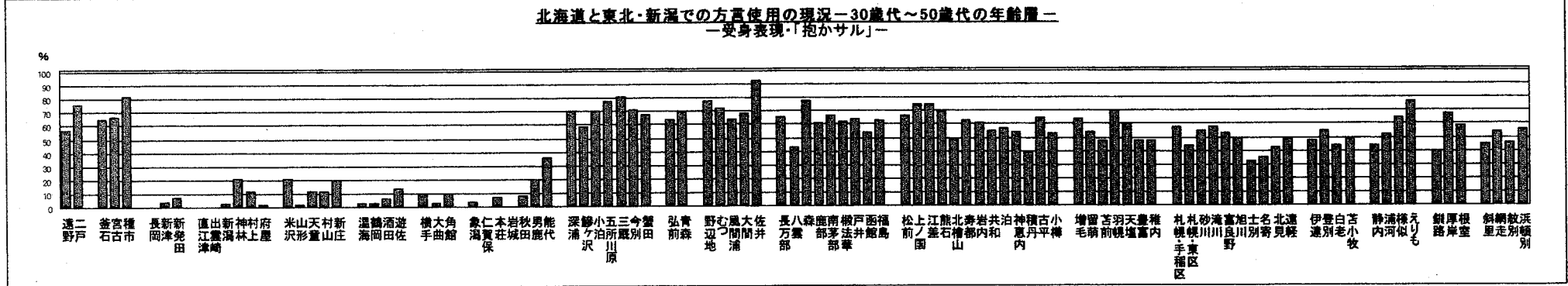
06 ■状況可能表現「～サル」:「書かサル」



◇「このマジック書かサルの？ 書かサらないの？」を例文として、状況可能表現「～サル」の使用を問う。

青森県、岩手県、北海道で勢力があり、岩手県でやや優勢な傾向である。青森県では、中央部、津軽半島部、下北半島部でともに勢力がある。秋田県では、青森県寄り海岸部の能代では勢力があるが、他の海岸部では微弱で、内陸部でも角館では弱く、大曲、横手では極めて弱い。山形県では、海岸部、内陸部ともにほとんど勢力がない。岩手県では、海岸部、内陸部ともに勢力がある。新潟県では、海岸部、内陸部ともに全く勢力がない状況である。
北海道では、道南方言圏の日本海側、太平洋側の日高地域でやや優勢で、日高地域では先端地に向かって従って勢力を増している。太平洋側の胆振地域、オホーツク海側の地域ではやや弱い状況である。胆振地域の白老では比較的に弱い勢力状況である。

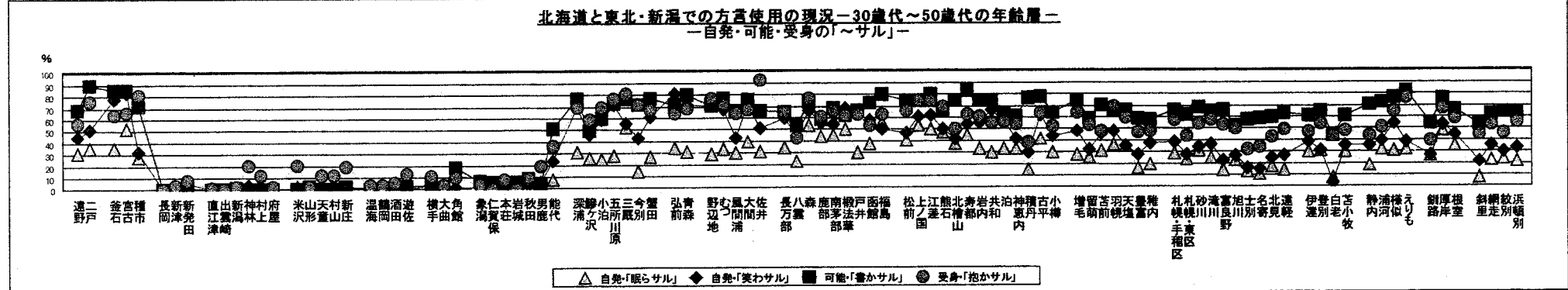
07 ■受身表現「～サル」:「抱かサル」



◇「おっきくなったのに、なんで抱かサッてばかりいるの？」を例文として、受身表現「～サル」の使用を問う。

青森県、岩手県、北海道で勢力があり、青森県でやや優勢な傾向である。青森県では、中央部、津軽半島部、下北半島部とともに勢力があり、津軽半島部と下北半島部でやや優勢な傾向である。秋田県では、青森県寄り海岸部の能代、男鹿では勢力が見られるが、海岸部の他の地点、内陸部では微弱である。山形県では、海岸部では微弱で、内陸部では弱い勢力である。岩手県では、海岸部、内陸部ともに勢力があり、青森県寄りの種市、二戸で優勢である。新潟県では、海岸部では弱く、内陸部では極めて微弱である。北海道では、道南方言圏でやや優勢な傾向である。太平洋側の日高地域では先端地に向かうに従って勢力を増している。太平洋側の胆振地域、オホーツク海側の地域では比較的弱く、内陸部の道北の士別、名寄では弱い。

08 ■自発・可能・受身の「～サル」の使用状況

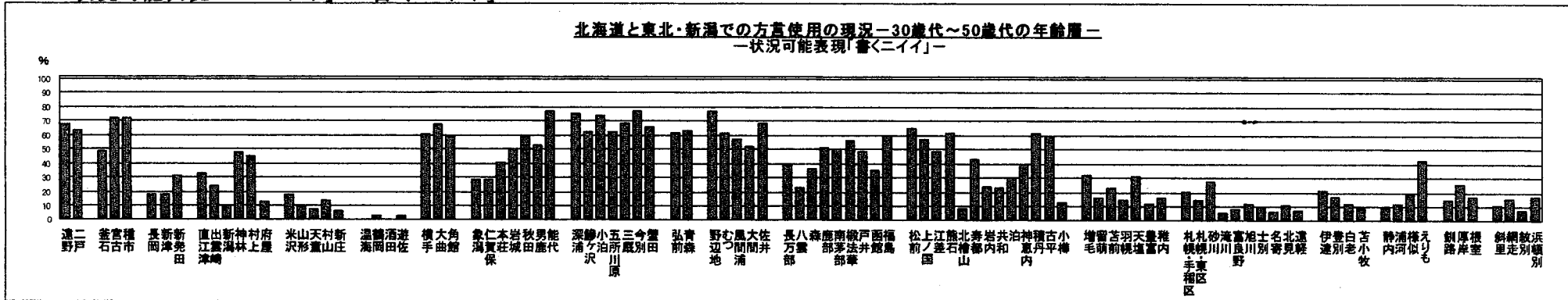


◇「眠らサル」「笑わサル」「書かサル」「抱かサル」を例文として、自発・可能・受身表現「～サル」の使用状況を見る。

自発・可能・受身ともに青森県、岩手県、北海道で勢力があり、秋田県、山形県、新潟県では勢力が微弱である。秋田県でも、青森県寄り海岸部の能代では勢力が見られる。岩手県、北海道では、可能が優勢で、次いで受身が勢力があり、自発は可能、受身に比べて勢力が弱い状況である。青森県では、可能、受身の勢力は拮抗しているが、自発はやはりそれらに比べて弱い状況である。秋田県の青森県寄り海岸部の能代を除き、秋田県、山形県、新潟県では、自発・可能・受身ともに勢力が微弱な中、山形県、新潟県では受身がいくらか勢力がある状況である。

北海道では、道南方言圏では自発が可能・受身の勢力に接近している地点が比較的多く見られ、他の地域とはいくぶん違いが認められる。

09 ■状況可能表現「～ニイ」:「書くニイ」

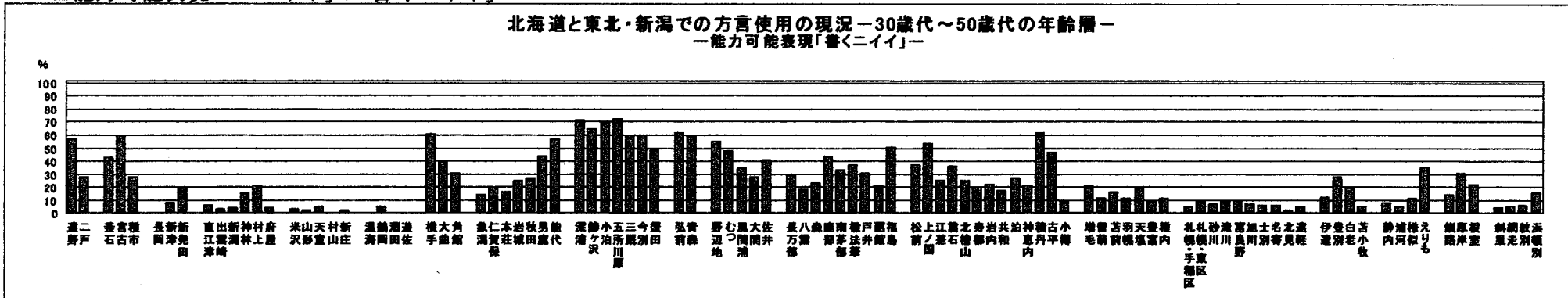


◇「このペンなら、書くニイよ。」を例文として、状況可能表現「～ニイ」の使用を問う。

青森県、秋田県、岩手県、北海道で勢力があり、青森県、岩手県でやや優勢である。青森県では、中央部、津軽半島部、下北半島部とともに勢力があり、津軽半島部でやや優勢である。秋田県では、内陸部で優勢で、海岸部では、青森県寄りの能代では強い勢力であるが、山形県寄りに向かうに従って勢力は減少し、弱い状況である。山形県では、海岸部ではほとんど勢力がなく、内陸部では弱い。岩手県では、海岸部、内陸部ともに勢力がある。新潟県では、海岸部、内陸部ともに勢力は弱い、新潟以北の村上、神林では勢力がある。

北海道では、道南方言圏の太平洋側、日本海側の南側と北側の積丹半島部で勢力があり、優勢である。太平洋側日高地域先端地のえりもでも勢力がある。

10 ■能力可能表現「～ニイ」:「書くニイ」

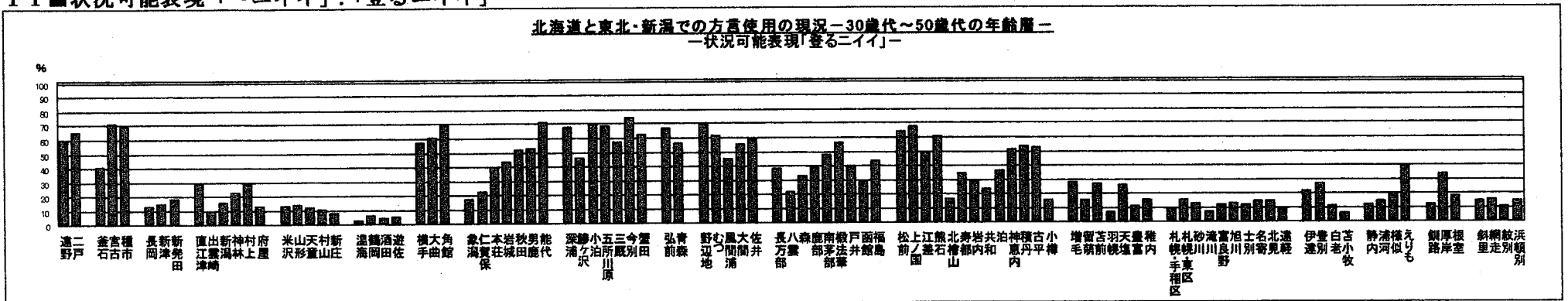


◇「その漢字なら私も書くニイよ。」を例文として、能力可能表現「～ニイ」の使用を問う。

青森県、秋田県、岩手県、北海道で勢力があり、青森県で優勢である。青森県では、中央部、津軽半島部、下北半島部とともに勢力があり、津軽半島部で優勢である。下北半島部の先端地域では勢力が弱く、南下するにつれて勢力が増している状況が見られる。秋田県では、海岸部、内陸部とともに勢力があるが、海岸部では、青森県寄りの能代で優勢で、山形県側に向かうに従って勢力が弱くなり、内陸部では強くなっている。山形県では、海岸部、内陸部ともにほとんど勢力がない。岩手県では、海岸部、内陸部ともに勢力がある。新潟県では、海岸部、内陸部ともに勢力は弱い。

北海道では、道南方言圏で勢力があり、日本海側の南側と北側の積丹半島部の先端地域で勢力があり、優勢である。道南方言圏以北の日本海側、太平洋側の胆振地域、道東地域では弱く、太平洋側の先端地えりもを除く日高地域、オホーツク海側の地域、内陸部では微弱である。

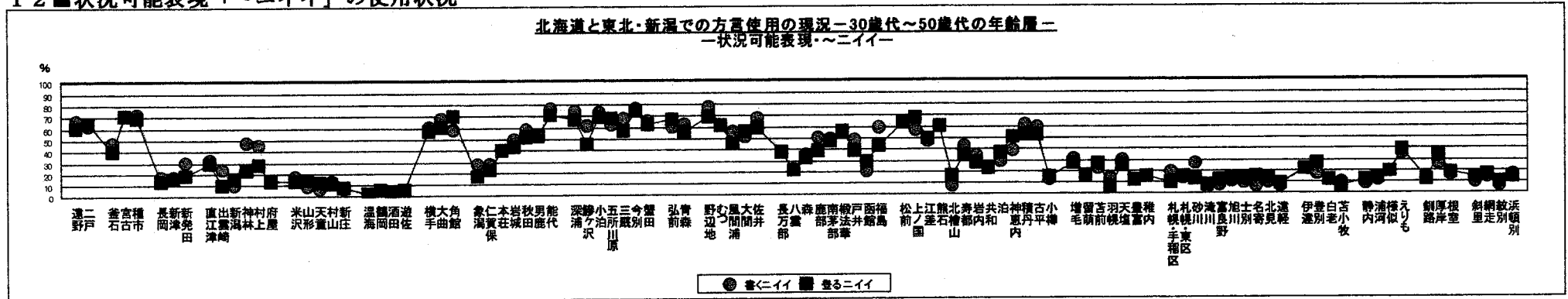
1.1 ■ 状況可能表現「～ニイ」:「登るニイ」



◇ 「こっちの登山口からなら、楽に登るニイよ。」を例文として、状況可能表現「～ニイ」の使用を問う。

青森県、秋田県、岩手県、北海道で勢力があり、青森県、岩手県で優勢である。青森県では、中央部、津軽半島部、下北半島部ともに勢力がある。秋田県では、内陸部で優勢で、海岸部では青森県寄りの能代で勢力が強く、山形県寄りに向かうに従って弱くなっている。山形県では、海岸部では微弱で、内陸部では極めて弱い。岩手県では、海岸部、内陸部ともに勢力があるが、海岸部の南側釜石では弱い。新潟県では、海岸部、内陸部ともに勢力は弱い。北海道では、道南方言圏の太平洋側の亀田半島先端地域、日本海側の南側と北側の積丹半島部の先端地域で勢力があり優勢である。太平洋側の日高地域先端地のえりもでも勢力がある。オホーツク海側の地域、内陸部では勢力が極めて弱い状況である。

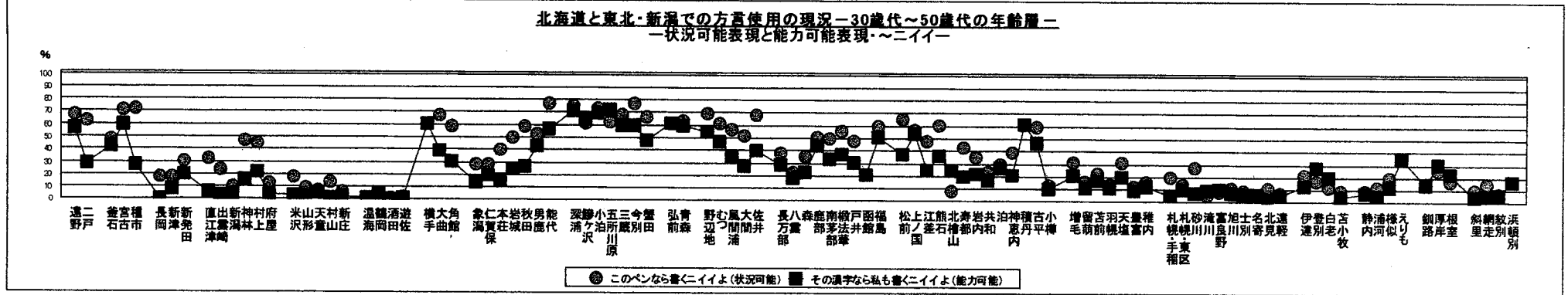
1.2 ■ 状況可能表現「～ニイ」の使用状況



◇ 「このペンなら、書くニイ。」「こっちの登山口からなら、楽に登るニイ。」を例文として、状況可能表現の「～ニイ」の使用状況を見る。

青森県、秋田県、岩手県、北海道で勢力がある。青森県、岩手県で優勢である。青森県では、中央部、津軽半島部、下北半島部ともに勢力がある。秋田県では、内陸部で優勢で、海岸部では青森県寄りの能代で勢力が強く、山形県寄りに向かうに従って弱くなっている。山形県では、海岸部では微弱で、内陸部では極めて弱い。岩手県では、海岸部、内陸部ともに勢力があるが、海岸部の南側釜石では弱い。新潟県では、新潟以北海岸部の村上、神林では勢力があるが、他の海岸部、内陸部では勢力は弱い。北海道では、道南方言圏で優勢で、太平洋側の亀田半島先端地域、日本海側の南側と北側の積丹半島部の先端地域で勢力がある。太平洋側の日高地域先端地のえりもでも勢力がある。オホーツク海側の地域、内陸部では勢力が極めて弱い状況である。上接語の動詞「書く」と「登る」の違いによる有意な使用差は認められない。

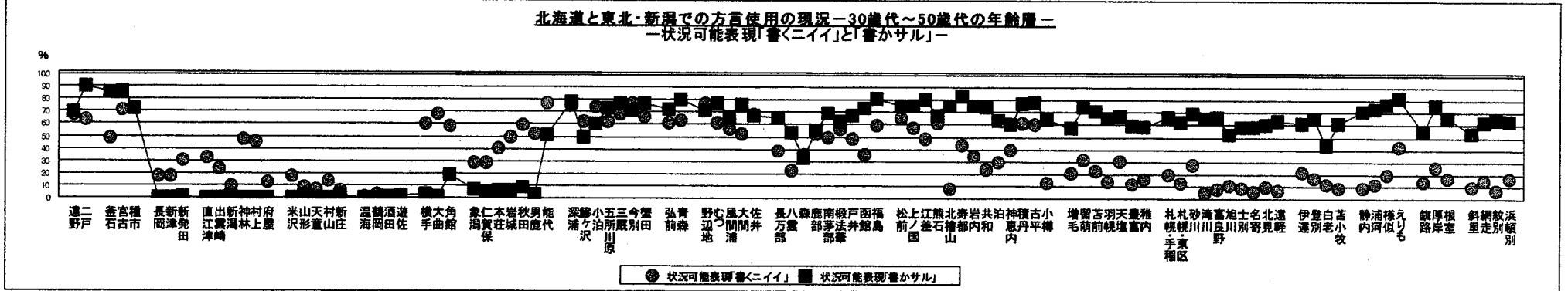
1.3 ■ 状況可能表現と能力可能表現の「～ニイ」の使用状況



◇ 「このペンなら書くニイ。」 「その漢字なら私も書くニイよ。」 を例文として、状況可能表現と能力可能表現の「～ニイ」の使用状況を見る。

状況可能の「～ニイ」は、青森県、秋田県、山形県の内陸部、岩手県、新潟県、北海道の道南方言圏では能力可能の「～ニイ」よりも優勢で、北海道では道南方言圏以北の日本海側、内陸部の道央地域でもいくぶん優勢な傾向である。山形県の海岸部では、状況可能の「～ニイ」、能力可能の「～ニイ」ともに勢力がない。北海道の太平洋側の胆振地域、日高地域、道東地域、オホーツク海側地域、そして、内陸部の道北とオホーツク海側では状況可能の「～ニイ」、能力可能の「～ニイ」ともに勢力は弱く、大差ない状況である。

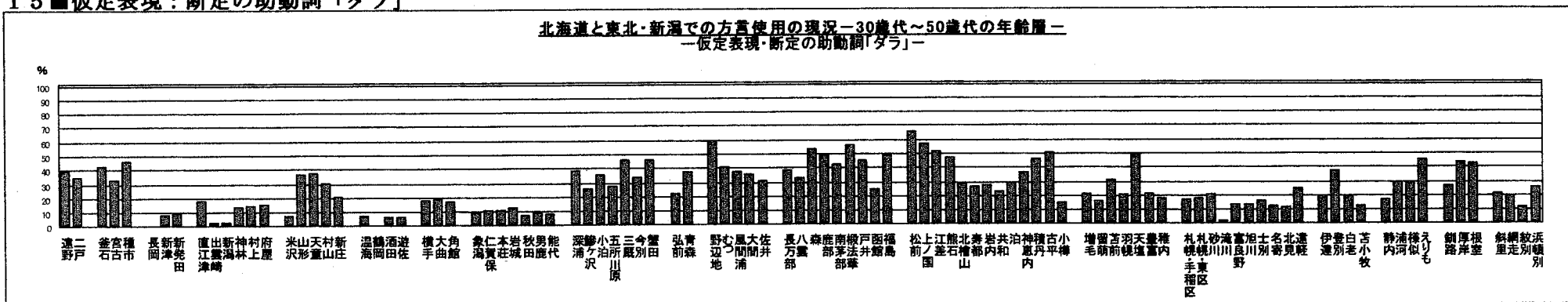
1.4 ■ 状況可能表現「～ニイ」と「～サル」: 「書くニイ」と「書かサル」の使用状況



◇ 「そのペンなら書くニイ。」 「このマジック書かサルの？ 書かサラないの？」 を例文として、状況可能表現「～ニイ」と「～サル」の使用状況を見る。

状況可能「～ニイ」は、秋田県、新潟県で優勢で、勢力は弱い山形県の内陸部でも優勢である。状況可能「～サル」はほとんど勢力がない。青森県では、状況可能「～ニイ」と状況可能「～サル」の勢力は拮抗していて大差ない状況ではあるが、「～サル」がいくぶん優勢な傾向である。岩手県、北海道では「～サル」が優勢であるが、北海道の道南方言圏熊石以南の地域と北側の積丹半島の地域では「～ニイ」もそう劣らない勢力である。山形県の海岸部では状況可能「～ニイ」、状況可能「～サル」ともに微弱な勢力状況である。

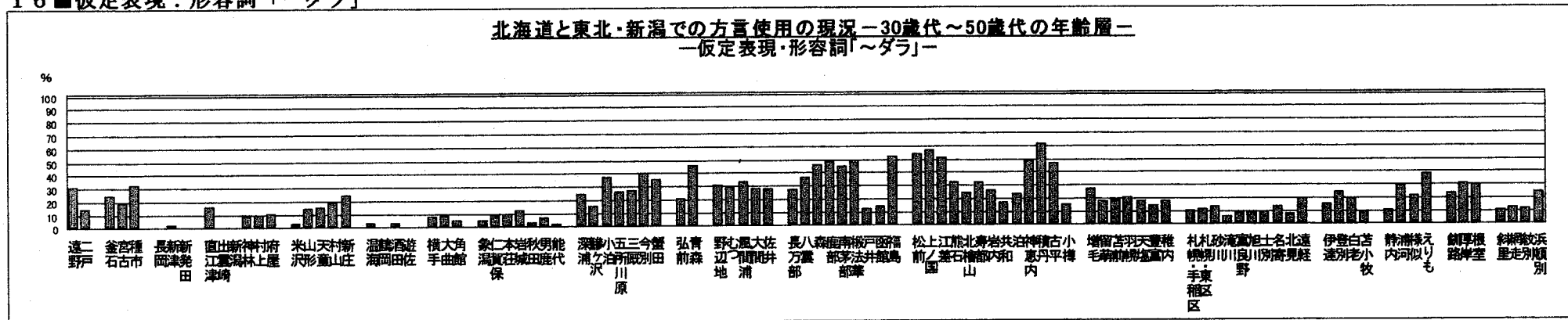
15 ■仮定表現：断定の助動詞「ダラ」



◇「君が行くんだラ私も行くよ。」を例文として、断定の助動詞「ダラ」での仮定表現の使用を問う。

強くはないが、青森県、岩手県、山形県の内陸部、北海道で勢力があり、北海道で優勢である。青森県では、中央部、津軽半島部、下北半島部で同じような勢力状況であるが、下北半島部の野辺地では勢力が強い。秋田県では、海岸部では微弱で、内陸部では弱い。山形県では、海岸部では微弱で、内陸部では米沢では微弱であるが、他の地点では弱いながらも勢力がある。岩手県では、海岸部、内陸部ではほぼ同じように勢力がある。新潟県では、海岸部の新潟、出雲崎では極めて微弱で、海岸部の他の地点と内陸部ではほぼ同じように弱い勢力である。北海道では、道南方言圏で優勢で、太平洋側、日本海側の南側と北側の積丹半島部の地域で勢力がある。オホーツク海側の地域と内陸部では弱い。

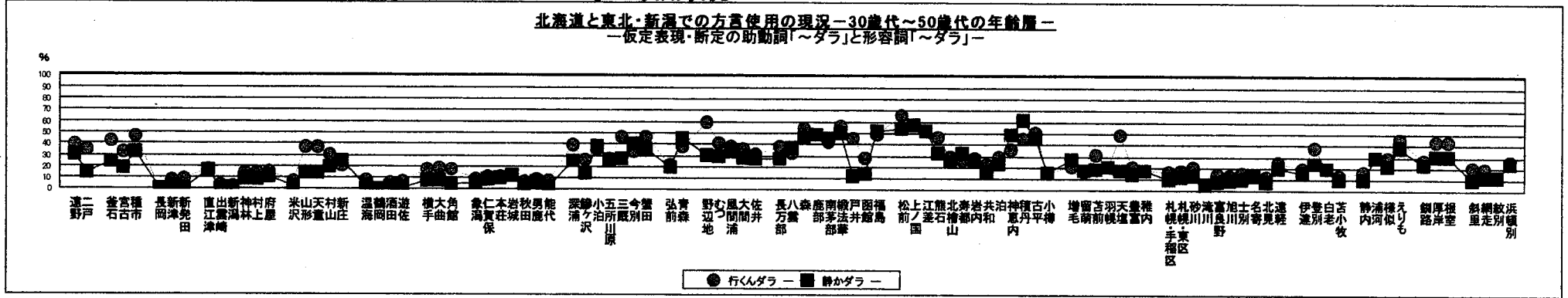
16 ■仮定表現：形容詞「～ダラ」



◇「静かダラいいんだけどね。」を例文として、形容詞「～ダラ」での仮定表現の使用を問う。

強くはないが、青森県、北海道で勢力があり、北海道で優勢である。青森県では、中央部、津軽半島部、下北半島部で同じような勢力状況である。秋田県では、海岸部、内陸部ともに微弱である。山形県では、海岸部ではほとんど勢力がなく、内陸部では弱く、米沢では極めて微弱である。岩手県では、海岸部、内陸部ではほぼ同じような状況である。新潟県では、海岸部では微弱で、新潟、出雲崎では勢力が見られない。内陸部ではほとんど勢力がない。北海道では、道南方言圏で優勢で、太平洋側、日本海側の南側と北側の積丹半島部の先端地域で勢力がある。オホーツク海側の地域と内陸部では微弱な地点が多い状況である。

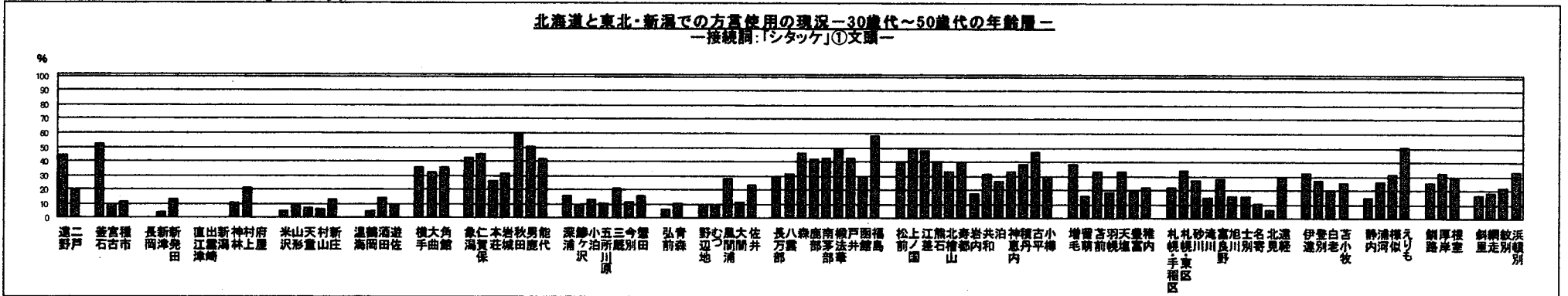
17 ■ 仮定表現：断定の助動詞「ダラ」と形容詞「ーダラ」の使用状況



◇「君が行くんダラ私も行くよ。」「静かダラいいんだけどね。」を例文として、断定の助動詞「ダラ」と形容詞「ーダラ」での仮定表現の使用状況を見る。

断定「ダラ」、形容詞「ーダラ」は、ともに強くはないが、青森県、岩手県、山形県、北海道で勢力が見られ、北海道で優勢である。青森県では、中央部、津軽半島部、下北半島部で同じような勢力状況であるが、下北半島部の野辺地では勢力が強い。秋田県では、海岸部では微弱で、内陸部では弱い。山形県では、海岸部では微弱で、内陸部では米沢で微弱であるが、他の地点では勢力がある。岩手県では、海岸部、内陸部ではほぼ同じように勢力がある。新潟県では、海岸部の新潟、出雲崎では極めて微弱であるが、海岸部、内陸部ではほぼ同じように弱い勢力である。北海道では、道南方言圏で優勢で、南側と北側の積丹半島地域で勢力がある。オホーツク海側の地域と内陸部では弱い。大きな差は見られないが、断定の「ダラ」の方がいくぶん優勢な傾向である。

18 ■ 接続詞：「シタッケ」(文頭)

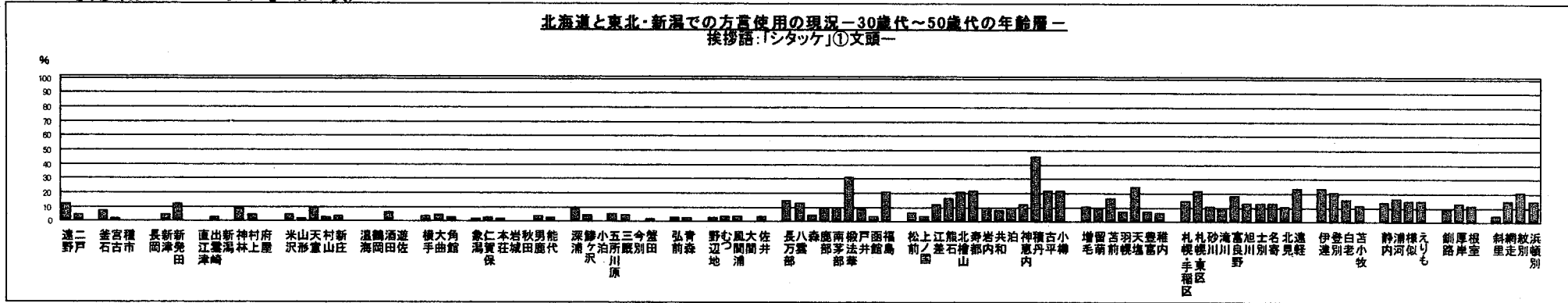


◇「私泣いたんだ。シタッケ、妹も泣いてさ。」を例文として、接続詞「シタッケ」の文頭での使用を問う。

強くはないが、秋田県、北海道で勢力があり、北海道でいくぶん優勢な傾向である。青森県では、津軽半島部、下北半島部で勢力が弱く、中央部では微弱である。秋田県では、海岸部、内陸部ともに勢力があり、海岸部で優勢な地点が多い。山形県では、海岸部、内陸部ともに微弱である。岩手県では、海岸部、内陸部ともに南側の釜石、遠野で勢力があるが、他の地点では弱い状況である。新潟県では、海岸部、内陸部ともに新潟以北では弱いながらも勢力が見られるものの、新潟以南では全く勢力がない。

北海道では、道南方言圏の大平洋側、日本海側の南側と北側の積丹半島部で勢力があり優勢である。太平洋側の日高地域先端地えりもでも勢力がある。道南方言圏以北の日本海側の地域、太平洋側の胆振地域、道東地域、オホーツク海側の地域、内陸部では弱く、内陸部の道北地域で弱い地点が多い。

2 1 ■ 挨拶語：「シタツケ」(文頭)

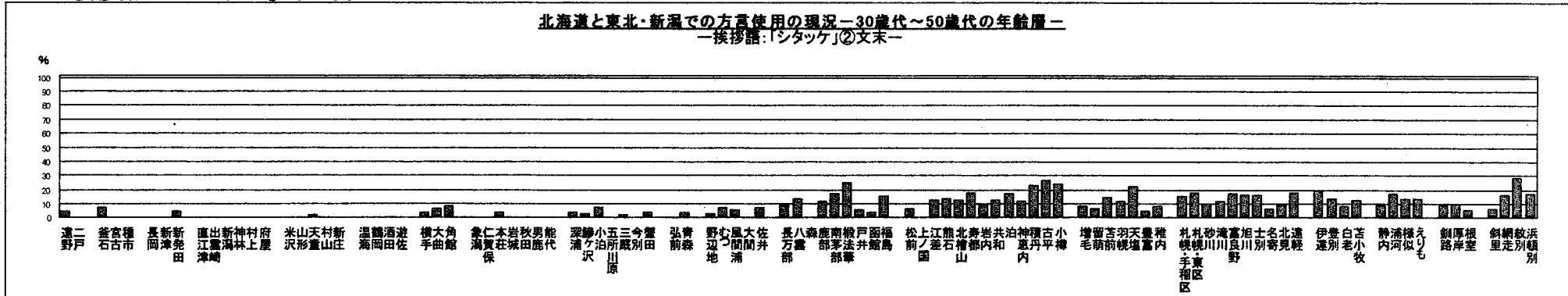


◇「シタツケね。明日、来てね。また会おうね。」を例文として、挨拶語「シタツケ」の文頭での使用を問う。

弱いながらも北海道で勢力があり、優勢である。青森県では、津軽半島部で微弱で、中央部、下北半島部では極めて微弱な勢力状況である。秋田県では、海岸部、内陸部ともに極めて微弱である。山形県では、海岸部では酒田で微弱で、他の地点では全く勢力がなく、内陸部では微弱である。岩手県、新潟県では、海岸部、内陸部ともに微弱な状況である。

北海道では、海岸部、内陸部ともに勢力は弱いものの、道南方言圏の太平洋側亀田半島先端地の楳法華、日本海側の北側積丹半島先端地の積丹では他の地点よりも勢力がある状況である。

2 2 ■ 挨拶語：「シタツケ」(文末)

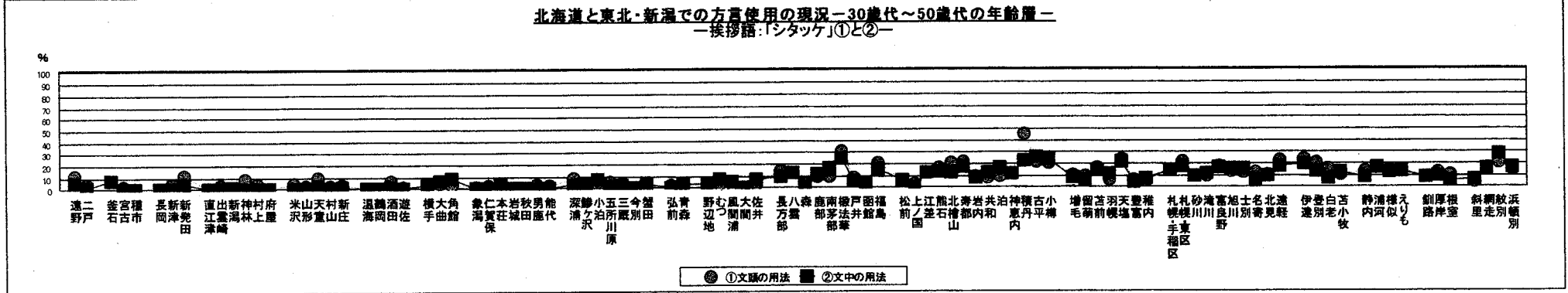


◇「うん、必ず行くよ。シタツケね。」を例文として、挨拶語「シタツケ」の文末での使用を問う。

弱いながらも北海道で勢力があり、優勢である。青森県では、中央部、津軽半島部、下北半島部ともに極めて微弱である。秋田県では、海岸部ではほとんど勢力が見られず、内陸部では微弱である。山形県では、海岸部では全く勢力がなく、内陸部ではほとんど勢力がない。岩手県では、極めて微弱である。新潟県では、海岸部では全く勢力がなく、内陸部では極めて微弱である。

北海道では、海岸部、内陸部ともに勢力は弱い、道南方言圏太平洋側の亀田半島先端地の楳法華、日本海側の北側積丹半島部の地域、道南方言圏以北の日本海側の天塩、オホーツク海側の紋別で、他の地点に比べいくぶん勢力が見られる。太平洋側の道東では他の地域よりも弱く、微弱な状況である。

2 3 ■ 挨拶語：「シタツケ」の文頭と文末での使用状況



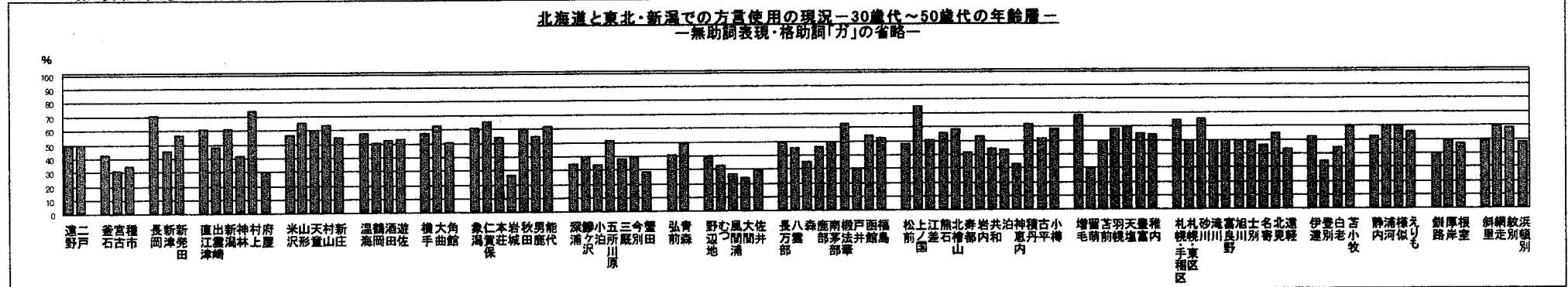
◇ 「シタツケね。明日、来てね。また会おうね。」 「うん、必ず行くよ。シタツケね。」 を例文として、挨拶語「シタツケ」の文頭と文末での使用を見る。

文頭、文末用法、ともに弱いながらも北海道で勢力があり、優勢である。青森県では微弱である。秋田県では極めて微弱である。山形県では海岸部の酒田で微弱で、他の地点では全く勢力がない。内陸部では微弱である。岩手県、新潟県では微弱である。

北海道では、海岸部、内陸部ともに勢力は弱いものの、道南方言圏の太平洋側亀田半島先端地の蝦法華、日本海側の北側積丹半島先端地の積丹では他の地点よりも勢力がある状況である。

文頭用法と文中用法の間には大きな使用差はなく、有意な使用差は認められない。

2 4 ■ 無助詞表現：格助詞「ガ」の省略

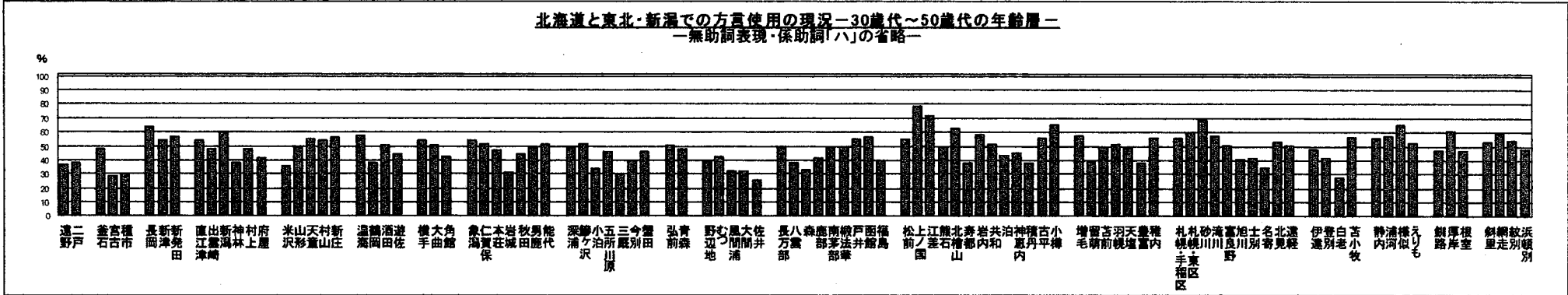


◇ 「誰もしないんだら、僕（ガ）、やってもいいよ。」 を例文として、助詞「ガ」の省略表現（無助詞表現）をするかを問う。

青森県、岩手県では比較的勢力が弱い状況で、秋田県、山形県、新潟県、北海道で比較的勢力があり、優勢である。青森県では、中央部、津軽半島部に比べ、下北半島部では勢力が弱い傾向である。秋田県では、海岸部の岩城では勢力が弱いものの、海岸部、内陸部では勢力があり同じような勢力状況である。山形県、岩手県では、海岸部に比べ、内陸部でいくぶん優勢な傾向である。新潟県では、海岸部、内陸部で同じような勢力状況であるが、海岸部の府屋では弱い状況である。

北海道では、海岸部、内陸部ともに地点間で勢力の強弱はあるものの、海岸部と内陸部で大きな地域差は見られない状況である。そんな中で、道南方言圏日本海側の南側の上ノ国、江差でいくぶん勢力がある状況で、内陸部では道央地域でいくぶん優勢な傾向である。

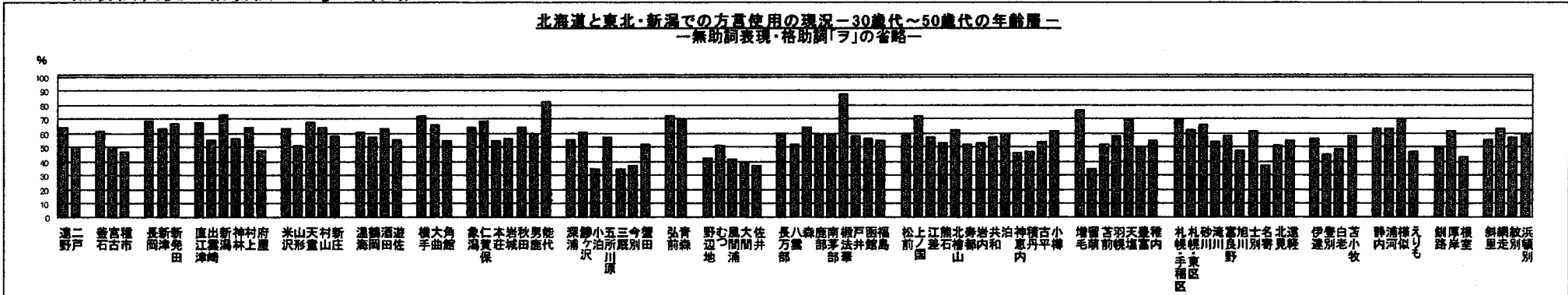
2.5 ■無助詞表現：係助詞「ハ」の省略



◇「これ（ハ）、いいけど、それ（ハ）だめだよ。」を例文として助詞「ハ」の省略表現（無助詞表現）をするかを問う。

北海道で比較的勢力があり、いくぶん優勢である。青森県では、中央部、津軽半島部に比べ、下北半島部では勢力が弱い傾向で、先端地へ向かうに従って弱くなっている。秋田県では、海岸部の岩城では勢力が弱いものの、海岸部、内陸部で同じような勢力状況である。山形県では、海岸部に比べ内陸部でいくぶん優勢な傾向である。岩手県では、海岸部、内陸部で同じような勢力状況である。新潟県では、内陸部でいくらか優勢な傾向である。北海道では、海岸部、内陸部ともに地点間で勢力の強弱が見られるものの、海岸部と内陸部で大きな地域差が見られない状況である。そのような中で、道南方言圏日本海側の南側の上ノ国、江差でいくぶん勢力がある状況で、内陸部では道央地域で優勢な傾向である。

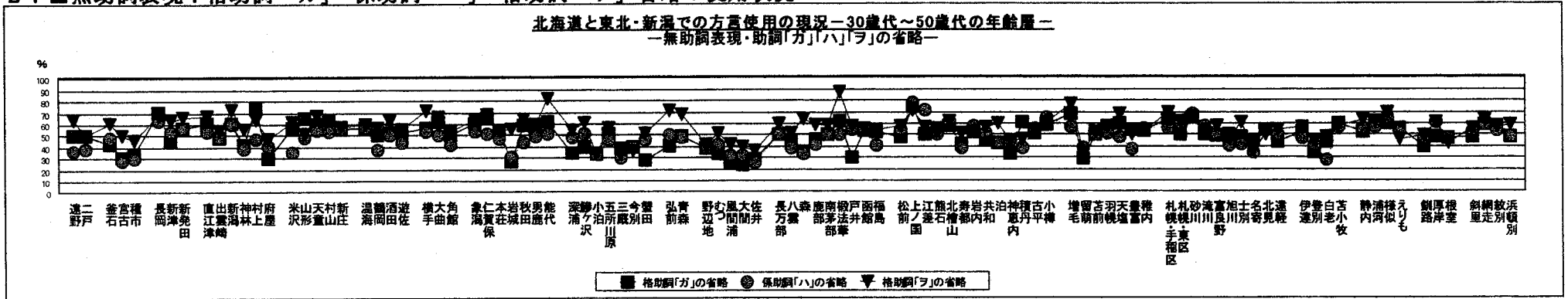
2.6 ■無助詞表現：格助詞「ヲ」の省略



◇「川の水（ヲ）飲むなってさ。」を例文として、助詞「ヲ」の省略表現（無助詞表現）をするかを問う。

秋田県、山形県、新潟県、北海道で比較的勢力があり、優勢である。青森県では、中央部に比べ、津軽半島部、下北半島部では勢力が弱く、津軽半島部の先端地でより弱い状況である。秋田県では、青森県寄り海岸部の能代で優勢で、海岸部、内陸部で同じような勢力状況である。山形県では、海岸部、内陸部で同じような勢力状況である。岩手県では、海岸部、内陸部で同じような勢力状況で、海岸部、内陸部ともに南側の釜石、遠野で比較的勢力がある。新潟県では、内陸部でいくらか勢力がある傾向である。北海道では、海岸部、内陸部ともに地点間で勢力の強弱はあるものの、海岸部と内陸部で大きな地域差が見られない状況である。そのような中で、道南方言圏太平洋側の亀田半島先端地の榎法華では強い勢力である。内陸部では道央地域でいくぶん優勢な傾向である。

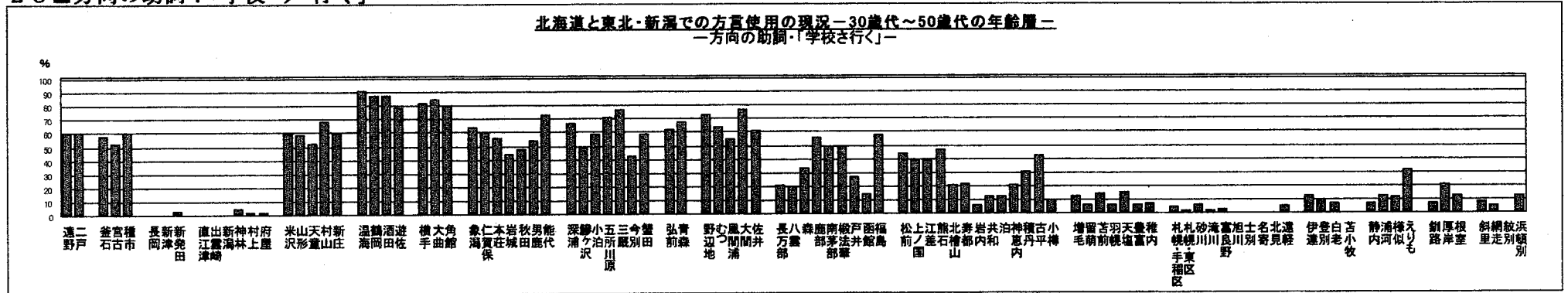
27 ■無助詞表現：格助詞「ガ」・係助詞「ハ」・格助詞「ヲ」省略の使用状況



◇「誰もしないんだら、僕（ガ）、やってもいいよ。」「これ（ハ）、いいけど、それ（ハ）だめだよ。」「川の水（ヲ）飲むなってさ。」を例文として格助詞「ガ」、係助詞「ハ」、格助詞「ヲ」の省略表現（無助詞表現）の使用状況を見る。

助詞の省略表現、言い換えるなら無助詞表現の勢力状況を見ると、秋田県、山形県、新潟県、岩手県、そして北海道の間には大きな使用差は見られないが、青森県の下北半島部では比較的弱い状況である。そのような中で、格助詞「ヲ」の省略表現が比較的使われており、優勢な傾向である。それに比べ、格助詞「ガ」と係助詞「ハ」の使用はいくぶん勢力が弱く、大きな差がない状況である。ただし、北海道の太平洋側の胆振地域、日高地域、道東地域、オホーツク海側地域、そして内陸部では、格助詞「ヲ」と格助詞「ガ」、係助詞「ハ」の省略表現には、他の地域に比べ大きな差がない傾向が見られる。

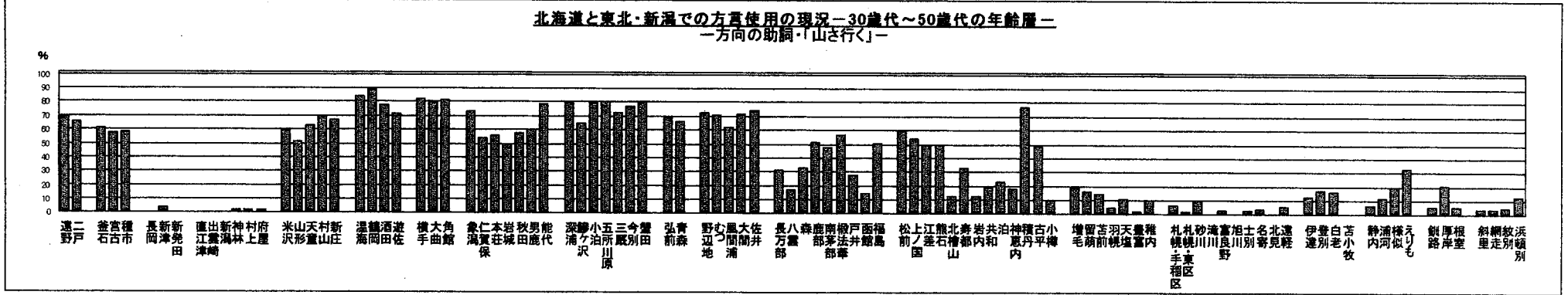
28 ■方向の助詞：「学校 サ 行く」



◇「早く学校サ行こう。」を例文として、助詞「サ」の方向を表す用法の使用を問う。

青森県、秋田県、山形県、岩手県、北海道で勢力があり、青森県、秋田県、山形県で優勢である。青森県では、中央部、津軽半島部、下北半島部で大きな差がない状況であるが、津軽半島部で比較的勢力の弱い地点が見られる。秋田県では、海岸部、内陸ともに勢力があり、海岸部では青森県寄りの能代で他の地点より勢力があるが、内陸部で優勢である。山形県では、海岸部、内陸ともに勢力があり、海岸部で優勢である。岩手県では、海岸部、内陸ともに勢力があり、同じような勢力状況である。新潟県では、海岸部、内陸ともに新潟以北で極めて微弱で、新潟以南では全く勢力がない状況である。北海道では、道南方言圏太平洋側の亀田半島先端地域、松前寄りの福島、日本海側の南側と北側の積丹半島部で勢力があり、優勢である。太平洋側日高地域の先端地えりもでも勢力がある。道南方言圏以北の日本海側海岸部、太平洋側の胆振、道東地域、オホーツク海側では弱く、内陸部では微弱である。

29 ■方向の助詞：「山 サ 行く」

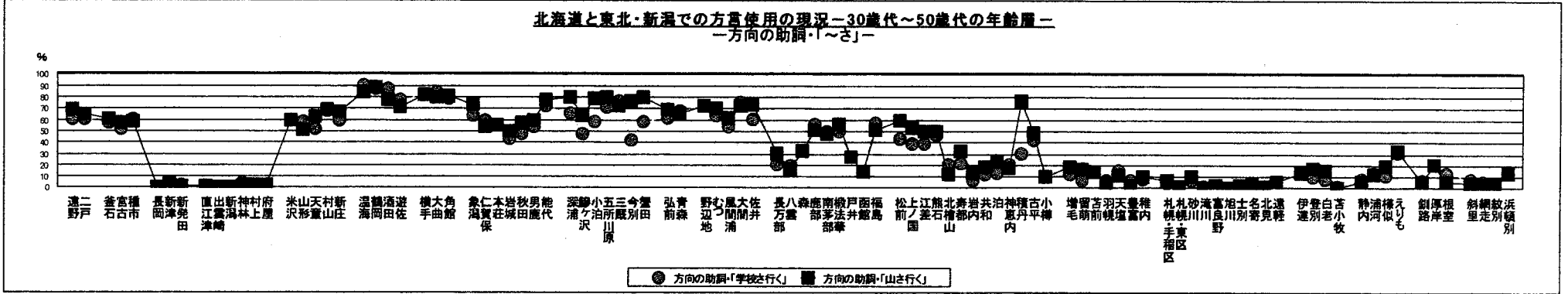


◇「タケノコ採りに山サ行くの？」を例文として、助詞「サ」の方向を表す用法の使用を問う。

青森県、秋田県、山形県、岩手県、北海道で勢力があり、青森県、秋田県、山形県で優勢である。青森県では、中央部、津軽半島部、下北半島部で大きな差がない勢力状況である。秋田県では、海岸部、内陸ともに勢力があり、海岸部では青森県寄りの能代で他の地点より勢力があるが、内陸部で優勢である。山形県では、海岸部、内陸部ともに勢力があり、海岸部で優勢である。岩手県では、海岸部、内陸部ともに勢力があり、同じような勢力状況である。新潟県では、海岸部、内陸部ともに新潟以北で極めて微弱で、新潟以南では全く勢力がない状況である。

北海道では、道南方言圏太平洋側の亀田半島先端地域、福島、日本海側の南側と北側の積丹半島部で勢力があり、優勢である。太平洋側日高地域の先端地えりもでも勢力がある。道南方言圏以北の日本海側海岸部、太平洋側の胆振、道東地域では極めて弱く、オホーツク海側、内陸部では微弱である。

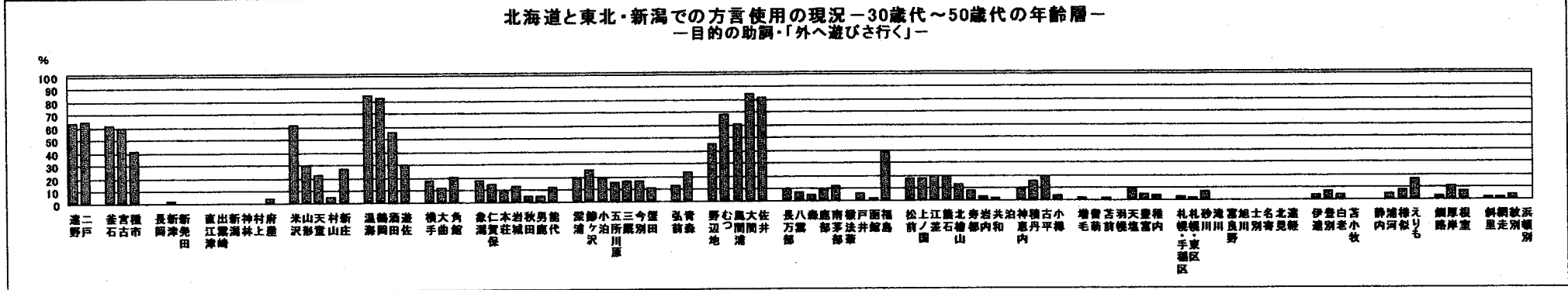
30 ■方向の助詞「～サ」の使用状況



◇「早く学校サ行こう。」「タケノコ採りに山サ行くの？」を例文として、助詞「サ」の方向を表す用法の使用状況を見る。

青森県、秋田県、山形県、岩手県、北海道で勢力があり、青森県、秋田県、山形県で優勢である。青森県では、中央部、津軽半島部、下北半島部で大きな差がなく優勢である。秋田県では青森県寄り海岸部の能代では勢力があるが、内陸部で優勢である。山形県では勢力があり、海岸部で優勢である。岩手県では勢力がある。新潟県では、新潟以北で極めて微弱で、新潟以南では全く勢力がない。北海道では、道南方言圏太平洋側の亀田半島先端地域、福島、日本海側の南側と北側の積丹半島部で勢力があり、優勢である。太平洋側日高地域の先端地えりもでも勢力がある。道南方言圏以北の日本海側海岸部、太平洋側の胆振、道東地域では極めて弱く、オホーツク海側、内陸部では微弱である。前置語「学校」と「山」の違いによる有意な使用差は認められない。

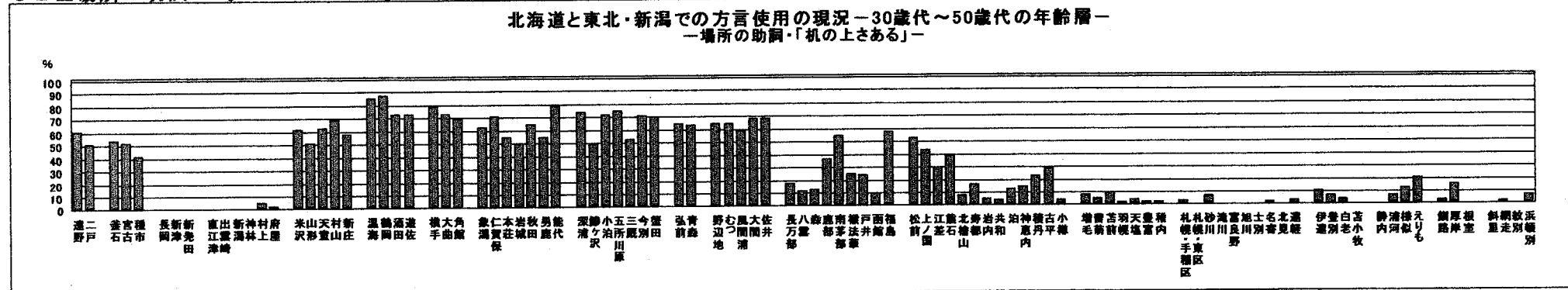
3 1 ■目的の助詞：「外へ遊び サ 行く」



◇「外へ遊びさ行く。」を例文として、助詞「サ」の目的を表す用法の使用を問う。

青森県、山形県、岩手県で勢力があり、青森県の下北半島部、山形県の海岸部で優勢である。青森県では、中央部、津軽半島部で勢力は弱く、下北半島部で優勢で、先端地の佐井、大間で勢力が強く、南側で弱い状況である。秋田県では、海岸部、内陸部ともに勢力が弱い。山形県では、秋田県寄りの海岸部で勢力が弱く、南下するに従い勢力が強くなっている。内陸部では、米沢では勢力が強いが、他の地点では弱い状態である。岩手県では、海岸部、内陸部で同じように勢力がある。新潟県では、海岸部、内陸部ともに新潟以北で極めて微弱で、新潟以南では全く勢力がない状況である。北海道では、道南方言圏太平洋側では多くの地点で微弱であるが、松前寄りの福島では勢力がある。日本海側の南側と北側の積丹半島部では弱いながらも勢力がある。道南方言圏以北の日本海側、太平洋側の胆振、日高、道東地域では微弱である。オホーツク海側、内陸部では道央地域で極めて微弱である。

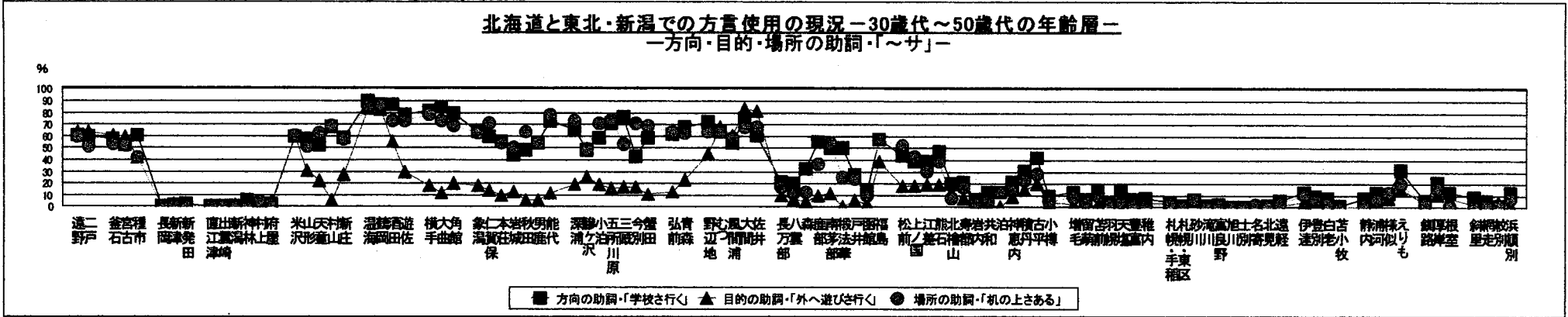
3 2 ■場所の助詞：「机の上 サ ある」



◇「本、机の上さある。」を例文として、助詞「サ」の場所を表す用法の使用を問う。

青森県、秋田県、山形県、岩手県、北海道で勢力があり、青森県、秋田県、山形県で優勢である。青森県では、中央部、津軽半島部、下北半島部で同じように勢力がある。秋田県では、海岸部、内陸部ともに勢力があり、海岸部では青森県寄りの能代でいくぶん勢力が強いが、内陸部でやや優勢な傾向である。山形県では、秋田県寄りの海岸部でいくぶん勢力が弱い傾向であるが、海岸部で優勢である。岩手県では、海岸部、内陸部で同じように勢力である。新潟県では、新潟以北の山形県寄り海岸部で極めて微弱で、海岸部の他の地点、内陸部では全く勢力がない状況である。北海道では、道南方言圏太平洋側の亀田半島先端地、福島、日本海側の南側で勢力があり、優勢である。内陸部では極めて微弱で、他の地域でも弱い。

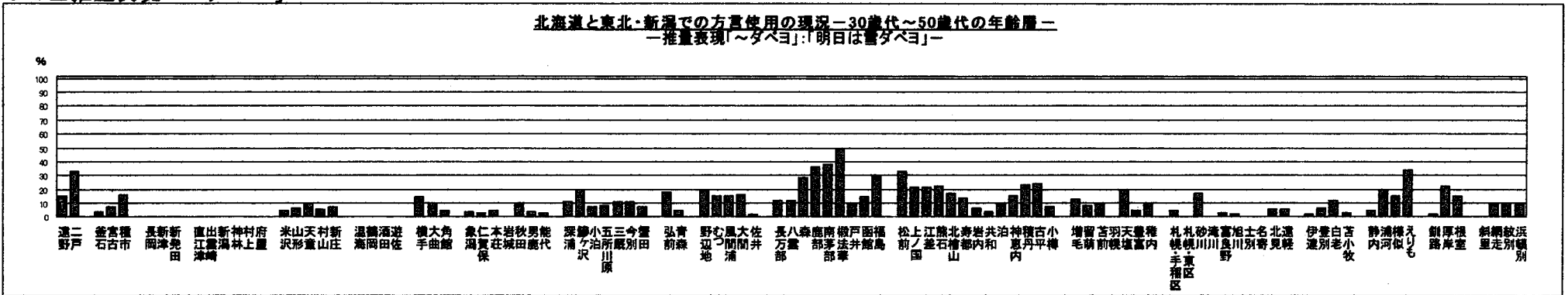
3 3 ■ 方向・目的・場所の助詞「サ」の使用状況



◇ 「早く学校サ行こう。」「外へ遊びサ行く。」「本、机の上サある。」を例文として、助詞「サ」の方向・目的・場所を表す用法の使用状況を見る。

方向と場所の「サ」は、ほとんど差がない使用状況で、青森県、秋田県、山形県、岩手県、北海道の道南方言圏で勢力があり、青森県、山形県で優勢である。目的の「サ」は、青森県下北半島部、山形県海岸部の南側、内陸部の米沢、岩手県で勢力があり、青森県下北半島部先端地の佐井、大間、山形県海岸部の南側、内陸部の米沢、岩手県で優勢である。青森県の中央部、津軽半島部、秋田県では勢力が弱く、新潟県では新潟以北で極めて微弱で、新潟以南では全く勢力がない状況である。北海道では、道南方言圏松前寄りの福島では勢力があり、道南方言圏日本海側の南側と北側の積丹半島部では弱いながらも勢力が見られる。道南方言圏以北の日本海側、太平洋側の胆振、日高、道東地域では微弱である。オホーツク海側、内陸部では極めて微弱である。

3 4 ■ 推量表現「～ダベヨ」

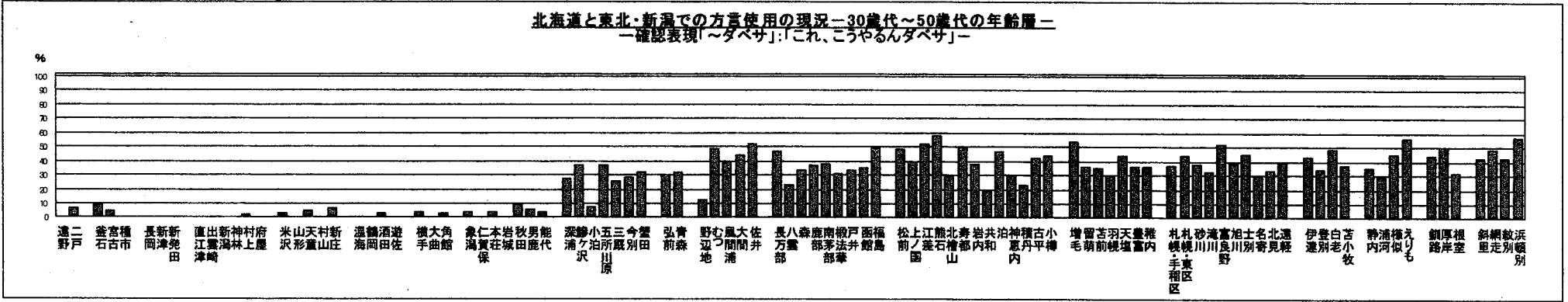


◇ 「明日は雪だべヨ」を例文として、推量表現「～ダベヨ」の使用を問う。

強くはないが、北海道で勢力があり、優勢である。青森県では、中央部、津軽半島部、下北半島部で同じように弱い勢力である。秋田県では、海岸部、内陸部ともに微弱である。山形県では、海岸部では全く勢力がなく、内陸部では微弱である。岩手県では、海岸部、内陸部ともに弱い勢力状況である。新潟県では、海岸部、内陸部ともに全く勢力が見られない。

北海道では、道南方言圏太平洋側の亀田半島先端地域、松前寄りの福島、日本海側の南側で勢力があり、優勢である。道南方言圏以北の日本海側では弱い。太平洋側の日高地域では先端地えりもで勢力があるが、他の地点では弱い状況で、胆振地域、オホーツク海側の地域、内陸部では微弱である。

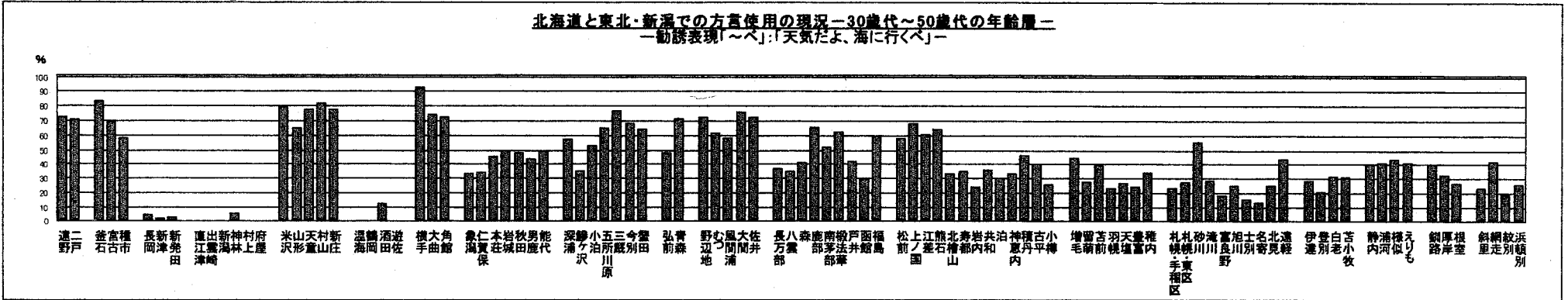
3.5 ■確認表現「～ダベサ」



◇「これ、こうやるんだベサ」を例文として、確認表現「～ダベサ」の使用を問う。

強くはないが、青森県、北海道で勢力があり、優勢である。青森県では、中央部、津軽半島部で同じような勢力で、下北半島部で優勢である。秋田県では、海岸部、内陸部ともに微弱である。山形県では、海岸部ではほとんど勢力がなく、内陸部では極めて微弱である。岩手県では、海岸部、内陸部ともに微弱な状況である。新潟県では、海岸部ではほとんど勢力がなく、内陸部では全く勢力が見られない。北海道では、道南方言圏で勢力の弱い地点が比較的多く見られるが、海岸部、内陸部で大きな差のない勢力状況である。

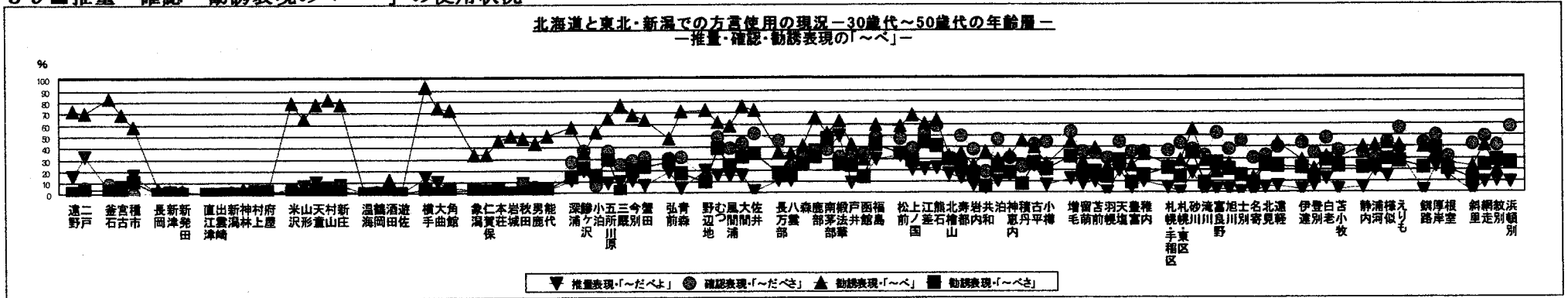
3.6 ■勧誘表現「～べ」



◇「天気だよ。海に行くべ。」を例文として、勧誘表現「～べ」の使用を問う。

青森県、秋田県、山形県、岩手県、北海道で勢力があり、青森県、秋田県の内陸部、山形県の内陸部、岩手県で優勢である。青森県では、中央部、津軽半島部、下北半島部で同じような勢力状況である。秋田県では、海岸部、内陸部ともに勢力があり、内陸部で優勢で、横手で強い勢力がある。山形県では、海岸部では酒田で弱い勢力が見られるものの、他の地点では全く勢力がなく、内陸部で強い勢力があり優勢である。岩手県では、海岸部、内陸部ともに強い勢力で、海岸部では南下するに従い強くなっている。新潟県では、海岸部ではほとんど勢力がなく、内陸部では微弱である。北海道では、道南方言圏で優勢で、太平洋側の亀田半島先端地域、松前寄りの福島、日本海側の南側地域で勢力がある。内陸部では、道央の砂川、オホーツク海側の遠軽で勢力があるが、道北では弱く、全体としては勢力は弱い状況である。大平洋側の胆振地域、オホーツク海側地域でも弱い傾向である。

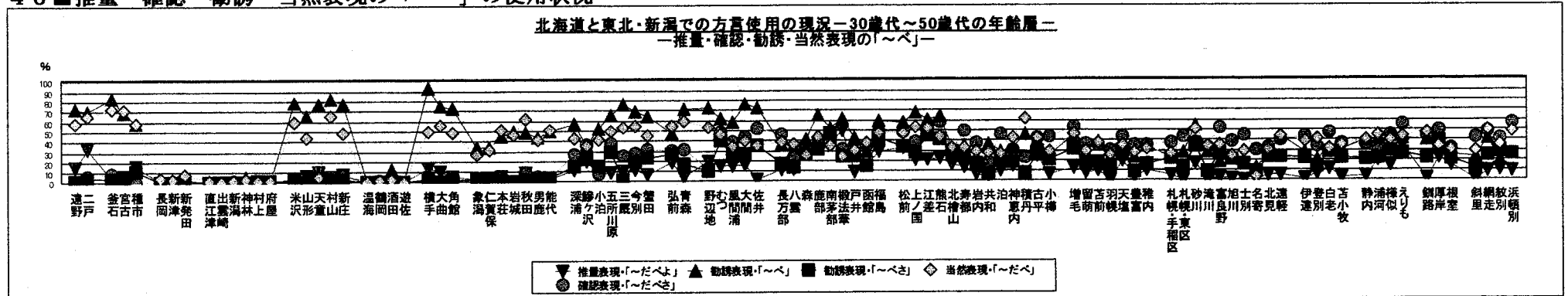
39 ■推量・確認・勧誘表現の「～べ」の使用状況



◇「明日は雪だべよ」「これ、こうやるんだべさ」「天気だよ。海に行くべ。」「その自然を撮った写真集いいべさ。」を例文として、「べ」の推量・確認・勧誘での用法の使用状況を見る。

推量「～ダベヨ」、確認「～ダベサ」、勧誘「～ベサ」は、秋田県、山形県、岩手県、新潟県では勢力が極めて弱い。青森県と北海道では勢力があり、その使用は、ほぼ、確認「～ダベサ」、勧誘「～ベサ」、推量「～ダベヨ」の順の状況である。勧誘「～べ」は、山形県の海岸部、新潟県ではほとんど勢力がないが、青森県、秋田県、山形県の内陸部、岩手県では優勢である。北海道では、道南方言圏の南側で優勢である。山形県の海岸部、新潟県を除いて、本州では勧誘「～べ」が他の用法に比べ極めて優勢なのに対し、北海道では推量「～ダベヨ」、確認「～ダベサ」、勧誘「～ベサ」と大差ない状況である。

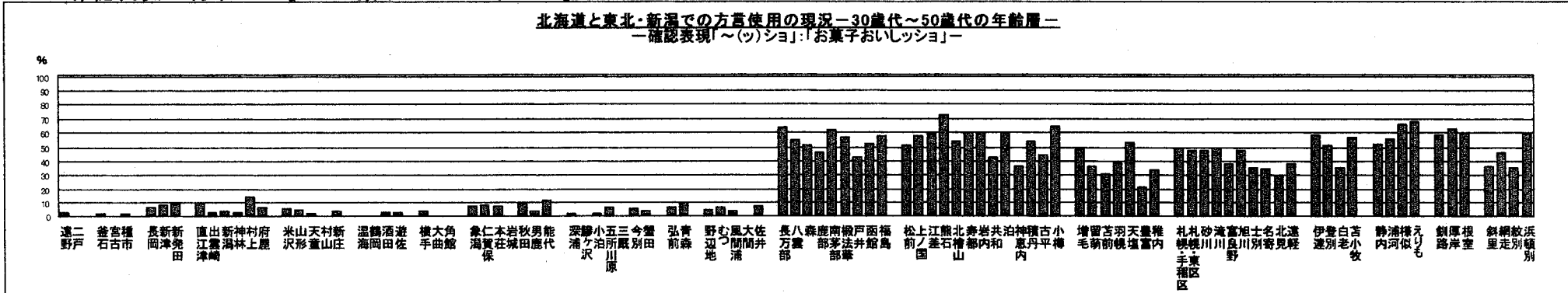
40 ■推量・確認・勧誘・当然表現の「～べ」の使用状況



◇「明日は雪だべよ」「これ、こうやるんだべさ」「天気だよ。海に行くべ。」「その自然を撮った写真集いいべさ。」「そりゃあそうだべ。」を例文として、「べ」の推量・確認・勧誘・当然での用法の使用状況を見る。

当然「～ダベ」の使用を、推量「～ダベヨ」、確認「～ダベサ」、勧誘「～ベサ」、勧誘「～べ」と比較してみると、勧誘「～べ」とほぼ近似した勢力状況である。青森県、秋田県の内陸部、山形県の内陸部では、勧誘「～べ」が優勢で、当然「～ダベ」がそれに次ぐ勢力である。北海道道南方言圏南側の熊石以南でも当然「～ダベ」は勧誘「～べ」に次ぎ勢力がある。秋田県の海岸部、北海道道南方言圏南側以外の地域では、勧誘「～べ」と当然「～ダベ」は拮抗した状況である。新潟県では、当然「～ダベ」も、海岸部ではほとんど勢力がなく、内陸部では極めて微弱な状況である。助詞「べ」は、山形県の内陸部と新潟県では、当然「～ダベ」、推量「～ダベヨ」、確認「～ダベサ」、勧誘「～ベサ」、勧誘「～べ」どれも勢力がない状況である。

4 3 ■ 確認表現「(ッ) ショ」:「お菓子おいしいッショ」

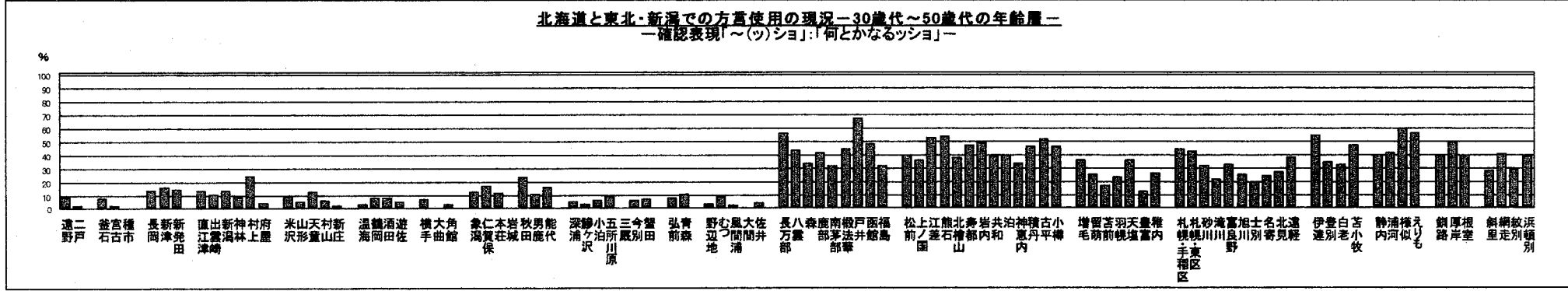


◇「このお菓子、おいッショ」を例文として、確認表現「～(ッ) ショ」の使用を問う。

北海道で勢力があり、優勢である。青森県では、津軽半島部、中央部、下北半島部で同じように微弱な勢力状況である。秋田県では、海岸部では微弱で、内陸部ではほとんど勢力がない。山形県では、海岸部ではほとんど勢力がなく、内陸部では微弱である。岩手県では、海岸部、内陸部ともにほとんど勢力がない。新潟県では、海岸部、内陸部ともに微弱である。

北海道では、道南方言圏、太平洋側の日高地域、道東地域で比較的優勢な傾向で、道南方言圏以北の日本海側地域、オホーツク海側、内陸部の道北とオホーツク海側には勢力の弱い地点が比較的多い状況である。

4 4 ■ 確認表現「(ッ) ショ」:「何とかなるッショ」

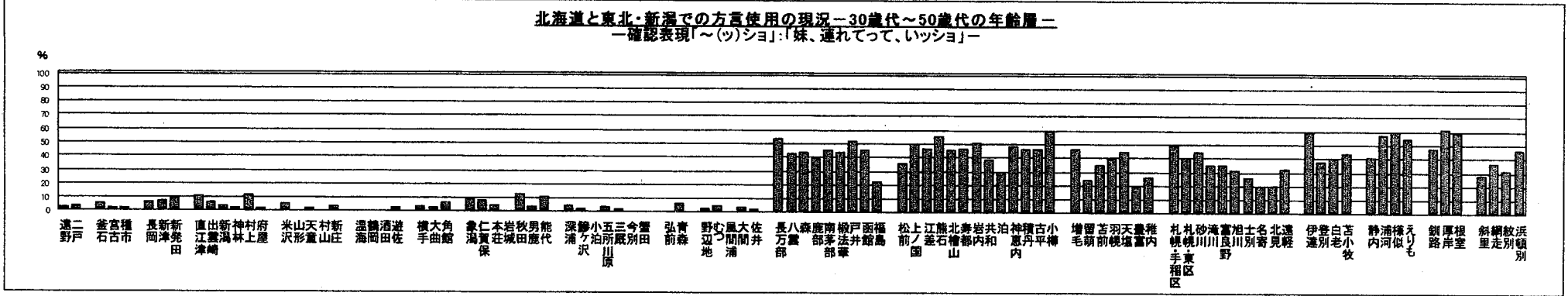


◇「何とかなるッショー。」を例文として、確認表現「～(ッ) ショ」の使用を問う。

北海道で勢力があり、優勢である。青森県では、津軽半島部、中央部、下北半島部で同じように微弱な勢力状況である。秋田県では、海岸部では弱く、内陸部では微弱である。山形県、岩手県では、海岸部、内陸部ともに微弱である。新潟県では、海岸部、内陸部ともに弱い状況である。

北海道では、道南方言圏、太平洋側の日高地域で比較的優勢な傾向で、道南方言圏以北の日本海側の北側、オホーツク海側、内陸部の道北とオホーツク海側では勢力の弱い地点が比較的多い状況である。

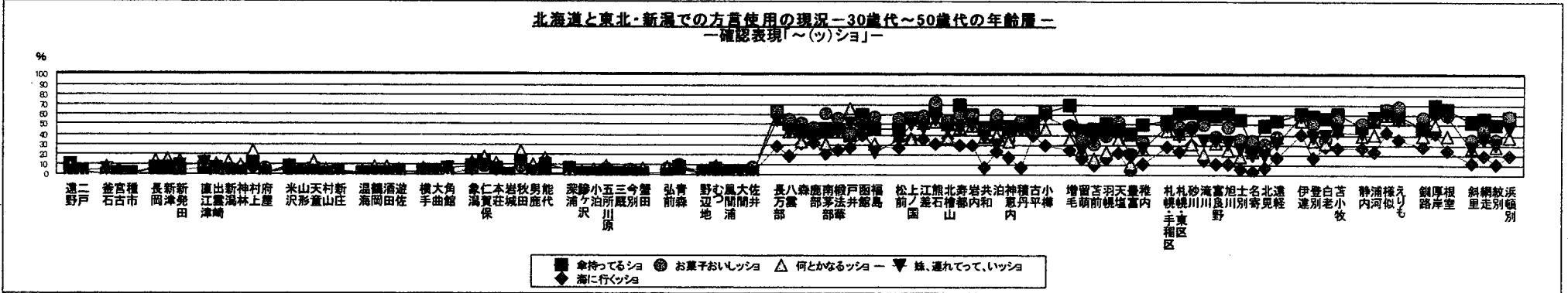
45 ■ 確認表現「(ッ) ショ」: 「妹、連れてって、いッショ」



◇ 「妹、連れてって、いッショ？」を例文として、確認表現「～(ッ) ショ」の使用を問う。

北海道で勢力があり、優勢である。青森県では、津軽半島部、中央部、下北半島部で同じように微弱な勢力状況である。秋田県では、海岸部では弱く、内陸部では微弱である。山形県では、海岸部ではほとんど勢力がなく、内陸部では微弱である。岩手県、新潟県では、海岸部、内陸部ともに微弱である。北海道では、道南方言圏、太平洋側の日高地域、道東地域で比較的優勢な傾向で、道南方言圏以北の日本海側、オホーツク海側、内陸部の道北とオホーツク海側では勢力の弱い地点が比較的多い状況である。

46 ■ 確認表現「(ッ) ショ」の使用状況



◇ 「傘持ってるショ」「海に行くッショ」「おいッショ」「何とかなるッショ」「いッショ」を例文として、確認表現「～(ッ) ショ」の使用状況を見る。

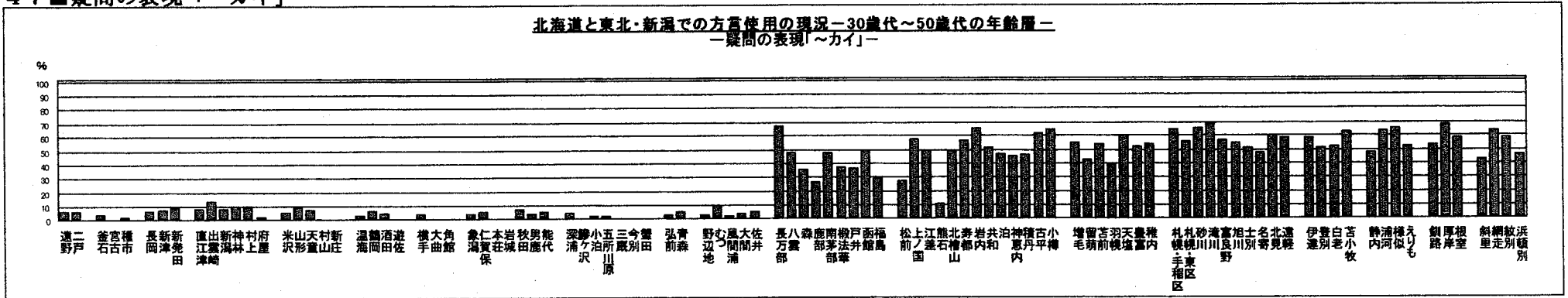
北海道で優勢である。青森県では、津軽半島部、中央部、下北半島部で同じように微弱である。秋田県では海岸部で弱く、内陸部では微弱である。山形県、岩手県では、海岸部、内陸部ともに微弱である。新潟県では、海岸部、内陸部ともに弱い勢力状況である。

北海道では、道南方言圏、太平洋側の日高地域、道東地域でいくぶん優勢な傾向で、道南方言圏以北の日本海側、オホーツク海側、内陸部の道北とオホーツク海側では勢力の弱い地点が比較的多い。

勢力のある北海道では、文例により勢力差が見られる。それは、上接語が日常の中で身近な生活語として使われているか否かという使用頻度、それぞれの文脈から表出されるニュアンス、情感の違いによるものと思われる。

* 1012.2.13. NHK 「たべもの」種子島・沖ヶ浜田 生え抜き男性(40歳代)「うまいッショ」を使用。
- 81 -

47 ■疑問の表現「～カイ」

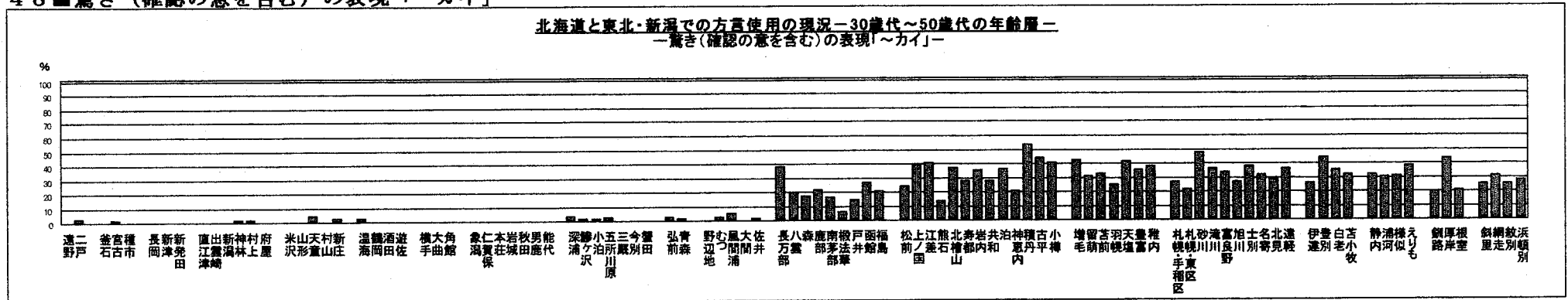


◇「鮎の生息の北限、北海道の余市カイ？」を例文として、疑問の表現「～カイ」の使用を問う。

北海道で勢力があり、優勢である。青森県では、津軽半島部、中央部、下北半島部で同じように微弱である。秋田県では、海岸部で微弱で、内陸部ではほとんど勢力がない。山形県、岩手県、新潟県では、海岸部、内陸部ともに微弱である。

北海道では、道南方言圏の南側で勢力の弱い地点が多く、日本海側の熊石では微弱である。道南方言圏以北の日本海側、オホーツク海側ではいくぶん勢力が弱い傾向である。太平洋側の胆振地域、日高地域、内陸部では、大きな勢力差は見られず、他の地域に比べてやや勢力がある傾向である。

48 ■驚き（確認の意を含む）の表現「～カイ」

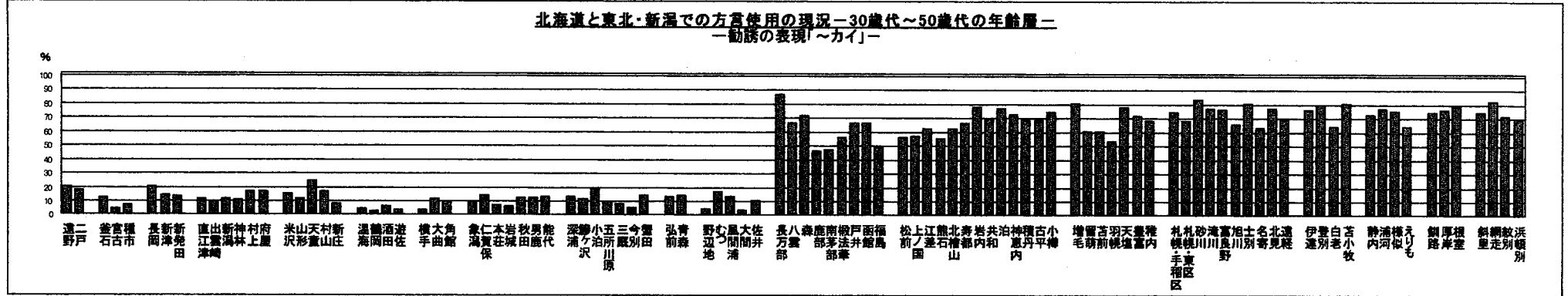


◇「石原裕次郎、小樽に居たことあるんだってカイ？」を例文として、驚き（確認の意を含む）の表現「～カイ」の使用を問う。

強くはないが、北海道で勢力があり、優勢である。青森県では、津軽半島部、中央部、下北半島部で極めて微弱である。秋田県では、海岸部、内陸部ともに全く勢力がない。山形県では、海岸部ではほとんど勢力がなく、内陸部でも極めて微弱である。岩手県では、海岸部、内陸部ともにほとんど勢力がない。新潟県では、海岸部ではほとんど勢力がなく、内陸部では全く勢力がない。

北海道では、道南方言圏太平洋側で勢力の弱い地点が多く、亀田半島先端地の榎法華では微弱である。日本海側でも勢力の弱い地点が比較的多く、南側の熊石、北側の積丹半島部の神恵内で弱い。太平洋側道東地域の釧路、根室、オホーツク海側でも比較的弱い、他の海岸部、内陸部では大きな勢力差は見られない状況である。

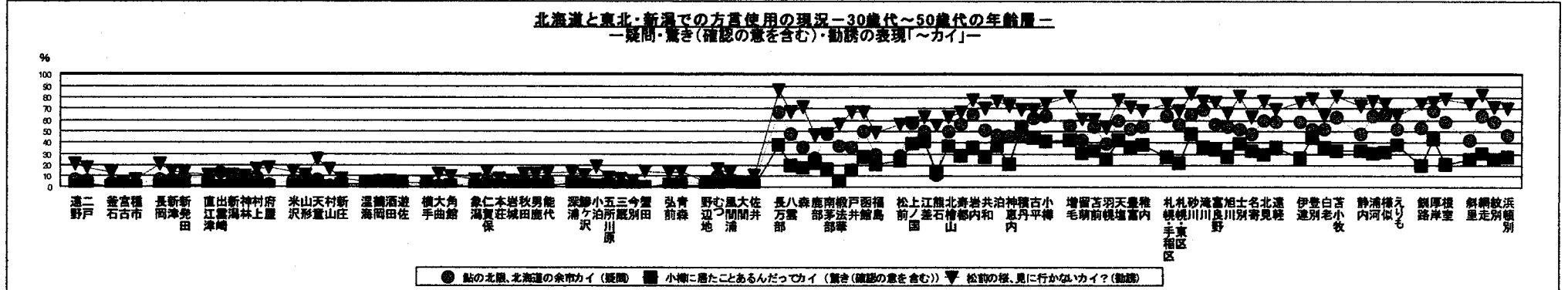
4 9 ■ 勧誘の表現「～カイ」



◇ 「松前の桜、見に行かないカイ？」を例文として、勧誘の表現「～カイ」の使用を問う。

北海道で勢力があり、優勢である。青森県では、津軽半島部、中央部、下北半島部で弱い状況である。秋田県では、海岸部、内陸部ともに弱い。山形県では、海岸部では微弱で、内陸部では弱い状況である。岩手県、新潟県では、海岸部、内陸部ともに弱い勢力である。北海道では、道南方言圏の太平洋側で勢力の弱い地点が多く、日本海側の南側でも比較的勢力の弱い地点が多い。道南方言圏以北の日本海側でも比較的勢力の弱い地点が多い。他の海岸部、内陸部では大きな勢力差は見られず、他の地域に比べてやや勢力がある状況である。

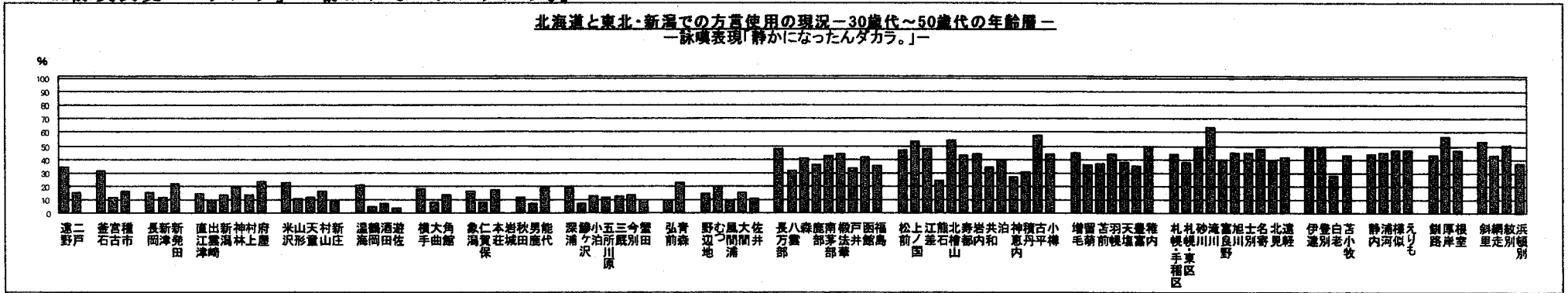
5 0 ■ 疑問の表現・驚き（確認）の表現・勧誘の表現「～カイ」の使用状況



◇ 「鮎の生息の北限、北海道の余市カイ？」「石原裕次郎、小樽に居たことあるんだってカイ？」「松前の桜、見に行かないカイ？」を例文として、疑問の表現・驚き（確認）の表現・勧誘の表現の「～カイ」の使用状況を見る。

青森県では、津軽半島部、中央部、下北半島部、でともに弱く、秋田県では海岸部、内陸部ともに弱い状況である。山形県では海岸部で微弱で、内陸部では弱い状況である。岩手県、新潟県では海岸部、内陸部ともに弱い勢力状況である。北海道では勢力があり、優勢である。道南方言圏の南側で勢力の弱い地点が比較的多い。道南方言圏以北の日本海側でもいくぶん勢力が弱い傾向である。太平洋側の胆振、日高、道東地域、オホーツク海側、内陸部では、大きな勢力差は見られず、他の地域に比べてやや勢力がある傾向である。本州側の各県では、勢力が弱い中、勧誘の表現「～カイ」がいくぶん優勢な傾向で、北海道でも勧誘の表現「～カイ」が優勢で、疑問がそれに次ぎ、驚き（確認の意を含む）の表現がそれらに比べて使用が少ない状況である。

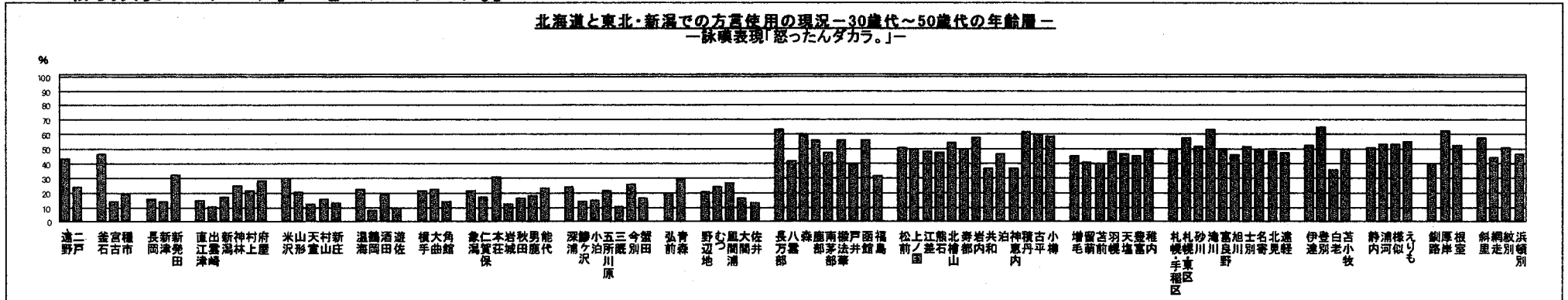
5 1 ■詠嘆表現「～ダカラ」:「静かになったんだカラ。」



◇「彼女、静かになったんだカラ。」を例文として、詠嘆表現「～ダカラ」の使用を問う。

強くはないが、北海道で勢力があり、優勢である。青森県では、津軽半島部、中央部、下北半島部で同じように弱い勢力状況である。秋田県では、海岸部、内陸部で同じように弱い勢力である。山形県では、海岸部、内陸部で同じように勢力は弱い、南側でいくぶん勢力がある状況である。岩手県では、海岸部、内陸部で同じように勢力は弱い、海岸部、内陸部ともに南側の釜石、遠野で比較的勢力がある状況である。新潟県では、海岸部、内陸部で同じように勢力は弱い、新潟以北の山形県寄りの地域でいくらか勢力がある傾向である。
北海道では、道南方言圏で比較的勢力の弱い地点が多い状況であるが、海岸部、内陸部で大きな差が見られない状況である。

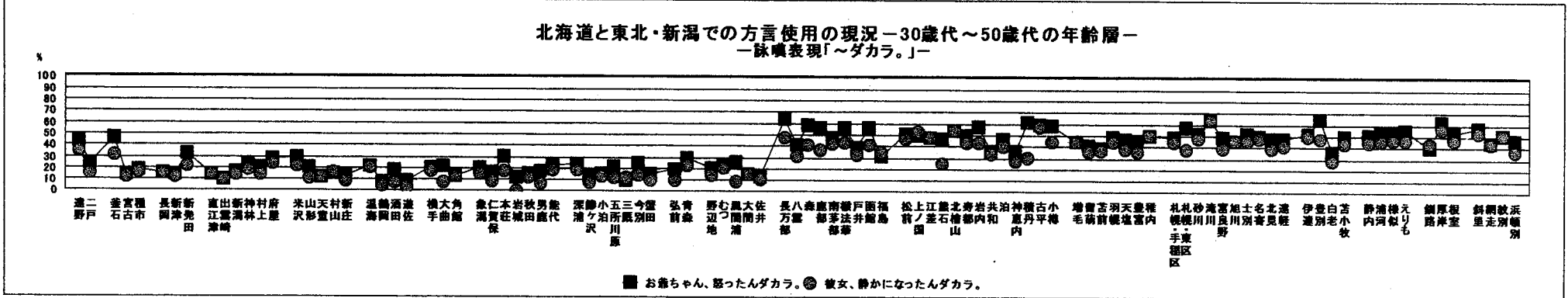
5 2 ■詠嘆表現「～ダカラ」:「怒ったんだカラ。」



◇「おじいちゃん、怒ったんだカラ。」を例文として、詠嘆表現「～ダカラ」の使用を問う。

北海道で勢力があり、優勢である。青森県では、津軽半島部、中央部、下北半島部で同じように弱い勢力状況である。秋田県では、海岸部、内陸部で同じように弱い勢力状況である。山形県では、海岸部、内陸部で同じように勢力は弱い、内陸部の南側米沢ではいくぶん勢力がある状況である。岩手県では、海岸部、内陸部で同じように勢力は弱い、南側で勢力がある状況である。新潟県では、海岸部、内陸部で同じように勢力が弱い、新潟以北の山形県寄りではいくぶん勢力がある状況である。
北海道では、道南方言圏で比較的勢力の弱い地点が多い状況であるが、海岸部、内陸部で大きな差が見られない状況である。

5.3 ■ 詠嘆表現「～ダカラ」の使用状況

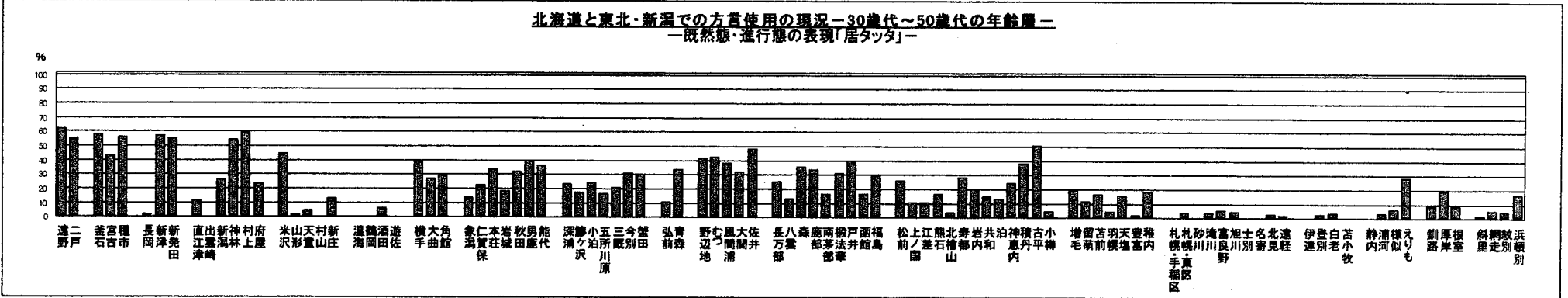


◇ 「おじいちゃん、怒ったんだカラ。」 「彼女、静かになったんだカラ。」 を例文として、詠嘆表現「～ダカラ」の使用状況を見る。

「怒ったんだカラ」と「彼女、静かになったんだカラ」で「～ダカラ」の使用状況を見ると、ともに、北海道で優勢である。青森県、秋田県では同じように弱い勢力である。山形県では勢力は弱い、南側でいくぶん勢力がある状況である。岩手県では勢力は弱い、海岸部、内陸部ともに南側の釜石、遠野で比較的勢力がある状況である。新潟県では勢力は弱い、新潟以北の山形県寄りの地域でいくらか勢力がある状況である。北海道では、道南方言圏でいくぶん勢力の弱い地点が多い状況であるが、海岸部、内陸部で大きな差が見られない状況である。

「怒ったんだカラ」がいくぶん優勢に見受けられるが、有意な差とは思われない。上接語の語性が関連しているところから来る差であろうか。

5.4 ■ 已然態・進行態の表現「～タッタ」:「居タッタ」

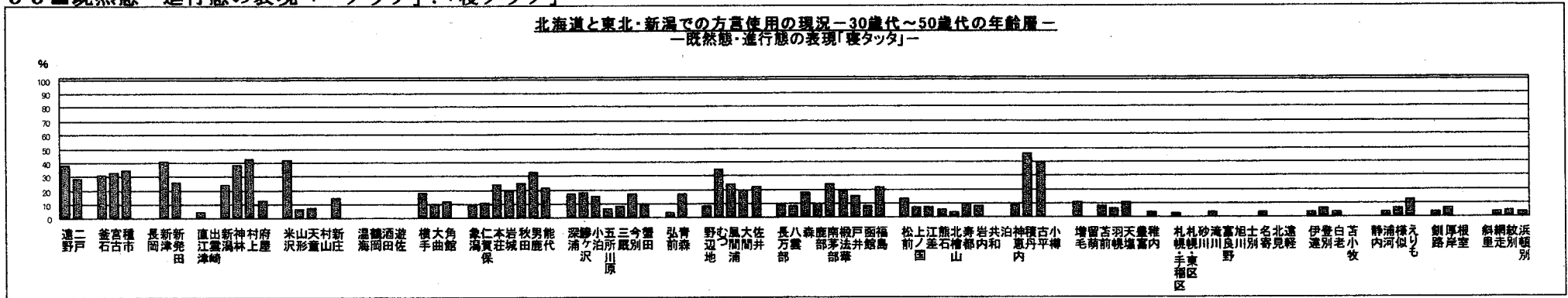


◇ 「お姉ちゃん、元気で居タッタよ。」 を例文として、已然態・進行態の表現「～タッタ」の使用を問う。

岩手県、新潟県で勢力があり、優勢である。次いで、青森県、秋田県、北海道で勢力が見られる。青森県では、津軽半島部、中央部に比べ、下北半島部で勢力がある。秋田県では、海岸部、内陸部で同じような勢力状況であるが、海岸部では秋田以南に勢力の弱い地点が多い。山形県では、海岸部ではほとんど勢力がなく、内陸部では米沢で勢力があるが、他の地点では微弱である。岩手県では、海岸部、内陸部ともに同じように勢力がある。新潟県では、海岸部、内陸部ともに新潟以北の地点で勢力があるが、山形県寄り海岸部の府屋では勢力が弱い。

北海道では、道南方言圏で勢力があり、太平洋側と日本海側の北側の積丹半島部で優勢である。道南方言圏以北の日本海側では弱く、太平洋側の日高地域では先端地えりもでは勢力があるが、他の地点では微弱で、道東地域、オホーツク海側の地域では弱く、胆振地域と内陸部では微弱である。

5 5 ■ 已然態・進行態の表現「～タッタ」:「寝タッタ」

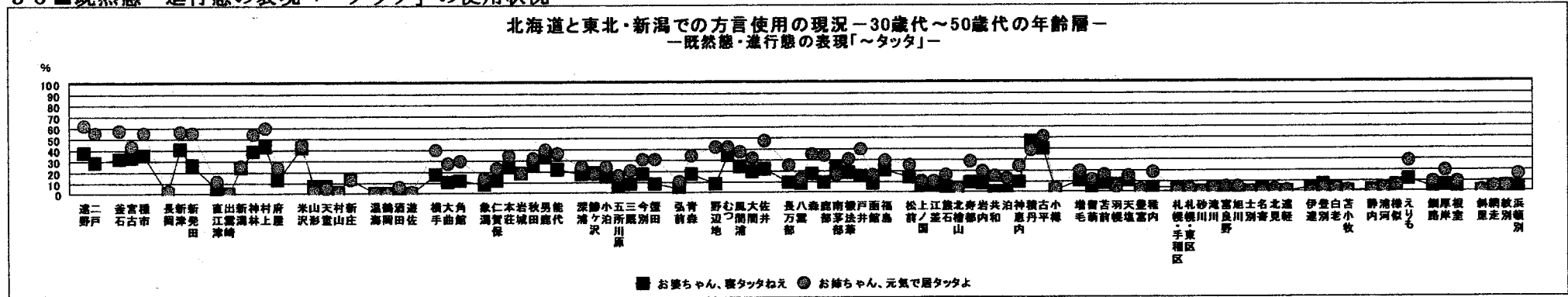


◇ 「おばあちゃん、寝タッタねえ。」を例文として、已然態・進行態の表現「～タッタ」の使用を問う。

強くはないが、岩手県、新潟県で勢力があり、優勢である。次いで、青森県、秋田県、北海道で勢力が見られる。青森県では、津軽半島部、中央部に比べ、下北半島部で勢力がある傾向である。秋田県では、海岸部でいくぶん勢力がある状況であるが、秋田以南で勢力の弱い地点が多い。内陸部では弱い。山形県では、海岸部では全く勢力がなく、内陸部では米沢で勢力があるが、他の地点では微弱である。岩手県では、海岸部、内陸部ともに同じような勢力状況である。新潟県では、海岸部、内陸部ともに新潟以北の地点で勢力があるが、山形県寄り海岸部の府屋では弱い。

北海道では、道南方言圏日本海側の北側の積丹半島部で勢力があるが、太平洋側、日本海側の他の地点では微弱である。道南方言圏以北の日本海側、太平洋側の胆振地域、日高地域、道東地域、オホーツク海側の地域では微弱で、内陸部では極めて微弱である。

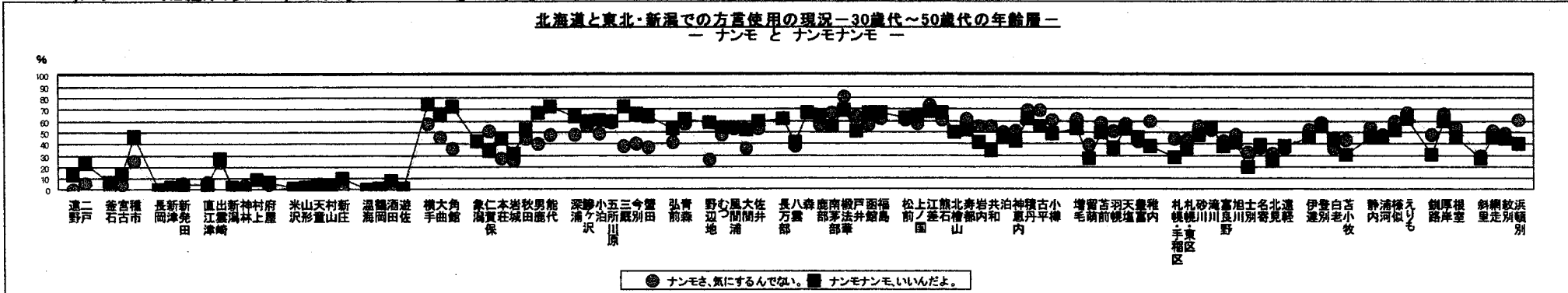
5 6 ■ 已然態・進行態の表現「～タッタ」の使用状況



◇ 「おばあちゃん、寝タッタねえ。」「お姉ちゃん、元気で居タッタよ。」を例文として、已然態・進行態の表現「～タッタ」の使用状況を見る。

強くはないが、岩手県、新潟県で優勢である。次いで、青森県、秋田県、北海道で勢力がある。青森県では下北半島部で比較的勢力がある。秋田県では海岸部でいくぶん勢力があるが、秋田以南で弱い地点が多い。山形県では、海岸部と米沢以外の内陸部では勢力がないが、米沢では勢力がある。岩手県では海岸部、内陸部で同じような勢力である。新潟県では新潟以北で勢力があるが、山形県寄り海岸部の府屋では弱い。北海道では、道南方言圏日本海側の北側の積丹半島部で勢力があるが、他の地点では弱い。道南方言圏以北の日本海側では弱く、太平洋側の胆振、日高、道東地域、オホーツク海側では微弱で、内陸部では極めて微弱である。勢力が見られる岩手県、新潟県、青森県、秋田県、北海道の道南方言圏では、「居タッタ」が優勢な状況である。

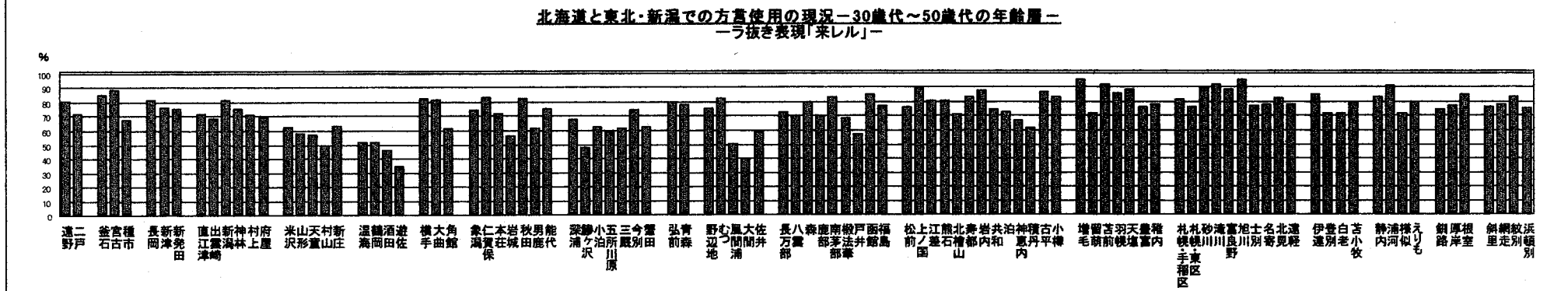
59 ■相手への配慮表現：単独表現「ナンモ」と回復表現「ナンモナンモ」の使用状況



◇「世話になったな。」「ナンモさ。」と「やあ、すまないね。」「ナンモナンモ、いんだよ。」を例文として、相手への配慮表現「ナンモ」と「ナンモナンモ」の使用状況を見る。

青森県、秋田県、北海道で勢力があり、優勢である。青森県では津軽半島部でいくぶん優勢な傾向である。秋田県では海岸部では秋田以南では弱いが、秋田以北青森県寄りの能代、男鹿、内陸部では強い勢力がある。山形県ではほとんど勢力がない。岩手県では青森県寄り海岸部の種市で勢力があるが、他の地点では弱い。新潟県では海岸部南側の出雲崎で弱いながらも勢力が見られるが、他の地点では微弱である。北海道では、道南方言圏で優勢な傾向で、内陸部に比べて海岸部で勢力があり、内陸部では道北、オホーツク海側の地域でいくぶん勢力が弱い。青森県、秋田県、岩手県では「ナンモナンモ」が優勢、北海道の道南方言圏南側以外の地域では「ナンモ」が優勢な傾向で、道南方言圏南側の地域では「ナンモナンモ」と「ナンモ」が拮抗している状況である。

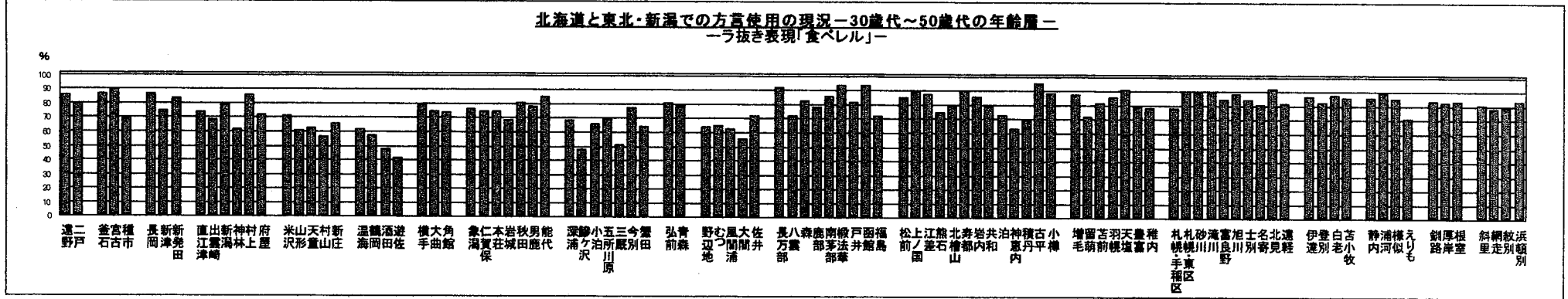
60 ■ラ抜き表現：「来レル」



◇「今日中に出て来レル？」を例文として、ラ抜き表現「～レル」の使用を問う。

秋田県、岩手県、新潟県、北海道で勢力が強く、北海道でいくぶん優勢な傾向である。次いで青森県で勢力があり、山形県では、それらに比べて勢力が弱い状況である。青森県では、中央部で優勢な傾向で、下北半島部では先端地域で弱い。秋田県では、海岸部、内陸部でもともに勢力がある。山形県では、内陸部で優勢で、海岸部では弱いが南下するに従い勢力が増えている状況である。岩手県、新潟県では、海岸部、内陸部ともに勢力が強い。北海道では、海岸部、内陸部ともに強い勢力であるが、道南方言圏太平洋側の亀田半島先端地域、日本海側北側の積丹半島先端地で比較的勢力の弱い状況である。道南方言圏に比べ、他の海岸部、内陸部で比較的優勢な傾向である。

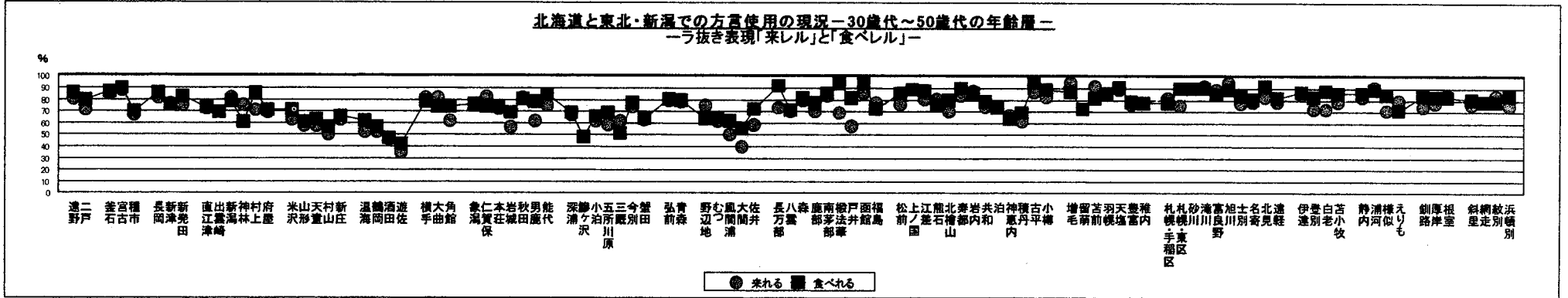
6.1 ■ラ抜き表現：「食ベレル」



◇「いちご、食ベレルよくなればいいね。」を例文として、ラ抜き表現「～レル」の使用を問う。

秋田県、岩手県、新潟県、北海道で勢力が強く、北海道でいくぶん優勢な傾向である。次いで青森県で勢力があり、山形県では、それらに比べて勢力が弱い状況である。青森県では、中央部で優勢な傾向で、津軽半島部、下北半島部ではいくぶん弱い。秋田県では、海岸部、内陸部でともに勢力がある。山形県では、内陸部で優勢で、海岸部では弱い南下するに従い勢力が増している状況である。岩手県、新潟県では、海岸部、内陸部でともに勢力が強い。北海道では、海岸部、内陸部ともに勢力が強いが、道南方言圏日本海側北側の積丹半島先端地で比較的勢力の弱い状況である。

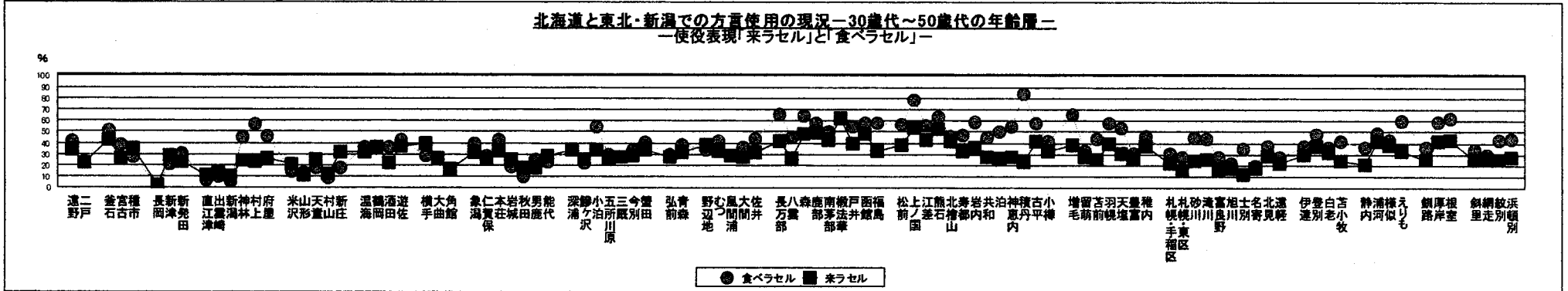
6.2 ■ラ抜き表現の使用状況



◇「今日中に出て来レル?」「いちご、食ベレルよくなればいいね。」を例文として、ラ抜き表現「～レル」の使用状況を見る。

秋田県、岩手県、新潟県、北海道で勢力が強く、北海道でいくぶん優勢な傾向である。次いで青森県で勢力があり、山形県では、それらに比べて勢力が弱い。青森県では中央部で優勢な傾向で、下北半島部では先端地域で弱い。秋田県では勢力がある。山形県では、内陸部で優勢で、海岸部では弱い南下するに従い勢力が増えている状況である。岩手県、新潟県では勢力が強い。北海道では勢力が強いが、道南方言圏日本海側北側の積丹半島先端地で比較的勢力が弱い状況で、道南方言圏に比べ他の地域では比較的優勢である。「来レル」と「食ベレル」の使用は、ほぼ拮抗している状況で、「来レル」と「食ベレル」の間には有意な使用差は認められない。

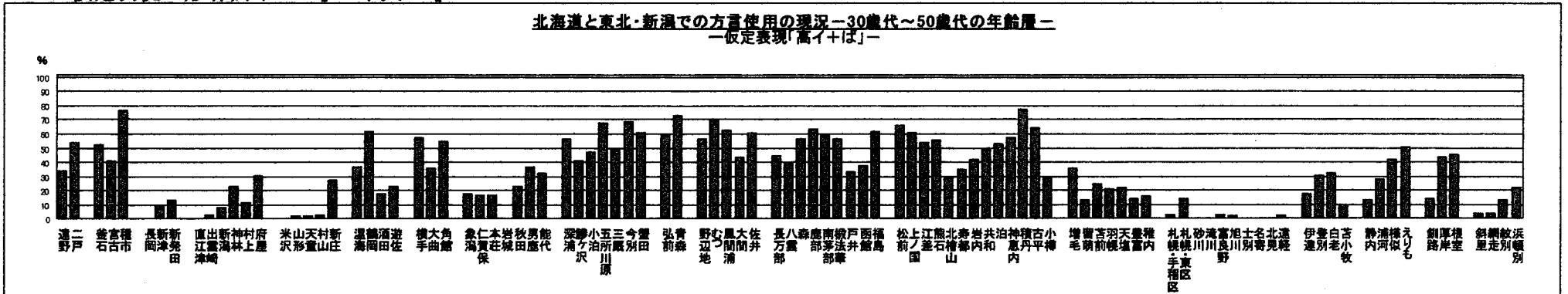
6 5 ■使役表現「～ラセル」の使用状況



◇「時間になったら、弟に夕食を食ベラセルんだよ。」「あんたのところに、あの子を、来ラセルようにするからね。」を例文として、使役表現「～ラセル」の使用状況を見る。

北海道で優勢で、青森県、秋田県、山形県、岩手県、新潟県でも勢力がある。青森県では津軽半島部の小泊で強い勢力である。秋田県では秋田以南で勢力があり、海岸部で優勢である。山形県では海岸部で優勢で、内陸部では弱い。岩手県では南側で優勢である。新潟県では新潟以北で強く、海岸部で優勢である。北海道では道南方言圏で優勢で、日本海側の南側と北側の積丹半島先端地で強い。オホーツク海側ではいくぶん弱く、内陸部では弱い地点が多い。「食ベラセル」と「来ラセル」の使用は、北海道と新潟県の新潟以北の海岸部で「食ベラセル」が優勢な状況で、上接語の語性によるか、とも思われる。

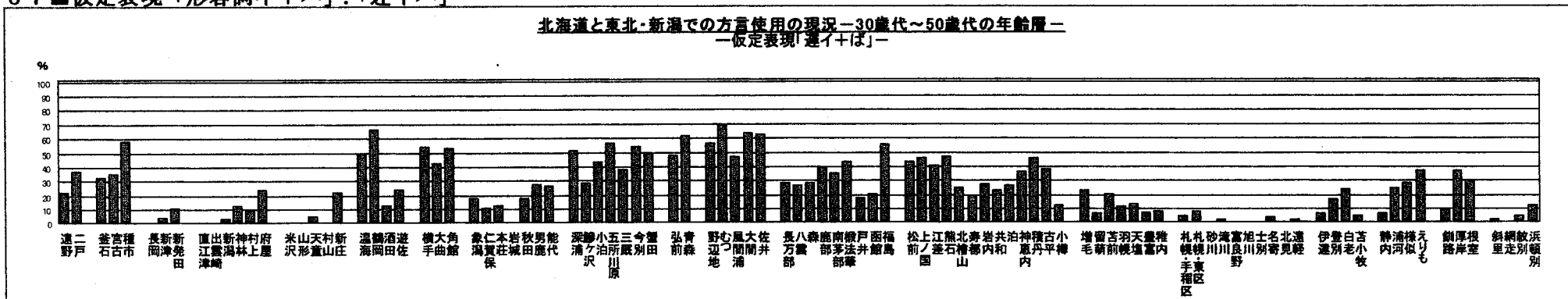
6 6 ■仮定表現「形容詞イ+バ」：「高イバ」



◇「欲しいけど、高イバ買わないよ。」を例文として、仮定表現「形容詞イ+バ」の使用を問う。

青森県、秋田県、山形県、岩手県、北海道で勢力があり、青森県、北海道で優勢である。青森県では、津軽半島部、中央部、下北半島部で大差のない勢力状況である。秋田県では、海岸部では秋田以北青森寄り、男鹿では他の地点より勢力があるが、秋田以南では弱い状況で、内陸部で優勢である。山形県では、海岸部で優勢で、南側で勢力があり、内陸部では北側の新庄で勢力が見られるが、他の地点では極めて微弱である。岩手県では、海岸部、内陸部ともに青森寄りで勢力があり、海岸部でいくぶん優勢な状況である。新潟県では、新潟以北の山形寄り、日本海側の南側と北側の積丹半島先端地域で勢力が強い。北海道では、海岸部で勢力があり、道南方言圏で優勢で、太平洋側亀田半島先端地域、福島、日本海側の南側と北側の積丹半島先端地域で勢力が強い。太平洋側の日高地域、道東地域ではそれぞれ先端地域で比較的勢力がある。道南方言圏以北日本海側では弱く、内陸部では微弱である。

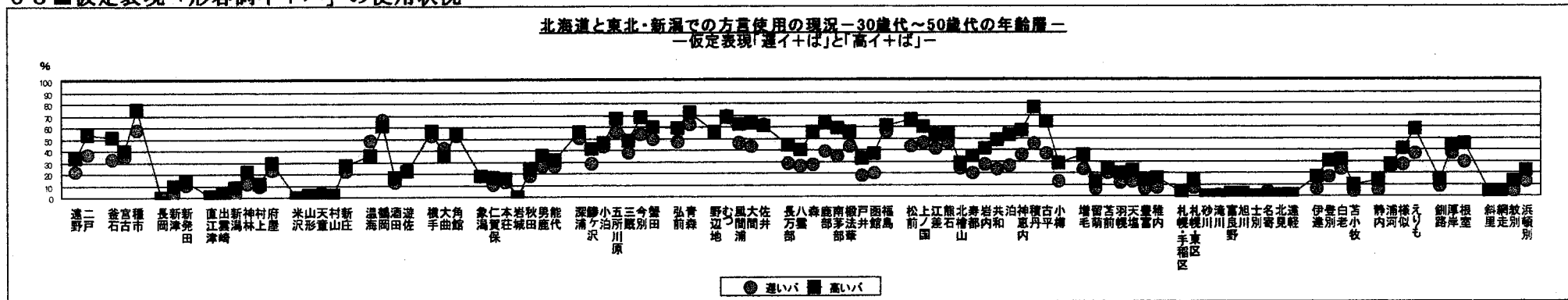
67 ■ 仮定表現「形容詞イ+バ」:「遅イバ」



◇ 「開演遅イバ、帰りが遅くなるしね。」を例文として、仮定表現「形容詞イ+バ」の使用を問う。

青森県、秋田県、山形県、岩手県、北海道で勢力があり、青森県で優勢である。青森県では、下北半島部で比較的優勢である。秋田県では、海岸部で勢力が弱く、秋田以南でより弱い状況で、内陸部で優勢である。山形県では、海岸部で優勢で、南側で勢力があり、内陸部では北側の新庄で勢力があるが、他の地点ではほとんどない。岩手県では、海岸部、内陸部ともに青森県寄りで勢力があり、海岸部で優勢である。新潟県では北寄りで弱い勢力である。北海道では、海岸部で勢力があり、道南方言圏で優勢で、太平洋側亀田半島先端地域、松前寄りの福島、日本海側の南側と北側の積丹半島先端地域で強い。太平洋側の日高地域、道東地域では先端地域で比較的勢力がある。道南方言圏以北の日本海側、オホーツク海側では弱く、内陸部では微弱である。

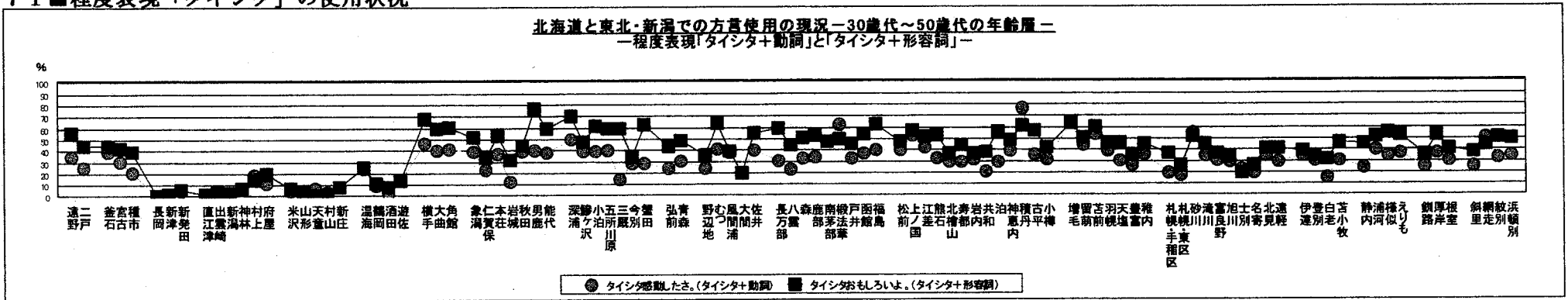
68 ■ 仮定表現「形容詞イ+バ」の使用状況



◇ 「欲しいけど、高イバ買わないよ。」「開演遅イバ、帰りが遅くなるしね。」を例文として、仮定表現「形容詞イ+バ」の使用状況を見る。

青森県、北海道で優勢で、秋田県、山形県、岩手県でも勢力がある。青森県では下北半島部でやや優勢な傾向である。秋田県では海岸部では秋田以北青森県寄りで勢力があるが、秋田以南では弱く、内陸部で優勢である。山形県では海岸部で優勢で、南側で勢力があり、内陸部では北側の新庄で勢力があるが、他の地点では極めて微弱である。岩手県では青森県寄りで勢力があり、海岸部で優勢である。新潟県では新潟以北の山形県寄り海岸部でいくぶん勢力があり、内陸部では弱い。北海道では海岸部で勢力があり、道南方言圏で優勢で、太平洋側亀田半島先端地域、福島、日本海側の南側と北側の積丹半島先端地域で勢力が強い。太平洋側の日高、道東地域では先端地域で勢力がある。道南方言圏以北日本海側、オホーツク海側では弱く、内陸部では微弱である。「高イバ」と「遅イバ」の使用では、青森県、岩手県、北海道で「高イバ」が比較的優勢な使用状況で、日常での使用の頻度差によるか、と思われる。

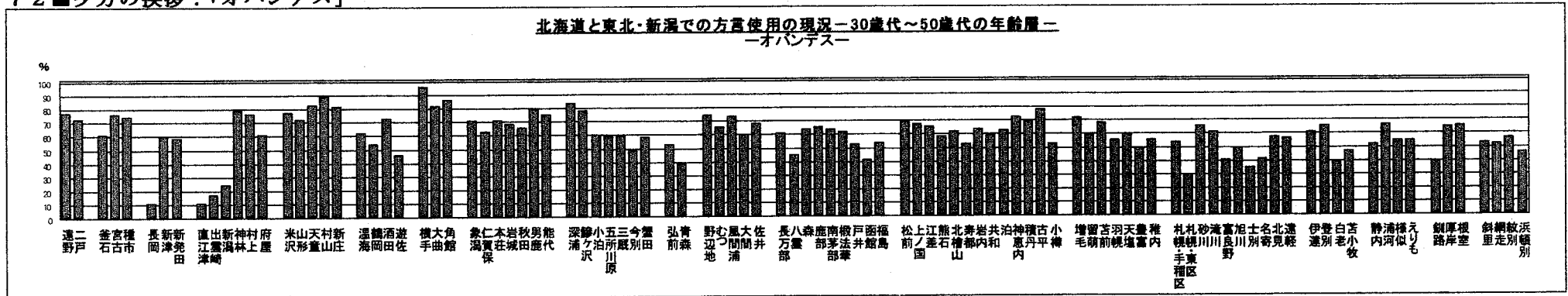
71 ■程度表現「タイシタ」の使用状況



◇「あの遊び、タイシタおもしろいよ。」「昨日のドラマ、タイシタ感動したさ。」を例文として、程度表現「タイシタ」の使用状況を見る。

青森県、秋田県、北海道で優勢で、岩手県でも勢力がある。青森県では津軽半島側で優勢である。秋田県では海岸部で秋田以北青森県寄りの能代、男鹿で勢力があるが、秋田以南では比較的勢力の弱い地点が見られ、内陸部で優勢である。山形県では海岸部では弱く、内陸部では微弱である。岩手県では海岸部、内陸部で大きな差は見られない。新潟県では海岸部では弱く、新潟以南では極めて微弱である。内陸部ではほとんど勢力がない。北海道では道南方言圏、道南方言圏以北の日本海側で優勢な傾向である。形容詞を修飾する用法と動詞を修飾する用法では、青森県、秋田県、岩手県、北海道の海岸部では形容詞を修飾する用法が優勢で、北海道の内陸部では形容詞を修飾する用法と動詞を修飾する用法が拮抗しているような状況である。

72 ■夕方の挨拶：「オバンドス」



◇「こんばんわ」を意味する「オバンドス」の使用を問う。

青森県、秋田県、山形県、岩手県、新潟県、北海道で勢力があり、新潟県を除いて優勢である。青森県では、津軽半島部、下北半島部で優勢で、中央部ではそれに比べ勢力が弱い。津軽半島部では秋田県寄り海岸部の鱒ヶ沢、深浦で勢力がある。秋田県では、海岸部、内陸部ともに勢力があり、内陸部で優勢である。山形県では、内陸部で優勢である。岩手県では、海岸部、内陸部で同じような勢力状況である。新潟県では、海岸部、内陸部とともに新潟以北山形県寄りの地域、海岸部では府屋、村上、神林、内陸部では新発田、新津で優勢で、新潟以北では勢力が弱い状況である。

北海道では、海岸部、内陸部で大きな勢力差はないが、海岸部ではオホーツク海側でやや勢力が弱い状況で、内陸部では勢力の弱い地点が比較的多い状況である。

国立国語研究所共同研究報告 12-01

接触方言学による『言語変容類型論』の構築
—北海道と東北・新潟の30歳代から50歳代における方言の地理的勢力分布—

2012年7月15日発行

編者：見野久幸，朝日祥之

発行：大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国立国語研究所

〒190-8561 東京都立川市緑町10-2

電話 042 (540) 4300 (代表)

<http://www.ninjal.ac.jp/>

©国立国語研究所

ISBN 978-4-906055-19-7

ISSN 2185-0127

Contact dialectology and sociolinguistic typology:
Geographical distribution of the dialect in
their 30s, 40s and 50s of Tohoku, Niigata and Hokkaido

Hisayuki Kenno, Yoshiyuki Asahi (Eds.)

July 2012

National Institute for Japanese Language and Linguistics